

## 一、バルカン工作の遅延

第二次大戦の當初から五大強國以外の諸小國はチエッコスロヴァキアの無血合併、ポーランド電撃滅亡を自撃してより、北歐のオスロ協商六國(芬蘭、瑞典、挪威、丁抹、和蘭、白耳義)は戦々兢々、南歐のバルカン聯盟の六國(ハンガリー、ルーマニア、ユーゴスラヴ、ブルガリア、希臘、土耳其)は亦歸趨に迷ふて居た。此等小國は何れも保境安民を標榜し、戦禍に捲き込まれぬよう中立維持を念願として居た。併し佛前首相レイノーの警句の通り最早や歐洲に中立國なしで、自己の欲すると欲せざるとに拘らず、英、佛、獨、伊、蘇聯の五大強國の間に介在する諸國は所謂「地理の虜」になつて早晩合併、征服、侵略の運命を免れない。古來此の如く相對峙する數強國の間に介在する諸小國が、不安状態から脱出するの途は相互援助の聯盟を結ぶにあり、假令其の個々の勢力は小なりと雖も、之れを綜合すれば相當の威力を發揮し、大國間の勢力の平衡を保たしめることが最も賢明な自衛方法である。中立ブロックを眞劍に構成することが最も確實なる安全保障である。筆者は北歐六國のオスロ協商と南歐六國のバルカン聯盟の眞劍な強化、即ち軍事的政治的經濟的同盟化の必要を前章に於て痛論し、且つオスロ協商もバルカン聯盟も徒らに右顧左眈確乎たる決意を缺き、爲めに見す見す崩壊没落の悲運を辿る情勢を記述した。

加之此の中立ブロックたるべき南北兩國家群の崩壊は孰れが先きか。獨伊對英佛の抗戦は長期たるべき情勢より推論して獨伊は先づバルカン問題を處理し準備成つて後ち英佛擊破の爲めに北歐諸小國を侵略するであらうとは

一般の観測であつた。換言すれば南歐バルカン聯盟先づ崩壊して、後に北歐オスロ協商が摧破せらるゝものと思はれた。然るに大戦第一年の冬を過ぎて一九四〇年春先づオスロ協商が電撃戰の犠牲となり、意外にもバルカン聯盟が今猶ほ餘命を保つて大戦第二年の冬に入らんとして居る。何が故に眞先きに處分せらるべきバルカンが今日迄小康を保つて来たか、其の内外の政情から見ても破滅し易き脆弱なバルカン聯盟の早晩來るべき運命が猶ほ不明なのは何が故か。バルカン聯盟の行方や如何。以下少しく所見を開陳して見よう。

オスロ協商の各國の内部は、これをバルカン諸國に比較して異人種の混住、階級の闘争もなく、渾然ホモゼニアスな民族國家をなして居り、容易に外部より之れを攪亂し難き統一國家であつた。又其等諸小國の利害も一致して、バルカン諸國の如き歴史的人種的怨恨もなく、一朝事あらば其の聯盟結成も容易であつた。國際政治情勢から見て獨英佛の三強國が生死を賭する決戦を餘儀なくせらるゝ迄は、却つて三國間に介在する緩衝地帯としてオスロ協商の存在を便利なりとする理由もあり、中立ブロックとして存立の可能性が強かつた。殊に經濟的見地よりすれば獨逸も英吉利も食糧軍需資料の輸入の抜け路として、此等の諸國が中立を嚴守することを内心希望する理由なきしも非らずであつた。併し之れは一方獨逸他方英佛に於て双方共に速戦必勝の確信を準備とが完成する迄の停止状態に過ぎなかつた。殊に獨逸はポーランド征服後雖も慎重の態度を持し、英佛擊破の準備として軍需物資の確保に全力を注ぎ、バルカン工作に腐心して居た。然るに諾威戰に於て英佛側は其の戰爭準備の頗る貧弱にして、作戰の不統一と拙劣を曝露した。之れを見抜いたヒトラーは電光石火、和蘭白耳義の侵略、フランダールの大決戦を斷行

して、赫々たる大勝を博したのは周知の通りである。此の英佛の不準備の醜態は、最後の守備線と頼んだマチノ要塞線並に續く白佛國境の急造要塞線所謂ダラチエ線の案外貧弱なことが終に佛國降服の悲劇となつた。第三國の軍事評論家が英佛の敗戦獨逸の大勝の理由を説いて

獨逸は今次の大戦の爲めに必死の準備をなし、佛蘭西は過去の大戦の準備をなした。英吉利に至つては何れの大戦にも何等の準備をなさなかつた。

と評して居るが、實に簡明直截に真相を穿つて居る。此の英佛の不準備こそ意外に早くオスロ協商諸小國の崩壊を來し、之れに反してバルカン聯盟の處理を後廻はしにした重大原因である。

### 三、英國侵撃戰の延期

さりながら崩壊か改造か何れの途、強國の政策、作戰の決意如何によつて調理せらるべき運命の廻上に横はるバルカン諸國は、俄然外交戰進んで實力戰の舞臺となつた。一九四〇年八月廿四日に始まつた獨逸の英本土空爆の激戦は既に二ヶ月に亘り、未だ決勝の段落に達せざるに、十月獨逸は戰を轉じてバルカンに向つた。英米は固より第三國の軍事評論家は此年十月中旬迄に、遮二無二英上陸作戰か決行せられ、英本國の占領、英帝國の崩壊は唯だ時間の問題であると論じ、我邦に於ても一般にしかく信じられて居た。然るに十月に入りても獨逸の大軍は白佛の海岸に屯して靜なること林の如く、強靱を特色とする英國國民は晝夜連續の空襲下に抗戰して容易に悲鳴を擧げない。

さてはヒトラーの英上陸作戰の齟齬を談ずるものあり、今や大戦第二年の嚴冬を迎へて上陸戰は一九四一年春に持越さるべしとの觀測は一般の常識となつた程である。神算を深く胸中に藏するヒトラーの今後の作戰を輕率に臆斷し、或は其の戰略の失敗を云々し、或は必ずや電撃の急襲を近く決行すべしと斷ずるは、共に早計に失すと云ふべきであらう。今日迄作戰と政略とを巧みに併用し、最好の機會と最弱の地點とを選んで、必勝の確信を以て初めて大事を決行するヒトラーが、單なる武將の戰術に没頭して、甚大の犠牲を物ともせず遮二無二英本土上陸戰を決行すべしと斷定した第三國の軍事評論家が、抑々ヒトラーを解せざること最も甚だしきものである。少くとも大向ふの大衆の喝采を博する英上陸急襲戰なるものは、ヒトラー自身一度も言明したことはない。却つて倫敦空爆の前日一九四〇年九月四日の演説に於てヒトラーは大戦の長期繼續を覺悟して居るのだ。曰く

戰爭は今後三年間續くといはれる。然し予はゲーリング元帥に五年間戰爭を繼續し得るやう準備せよと命令して置いた。但し予が戰爭は五年間續くと信じたが故ではない。

少くも獨逸が世俗の待ち焦るゝ英上陸作戰を急速に決行せざるこゝだけは常識からも推斷出来る。

第一に 英の大軍が土着かずに猶ほ嚴存し、獨逸が未だ完全に制海權を獲得し居らざるこゝから見て、假令英吉利海峡が短距離航海にせよ大軍の輸送は冒險である。

第二に 獨逸の空軍の差異は、其の數に於て其の質に於て二對一以上で、獨逸の絕對優勢は論なき處であるが英空軍の全滅に近き打撃なくして、制空權の完全獲得は至難の事である。現に空前の大爆撃を蒙りながら、實際に

乗じて英空軍は、獨逸の奥深く伯林やルールの工業地帯の空襲を續行して居る程だ。

第三に 十月以後約半歳の北海、英吉利海峡方面の荒天は何としても空襲及び渡航戦に不利である。

第四に 英上陸戦の決行は多大の犠牲を要する。或る専門家の計算によれば不準備の英陸軍と雖も既に機械化精銳部隊の再編成は三十萬以上に達して居る。故に少くも三十萬以上の獨精銳部隊の上陸を要する。これが爲めに二十萬の犠牲を覚悟せざるべからざる事である。如何に數百萬の大軍を整備動員せる獨逸と雖も、一舉二十萬の銳兵の犠牲は、民意を基礎に立つ政治家ヒトラーの容易に決行し得ざる所だ。果して此の大流血の惨害を敢てして其の結果勝利に歸しても、英政府のカナダ逃避、英海軍の大西洋蟠踞に終り、英本土の焦土殘骸を占領するに止まるにせよ、リアリストたるヒトラーの胸中、此の冒險決行に慎重の考慮を加ふることは蓋し想像に難からず。完全なる制海権を掌握せる皇軍が、上海敵前上陸の壯舉に拂つた貴重な犠牲を、我が誠忠の國民性と獨逸の國情との差異を冷静に考慮せばヒトラーの慎重の態度は當然の事であると思ふ。

第五に 英軍はフランダール大敗の前後から、米國の武器軍需品の急速な大量援助によつて、兵備の建直しに力を得たことは吾々の想像以上と思はれる。(註三)賢明なヒトラーが此の米國の積極的援助を輕視しないことも、彼を慎重ならしめた一原因であると思ふ。

以上の諸考察からして、獨軍の英本土侵略戦の大冒險は、世に喧傳せらるゝ如く、急速に實行せらるゝことなかるべしとの常識的結論に到達せざるを得ない。従つてヒトラーは歐洲大戦の最終目的即ち英國の没落、歐洲新秩序

の建設に政戦兩面から徐々に畫策することとなつた。此の政戦兩面の活動は、第一に一九四〇年九月極秘裡に協議せられ、二十七日調印せられた日獨伊三國同盟であり、第二に同月二十九日成立せる獨逸、伊太利、ルーマニア、洪牙利四國外相のウイン協定を中心として、急速展開したバルカン問題である。同年六月蘇聯のルーマニア進軍を端緒としてバルカンは動搖し、一方獨逸は對英戦、他方伊太利は地中海戦に忙殺されながら、急速に兩國巨頭はバルカン工作を決定し之を本格的に解決せんとしてあると斷ぜざるを得ない。

(註三) 一九四〇年六月米大統領ルーズベルトのシャロツトヴィルに於ける、對英積極援助聲明以來の物質的援助は、急速に進展して居る。九月二十二日ニューヨークタイムズ紙は、最近の五十隻、老弱運搬渡を別としても、英國の對米軍需品注文高二十億弗の巨額に達し、内引渡済のもの五億弗、一九四一年五、六月迄の飛行機の引渡數三千一百機、一九四〇年七月二百二十五機積出し十月には六百機、その外毎月一千七百五十機分のモーター、一九四一年春以後は毎月一千機三千臺のモーター即ち米國の製造能力の四分の一を英國に割愛すべく期待せらるゝと報道して居る。陸軍兵器に至つては一九四〇年六月八萬の機關砲、七百の野砲、五十萬の小銃を輸送し少くとも十萬噸の軍需品の運搬を決定したと傳へられる、此の數字が相當宣傳的誇張があるにせよ、米の物質的對英援助が意外に巨大なることを忘れてはならぬ。

#### 四、バルカン工作の促進

新しく獨逸最後の決戦は延期せらるゝこと、なるに同時に、獨逸としてはバルカン工作を促進せざるを得ざる理由がある。第一は政治上の理由だ。蘇聯のベッサラビヤ、北ブコヴィナ占領を契機としてブルガリア、ハンガリー

のルーマニアに對する失地恢復要求は俄然擡頭し、ブルガリアは先づ黒海沿岸ドブルヂヤを得、洪牙利はトランシルバニアの半分を恢復した。更にブルガリアの希臘に對するエーゲ海岸、西トラキア返還要求、伊太利のアルバニア國境改定の爲めの希臘に對する要求、さてはユーゴスラヴに對する伊太利の壓迫、洪牙利のアドリア海進出の爲めの對ユーゴ要求等、バルカン各國間に強要と反撥の暗潮は、終に土耳其をも引込んで、バルカン紛糾動亂の政情を現出せんとして居る。此の紛糾の政治的解決に就ては後節に再説すべきも、一九四〇年六月以來獨外相リベントロップ、伊外相チアノの東奔西走、或は伯林に或は羅馬に飛び、ルーマニアの首相外相も亦、ザルツブルグにヒトラー總統と（七月二十六日）羅馬にムソリーニ首相と（同月二十七日）會見し、ブルガリア首相外相も亦ヒトラー總統と（同二十七日）ザルツブルグに、洪牙利首相外相も同様伯林羅馬を歴訪して居る。かくしてバルカンの政治的動搖は、結局獨伊の壓迫とルーマニアの讓歩によりて、八月二十九日ヅキンナ會議を以て一段落を告げたが、愈々同會議の一條項獨伊のルーマニア安全保障契約に基きて、十月中旬少くとも二箇師團の獨逸機械化部隊ブカレストに進駐するに及んで、土耳其希臘の政情の動搖、蘇聯の土耳其に對する策動、英國の土、希兩國に對する尻押等、最近バルカンの政情は頓に緊張し、其の影響は黒海、裏海、波斯灣にも波及し、近東問題にも蔓延の兆候が現はれた。獨逸としてはバルカン問題解決促進の政治的理由は充分に備はつて居る。況んや伊太利の英領ソマリランド占領（八月四日）埃及進軍に伴ふ希臘及び小亞細亞に對する政治的工作は、其の國策地中海政策實行の好機として緊急を要するものがある譯だから、伊太利も亦バルカン問題解決を急ぐ緊切な理由を有するのである。

第二に獨伊兩國にはバルカン問題促進の經濟上の理由がある。即ち（一）差迫つて歐洲全般就中獨伊兩國及び其の占領地内の食糧問題である。獨逸としては諾威、丁抹、和蘭、白耳義、北佛の迅速占領によりて、一時此等諸國の貯蔵手持の食糧を利用し得たりと雖も、戰場となりし耕地の荒廢、戰爭に徵用せられし勞力の不足、加ふるに昨冬以來の不順の天候は、一九四〇年の收穫の大減少を豫想せしめ、戰場と占領地とから追はれて四方に流浪する數百萬の避難民の飢餓の問題と相待つて、さなきだに平時國外よりの輸入に待たざるを得ない獨伊及び其の隷屬下に立つ北中西歐の諸國の食糧問題は、深酷なる饑饉問題となつて來た。歐洲の穀倉の一つたるダニユーブ流域の沃野即ちバルカン諸國を其の統制下に置いて、目前の飢餓救済に努力せざるを得ない。（二）殊に獨逸の對英戰が長期對峙の形勢となり、伊太利の埃及進軍が大規模に展開せんとする今日、軍需品の充實は焦眉の急を告ぐる様になつた。軍需品の大宗たる鐵鋼の問題は、獨逸の大生産機構に加ふるに早くチエツコの大鐵工場を收め、更に白耳義、ルクサンブルグ及び北佛の鐵工場は獨軍の手中に歸したる上に、其の原料たる鐵鑛石は、今や確實に瑞典、ポーランド、白耳義、ルクサンブルグ、ローレン、北佛さては遠く西班牙から供給せられ、殊に石炭は獨逸領内の豊富な炭田に加ふるにチエツコ、ルクサンブルグ、ポーランド、シレジャ、白耳義、北佛の大炭田を以てするあり、今や獨逸の製鋼力は戰前の二千五百萬噸より逸早く三千萬噸に及び何等後顧の憂はない。唯ニッケル、銅、鉛、クロム、の如き非鐵金屬は之れを國外に求めねばならぬ。最も痛切に補給を要し且其の需要量の至大なるものは石油であることは、何人も直ちに考へ及ぶ所である。世界の油田の九割は米國、中南米のヴェネジュラ、メキシコ、コロ

ピア、近東のイラン、イラク東部の蘭印に存在し、直接間接に英系及び米系の石油大財閥の手中に握られ居る今日獨伊は僅かに産油の一割餘を占むる蘇聯とルーマニアに依存せざるを得ない。蘇聯は世界第二の産油國ではあるが蘇聯内の自家消費の急なると、これが輸送船の困難（註四）の爲めに、石油の獨逸供給は意に任かせない。獨伊共に必死に石油の貯積に力め、代用品の生産に全力を擧げたけれども、又蘭白北佛の迅雷的占領によりて相當量の貯油を鹵獲したけれども、年々一億乃至二億バーレルの石油消費をなさねばならぬ此の大機械戦に於て、獨伊が血眼になつて英米の勢力圏外の産油地の占領に突進せざるを得ないのは必然の歸趨である。而して假令其産額五六千萬、バーレルに過ぎずともバルカンの中央ルーマニアに油田あり、ユーゴスラヴ及びカルパト山地に銅、鉛、亜鉛、希臘にクロームの鑛山資源ある上は、第二段の對英作戦即ち英本土上陸戦、埃及攻略戦の準備として、バルカンの此の鑛物資源確保を第一に考量すべきは當然である。

第三にバルカン問題解決の急を要する軍事上の理由がある。何んと言つても獨伊の作戦遂行上の大障害は英國大海軍の北海、地中海の蟠踞である。其の總噸數既存百三十九萬噸、建造中のも五十八萬噸、併せて二百萬噸に垂んとする威力に對して、既造建造併せて獨逸の五十萬噸、伊太利の六十八萬噸では正面對抗は困難である。殊に米國が假令對日威壓策に禍されて太平洋に主力を集中し、英國敗戦後の獨伊の南米進攻を恐れて、大西洋岸の防備に忙殺され居るにせよ、世界第一の大海軍既造建造併せて二百二十萬噸を以て英海軍を後援する以上、獨伊は其の優秀なる空軍と快速の小艦艇を以て、可成早く英海軍に大打撃を與ふることが急務中の急務である。獨逸の本英土侵

略撃滅戦も、伊太利の埃及席捲スエズ運河占領作戦も、英海軍の撃破を先決問題とする。而して幸に日獨伊同盟によつて後援の米海軍を太平洋に釘づけにし、獨伊共同作戦の結果英國海軍の主力は北海と地中海に兩分せられ、特に地中海艦隊の頼みとするジブラルタルの要塞も、同盟佛海軍の離散と西班牙の獨伊合作によつて、又西領のモロッコ沿岸及バレアリック諸島に待機する伊獨の潜水艦隊爆撃機隊によりて、封鎖同様の立場にあり、地中海の中部の要害マルタ島も伊太利の海空軍に脅され、地中海の女王英艦隊は、埃及のアレキサンドリア港、スエズ運河、パレスタインのハイファ港、サイプラス島、其の外に友邦希臘の諸島嶼、盟邦土耳其の海岸を根據として、伊太利の空襲水雷攻撃を避けつゝ、東地中海を廻遊して居るのだ。此の囊中の大艦隊を撃破することが絶好の機會であり、伊太利の地中海政策遂行の唯一の捷徑である。先づ希臘及び土耳其を英國より引離して英國地中海艦隊の根據を覆し（註五）進んでシリア、パレスタイン、埃及を北より西より陸空軍によりて英軍を驅逐せば、さすがの大艦隊も根據地を失して浮浪艦隊となり、空襲水雷攻撃の憂目に曝されるか、大なる損害を冒して大西洋か印度洋に通る、外はあるまい。此の作戦の準備とし前提條件として、バルカン諸邦を蘇聯との妥協了解の下に獨伊の掌中に收むることを要する。實に軍事的見地からしてのバルカン問題促進の重大理由である。

（註四）一九三九年蘇聯石油産額は三千萬噸に達したといはるゝが、其の輸出餘力は過去十年間に六百萬噸から百二十三萬噸に減退した。獨逸は蘇聯との合作協定により獨逸技術家を蘇聯に送りて、鑛物資源の開發並に生産増加に努力し輸出餘力の増加に努力して居るが、遺憾ながら英海軍の嚴存の爲めに、地中海大西洋を經由する最も簡単な海上輸送は杜絶して居る。

そこで(一)ロシア諸運河經由、(二)ルーマニア經由鐵道輸送(三)蘇聯鐵道とポーランド鐵道利用、(四)ダニュープ河利用の四輸送路が残されて居る。(一)の運河利用が最も便利低廉な輸送方法であるが、一箇年の中五箇月以上は氷結してしまふ。(四)のダニュープ河利用も、河口の淺瀬と有名な鐵門の急流の爲めに、荷船の数は制限され、而かも十二月から二月迄は氷結する。故にルーマニア經由の鐵道輸送が残された活路である。黒海の油槽船航路バルカンの鐵道輸送路の安全確保即ちバルカン諸邦を獨伊制壓下に置くことが必要な譯である。

(註五) 恰度此の稿を終らんとする時ニューヨーク十月十八日AP電報は、愈々獨伊の希臘に對する共同要求五箇條を報道して居る。其の眞偽は後の確報を俟たねば不明であるが、其の可能性は有る。

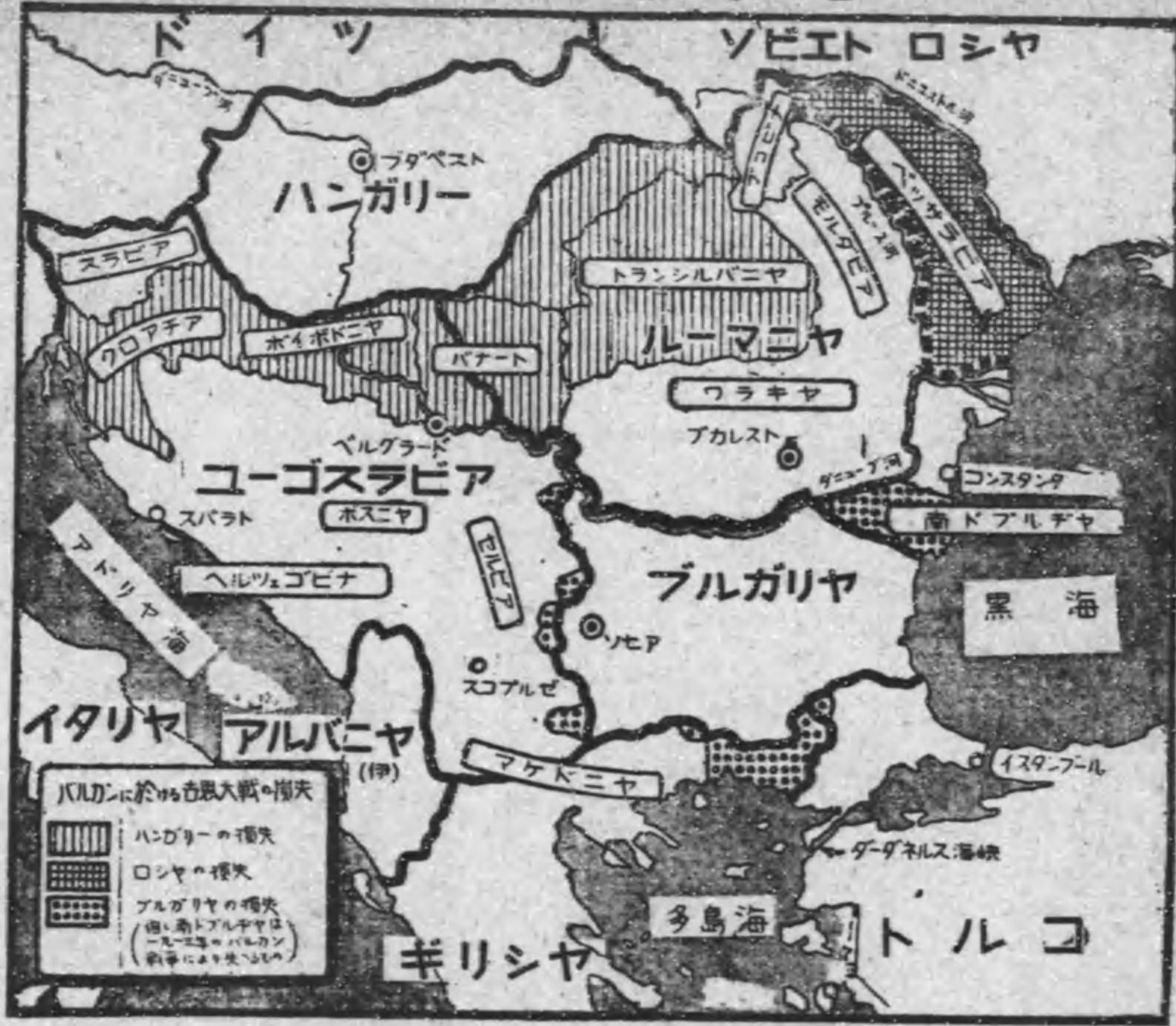
- 一、アルバニア國境に接壤する地帯を伊太利に讓渡し、エーゲ海(多島海)に連する廻廊地帯(筆者註、西トラキア地方及びカウイラ港を指すならん)をブルガリアに讓渡すること
- 二、アルバニアよりサラニカ灣に連する道路建設權を伊太利に與へること
- 三、ギリシヤ領内の若干空軍基地の使用を獨伊兩國に認めること
- 四、ギリシヤ皇帝ゲオルグス二世の退位、メタクサス首相の辭職及び獨伊樞軸派の政府の樹立
- 五、英國と直ちに國交斷絶すること

正に筆者の詳説せるバルカン問題解決の軍事上の理由を裏書するものであり、英國地中海艦隊の根據地掃蕩作戦の獨伊の筋書である。殊に筆者の注意を惹いたのは、八月廿九日のウキーン四國外相會議の結果と、八月三十日成立したルーマニア洪牙利の割地協定、同月三十一日調印のルーマニア、ブルガリア割地協定と、一脈相通する同一政策の發露であること。また大戦勃發直前の獨逸のポーランドに對するダンテツヒ港及び廻廊問題の要求と今度の伊太利の希臘に對する要求と頗る相似たる點である。蓋し此の國境改訂協定、海空軍根據地の獨伊の共同使用權設定の要求は結局バルカン問題新解決案の骨子を多分に暗示するものである。

### 五、バルカン聯盟の障碍

上述の如く強國に依るバルカンの統轄又は改造は早晚來るべき必然の運命である。此のバルカン處理に對する強國の壓力に對抗して自己の有利な解決に導く爲めにも、將た又バルカン諸邦を戦火の禍中に投じて悲惨な滅裂衰亡の歴史を繰返さざらん爲めにも、せめてバルカン諸國の聯盟強化又は新たな中立ブロック結成に、諸國が協裁合同すべきは必然の行程である。然るにバルカン諸國は中古代異民族の移動時代は暫く措き、土耳其の羈絆を脱して獨立國家の建設を見しから後の近世代、即ち過去百年の歴史は骨肉相食み領土爭奪の血腥き亂世史に終始して居る。國內に於ては異民族の暗闘、政權爭奪の爲めの暗殺、治者と被治者の陰險な階級闘争が今猶ほ絶える時がない。此の國內陰謀と政權變遷の悲喜劇は、ルーマニア最近のカロル二世王の二度の廢位亡命の事變が最もよく證明して居る。セルビアに於けるカラジヨルジビツチ朝ミオブレノヴキチ朝の暗殺による交代や、ユーゴスラヴ統一國家となつての後も、尙ほ一九三七年マルセイユに於けるアレキサンダー王の暗殺、前の大戦中及び其の以後の希臘に於けるコンスタンチン王及び其の周圍ミヴェネゼロスとの血を以て血を洗ふ政争の如き、さては永年マセドニアに立籠る匪徒コミターチの跋扈の如き其の著例である。従つて西羅馬帝國文化の中心たりし舊夢はバルカンの地ダニュープの沃野に跡も残さぬ有様である。東歐未開の礦物資源の伏在するカルバト山地もイルリヤ・アルプス山地も千年

バルカンの係争地



バルカンの人種分布図

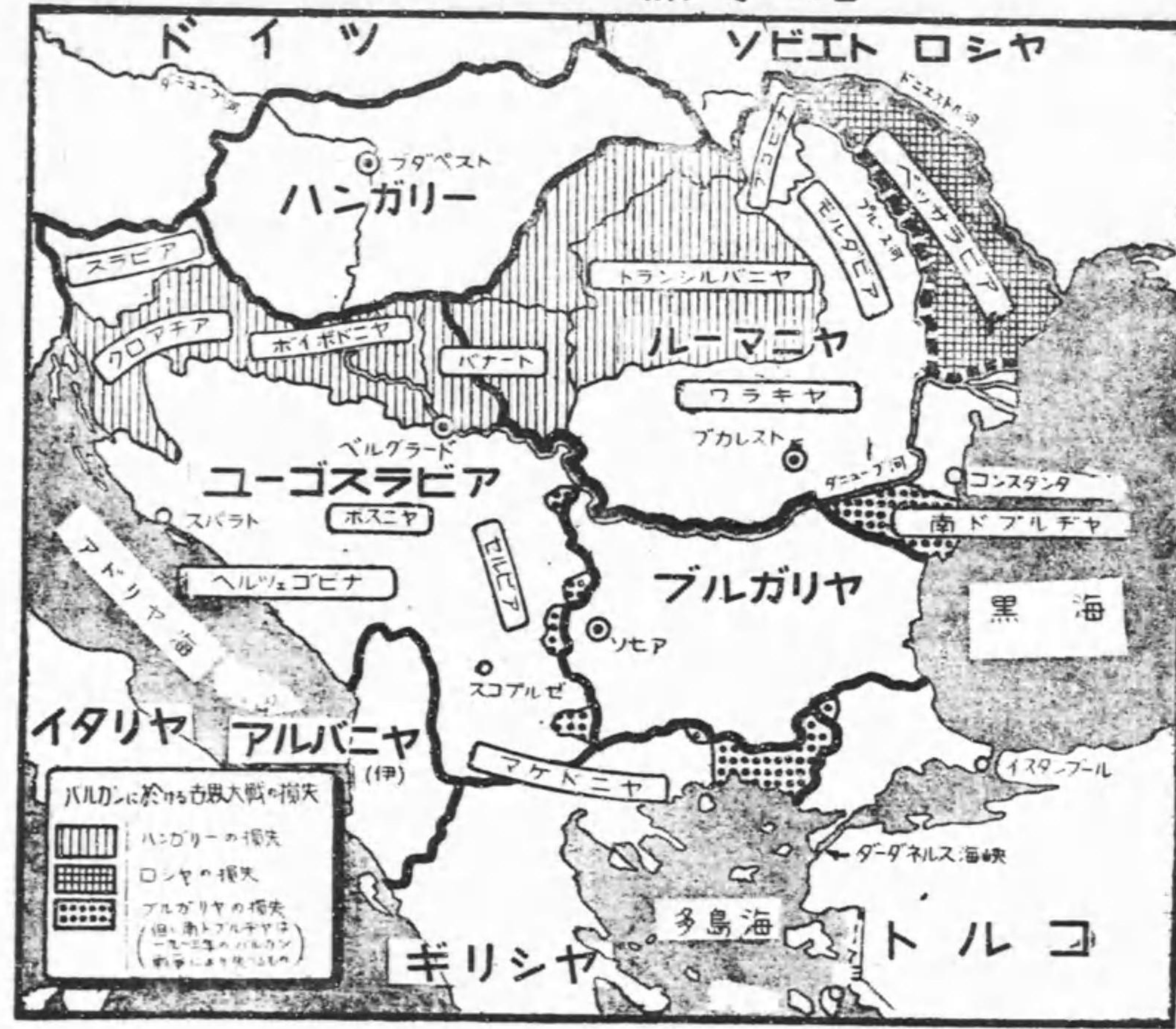


の今日猶ほ開發せらるゝ暇もないのである。

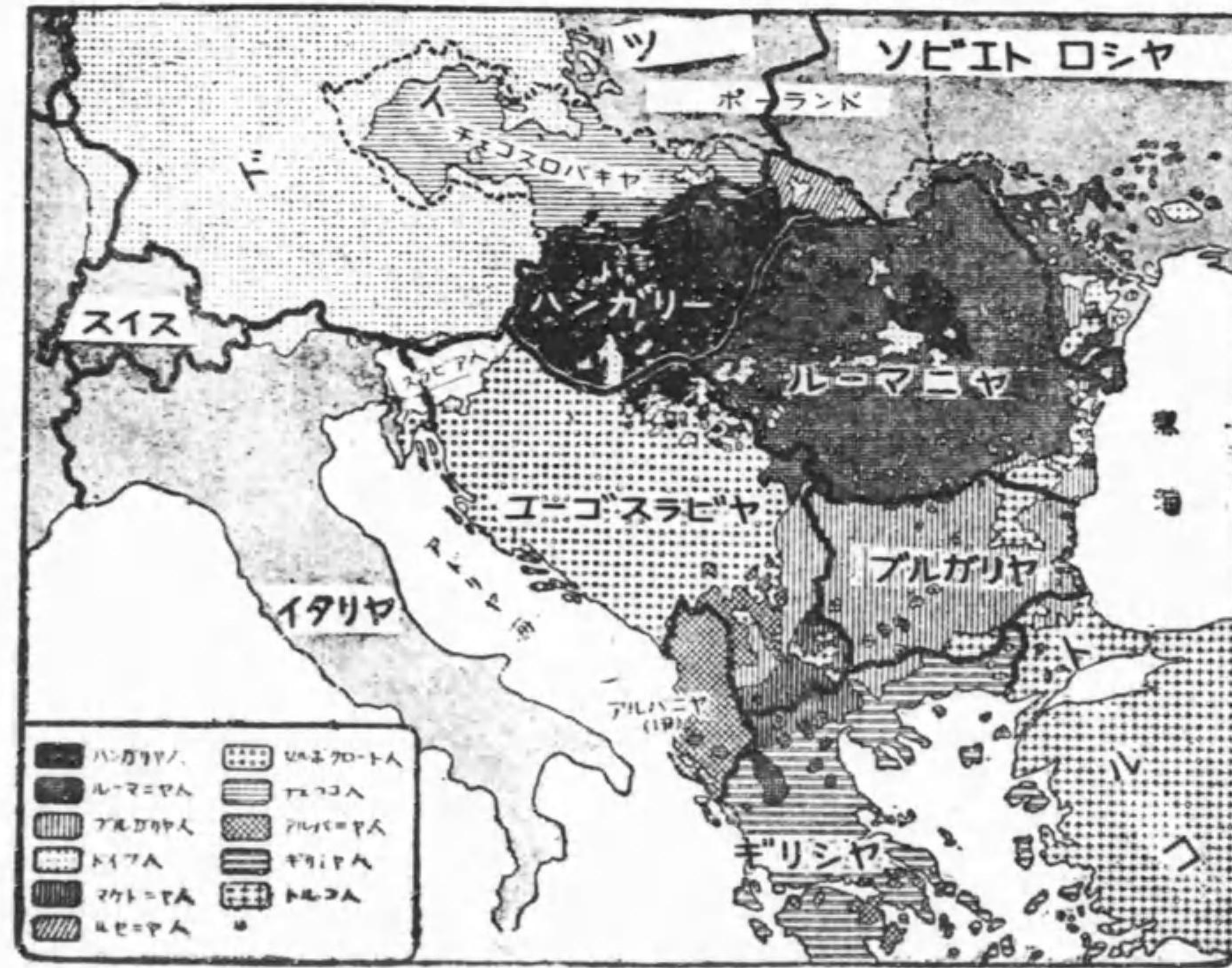
加之同じスラヴ民族に属しながらボヘミアもユーゴスラヴもブルガリアも終に協力したことがない。同じ羅匈ケルト族出身でありながらルーマニア人も希臘人と合同したこともない、同じ蒙古ツラン民族の分岐でありながら洪牙利のマギヤール人と土耳古の突厥人とは終始相争ふに止まつた。世界文明史を繕けばナイル、ユーフラチス、インダス、ヴォルガ、黄河、揚子江の如き大河は、悉く民族融合統一の動脈となつて居るのに、獨り歐洲第一の大河ダニユープのみは永く民族統一融和のファクターとはならずして、却つて民族分裂割據の禍因たるの感あるは不思議に堪へない。バルカンの政治歴史と共にダニユープ河の歴史程悲惨な物語はない。(筆者は茲に讀者に動むるにエミル・レンゲルの名著 The Danube の一讀を以てするものである)。

要するにバルカンの聯盟容易に成らず、常に隣接強國土耳其、埃太利、露西亞、獨逸さては英吉利、佛蘭西、伊太利の其の時其の折の政治的戰略的決意によりて擾亂せらるゝ、所以のものは、各國內の支配階級と半奴隸的農民との永年の階級隔離と、支配階級内の政争、換言すれば國內の階級闘争に禍され統一國家の完成が出来ないことが第一の原因である。バルカン諸國の住民の九割は農民であり、大半は小作農否な農奴的賤民である。偶々土地法により自作農となつても、舊地主やユダヤ人希臘人の十割以上の負債隷屬となり、終生利息奴隷に甘んぜざるを得ない悲惨な生活である。之れに對する支配階級は地主、官僚、職業軍人の一團であつて唯だ政權によつて生活し、農民の搾取と新興工業礦業商業に對する收賄とによつて、西歐文明の外形を追ふ有閑階級に過ぎない。夙に獨逸勢力下に立つて文化

バルカンの係争地



バルカンの人種分布図



の今日猶は開發せらるゝ暇もないのである。

加之同じスラヴ民族に屬しながらボヘミアもユーゴスラヴもブルガリアも終に協力したこゝがない。同じ羅匈ケルト族出身でありながらルーマニア人ミ希臘人と合同したこともない、同じ蒙古ツラン民族の分岐でありながら洪牙利のマギヤール人と土耳其の突厥人とは終始相争ふに止まつた。世界文明史を繕けばナイル、ユーフラチス、インダス、ヴォルガ、黄河、揚子江の如き大河は、悉く民族融合統一の動脈となつて居るのに、獨り歐洲第一の大河ダニユープのみは永く民族統一融和のファクターとはならずして、却つて民族分裂割據の禍因たるの感あるは不思議に堪へない。バルカンの政治歴史と共にダニユープ河の歴史程悲惨な物語はない。(筆者は茲に讀者に勸むるにエミル・レンゲルの名著 The Danube の一讀を以てするものである)。

要するにバルカンの聯盟容易に成らず、常に隣接強國土耳其、奧太利、露西亞、獨逸さては英吉利、佛蘭西、伊太利の其の時其の折の政治的戰略的決意によりて攪亂せらるゝ、所以のものは、各國內の支配階級ミ半奴隸的農民の永年の階級隔離と、支配階級内の政争、換言すれば國內の階級闘争に禍され統一國家の完成が出来ないこゝが第一の原因である。バルカン諸國の住民の九割は農民であり、大半は小作農否な農奴的賤民である。偶々土地法により自作農となつても、舊地主やユダヤ人希臘人の十割以上の負債隷屬となり、終生利息奴隷に甘んぜざるを得ない悲惨な生活である。之れに對する支配階級は地主、官僚、職業軍人の一團であつて唯だ政權によつて生活し、農民の搾取と新興工業礦業商業に對する收賄とによつて、西歐文明の外形を追ふ有閑階級に過ぎない。夙に獨逸勢力下に立つて文化



に浴したボヘミアとクロアチア、スロヴェニアの農民のみは獨立後に、或はマサリツクの社會主義或はラデツクの人民自由主義を眞實に遵奉し仰望して農民生活の向上に力めた。その外はルーマニア、ブルガリア、セルビア、洪牙利希臘アルベニアの如き、終に何の日にか覺醒の期ありや疑はざるを得ない。ヒトラーのナチス運動が、夙に國家社會主義を傳布し農民の解放を宣傳してバルカン諸國內に文化的根據を築き、英佛民主主義國が、之を全體主義壓制獨裁の宣傳なり第五部隊構成の陰謀なりと酷評しても、過去七年の思想戦は獨逸に凱歌を擧げさせ、大戦前後よりバルカン諸國に、相次ぎてナチス黨の全體主義國家社會主義が政權を堅めつゝある事實は看過すべきでない。

統一民族國家の完成せざる第二の原因は各國内に於ける多種の異民族混住の實情である。バルカン諸國の都市は勿論村落小邑に於ても、到る處人種言語宗教を異にし言語信仰も相通ぜざる異民族の雜居である。之れを「現代のバルタ」に評した人もあるが、實に名言だ。各異民族が相次いで東西南北から移動して、虐殺と隸屬を以て原住民を壓迫又は追放した歴史的怨恨が容易に消えざる今日、其の民族統一の至難は論を俟たない。前の大戦後ウイッソンの民族自決主義は、一時救世の福音の如くバルカン諸國民各民族に傳播したが、一部落一都市迄も異民族の混住であり、多数異民族の住地すら犬牙錯綜せるバルカン諸國は、如何に國境の改訂、地圖の變更を行つても、少數民族の殘存、異人種の混住は改めることが出来ない。民族自決主義のバルカン改造は終に机上の空論、學者の夢物語に終るのである。従つて一國內の民族闘争はバルカン諸國の不治の病根である。此の點を認識して優秀民族を中心とする獨裁政治全體主義を以てバルカン諸國統一の原則とし、近年政治的工作を繼續し、次第にナチス黨の政權確立

バルカン諸國指導原理は正に、リアリストたるヒトラーの達見といふべく、西歐の民主主義の政治論は却つて國內闘争を激甚ならしむるに過ぎない。又現に此の指導原理は獨伊の兵力を背景として、着々ルーマニア、洪牙利、ブルガリア、ユーゴスラヴに浸潤しつつあるのである。獨伊のバルカン問題解決の政治的工作の方向は之れによりて自から明かなるべしと思はれる。

## 六、他動的バルカン聯盟

バルカン聯盟の容易に成らざる所以の國內的理由は上述の通りなるが、別に國外的理由がある。其の第一はバルカン隣接諸邦間の領土掠略と舊領恢復の繰返されたる流血史に基く、歴史的怨恨の容易に消し得ざるバルカン特有の國際紛争である。遠く中世紀のバルカン諸國興亡史を繙くまでもなく、最近二十年間のバルカンの外交史の梗概を記するだけでも一目瞭然たるものがあらう。今バルカンの列國闘争の主題となつて居る失地恢復運動なるものは悉く一九一三年のバルカン戦争一九一九年の第一次大戦の講和によつてバルカン諸國間に強奪され回収された因縁附の領土に過ぎないのだ。(註六)

(註六) スロヴァキアは一九一九年トリアン條約によりて洪牙利から割取せられたものである。今ハンガリーに屬するルチニア地方は帝政露西亞の渴望せるウクライナの一部であつて、矢張り一九一九年洪牙利から離脱してチェッコ國に合し、一九三九年三月ヒトラーの情けで恢復したに過ぎない。一九四〇年八月蘇聯がルーマニアから強制的に奪回したベッサラビアは

其の住民の過半はルーマニア人なるにせよ一九一九年にルーマニアが占領した舊露國の領土である。同時に割取したプロヴキナは一九一九年のサンゼルマン條約によつて奥太利からルーマニアが割譲を受けた領土である。更に最近ルーマニアがブルガリアに割譲したドブルジャは一九一三年ブカレスト條約によりルーマニアがブルガリアから奪取したものである。ルーマニア、ハンガリー間の係争地たるトランシルバニアは一九一九年のトリアノン條約によつてハンガリーから割譲された土地でありハンガリー人の多数がルーマニア人と混住して居る。最近のヴェーリン會議の結果獨逸の調停により其北半部をハンガリーが回收した次第だ。未決の問題として残る失地回收問題は(一)トリアノン條約によりハンガリーの手からルーマニア及びユーゴスラヴに分割せられたバナトであり、(二)同様舊奥太利ハンガリー領であつてハンガリー及び獨逸がアドリア海に出る道として渴望するクロアチア、スロヴェン地方即ちユーゴスラヴ國內の最も進歩せる州である。(三)一九二一年の第一次バルカン戦争によつてブルガリアが土耳其から奪取し、翌年第二次バルカン戦争に敗れた爲めブカレスト條約により希臘とユーゴスラヴに分割されたマセドニア地方がある。其の中特にブルガリアが地中海に出づるが爲に回收を切望し最近希臘に要求したといはるムカヴァラ港を含むトラキア地方が問題である。

此の如き失地回收運動も畢竟一九二一年一三年の二回のバルカン戦争及第一次大戦の結果として、土耳其、ブルガリア、ハンガリーが失つた領土を第二次大戦の此の機にルーマニア、希臘、ユーゴスラヴから奪回せんとするに過ぎず、遡つて中世代に於ける此等領土の所屬の歴史に尋ねれば、所屬決定の歴史的理由は何れに軍扇を揚げるか不明である。其の民族自決原則に根據しても何れの要求に従ふべきか不明なることも既に前節に述べた通りである。此の領土に對する歴史的怨恨、民族に關する政治的鬭争の深甚なるに鑑み、係争當事者たるバルカン諸國間の解決に任せんか百年河清を待つに等しいものだ。従つてバルカン諸國の和衷協力による聯盟の結成は到底望み得

ない譯だ。然らば此の諸國の外に立つ強國が思ひ切つた威壓を用ゐてこれを統制して一大聯盟とする外はない。換言すればバルカン諸國の永年の鬭争の病源は、彼等自身の活力に依つて癒やすことの出来ぬものだ。故にバルカン諸國を強力を以て威壓し得る大強國が指導者となり盟主となつて、彼等の協力一致を強制し、バルカンの新體制を建設する外はない。自主的バルカン聯盟は一九二一年に結成した小協商も消滅し、一九三四年に漸く生れたバルカン協商も雲散した。結局他動的バルカン聯盟のみが成立の可能性ありと云はざるを得ない。

## 七、バルカン聯盟の盟主

翻つて此のバルカン聯盟の指導者たり盟主たるべき地位が何れの強國の手に落ちるか問題である。此のバルカン盟主の競争が歐洲近代史の焦點となり、一九一四年の大戦は帝政露西亞と奥洪帝國とのバルカン争覇によつて勃發し、更に近東に波及して英獨の争覇となつて、五年に亘る世界の大戦に轉化した。今や第二次大戦は獨逸對英のバルカン盟主の鬭争となり、更に蘇聯と獨逸の暗闘の目標となり、將來の蘇聯の向背が今次大戦の一大轉換とならざるかの憂慮も既に兆候を示して居る。最近蘇聯のベツサラビヤ、プロヴキナ増兵に次ぐ獨逸軍のブカレスト進駐は其の暗闘の一發現とも見られる。英米最近の蘇聯誘惑工作も此の暗闘を利用しての一芝居とも見える。他動的バルカン聯盟が今日迄成立せざりし所以の理由は實に四大強國の盟主競争である。

さりながら之れは結局四大強國の實力の強弱の問題によつて決する。英國は地中海に於ける其の優勢海軍力並に

其の借款援助と企業投資の經濟工作を頼みとして土耳其、希臘、ルーマニア安全保障相互援助を約したが、フランスの大敗戦によつて既に其の威力を失墜し、今や退嬰防禦に専念し、伊太利獨逸を撃破せざる限り、到底バルカンの盟主たる資格がない。蘇聯に至つては獨逸伊太利の同盟陸空軍に對抗する兵力は未だ完備しない。漸くフィンランド戰の痛手を恢復し、バルチック三國、ポーランド及びベツサラビア、ブコヰキナの新領土を保全するに忙殺せられて居る。獨逸との合作を守りつ、徐ろに漁夫の利を占め、機會ある毎に四方の領域を擴張しバルカンよりは寧ろベルシヤ、アフガニスタンの近東方面に手を延ばさんとして居るを見るべきである。唯だ其の大切な地中海への門戸ボスフォラス、ダーダネルス兩海峡に對する特殊の利害を、友邦土耳其と獨逸に於て深甚の注意を以て擁護するに於ては、敢て今直ちにバルカン盟主の地位を争はぬであらう。伊太利に至つては地中海霸權の掌握、阿弗利加植民地の擴大に汲々として、希臘の地中海岸及ユーゴスラヴのアドリア海地帯を其の勢力範圍に收めれば満足すべしと推すべき理由がある。

果して然らば残る所はヒトラーの獨逸が、自然にバルカン新體制の指導者であり盟主たることに歸着する。既に其の盟主たるべき威力は、一九三八年ミュンヘン會議以來バルカン諸邦の夙に痛感して居る所であり、過去一年間の電撃戰によりポーランド、諾威初め強國佛蘭西をも併せて六箇國を降服せしめ一段其の兵威を發揚し、しかも埃太利、チエツコの無血合併によりて強兵無比の大軍を一擧にして南下せしめ得る地位にある。若し夫れ英海軍に對する威壓は伊太利との協同作戰によつて正にこれを驅逐せんとして居るのだ。加之既に述べたる通りバルカン諸

邦に對する國內政治工作及び思想宣傳に於て過去七年の努力は充分報いられ、既に各國政權の背後に牢固たる地歩を築いて居る。

更にバルカンに對する獨逸の經濟工作に至つては、實に過去七年間シャハト蔵相の奔走によつて、獨逸とバルカン諸國の間にバナター制、信用清算協定を遂げ、獨逸の貿易はバルカン諸國に於て首位を占むるは勿論、七割乃至二割の額に達せしめた。世にシャハトの此の辣腕を賞揚して賣子大臣 (Salesman minister) の仇名を與へたのも宜なりである。更に其の後繼者として現經濟相フンクのバルカンに於ける經濟工作は、獨り物々交換清算協定の改善のみならず、英佛の既成投資圏内に喰込んで資材と技師を送り、バルカンの重要産業内に確固たる獨逸の勢力を扶植したる功績は、これを没却することは出来ない。換言すればシャハトとフンクは英佛白蘭の投資を排斥して商品と技師によつて獨逸國旗をバルカン經濟界に押し進めたと謂ふも過言ではあるまい。

此の如くして獨逸はバルカンに對する兵威に於て、政治的思想的工作に於て、將又經濟的工作に於て、他國が一指を染め得ない牢固たる基礎を築いたといふべきである。従つて伊太利と提携してバルカン聯盟の盟主となり、歐洲新體制の指導者たる地歩は既に成れりといふべく、他動的バルカン聯盟は獨逸を盟主として近く實現すべきを疑はなす。(昭和十五年十月二十一日稿)

## 第八章 三國同盟の特色と由来

## 一、原因と結果の混同

一九四〇年九月二十七日伯林に於て調印せられたる日獨伊三國同盟に對する米國の對抗運動は、大統領ルーズベルト氏の傳統を破る三度當選確定後極めて露骨となり、其の爐邊閑談（十二月二十九日）續いて本年一九四一年一月六日の米國議會に與へたる教書をキツカケミして、濃厚紳士の標本と謂はれた國務卿ハル氏すら、陸相スチュムソン氏、海相ノックス氏の如き常習的排日強硬論者と共に、外交委員會の査問會に猛烈なる日獨伊三國攻撃論を吐露してから、米國の輿論は益々昂奮し、日米戰爭終に不得止との觀測が歐米に蔓延し、ひいて我邦に於ても同様日米戰爭を覺悟せざるべからざる緊張せる空氣は、帝國議會上下兩院の嚴肅なる決議及近衛首相を始め松岡外相、及川海相、東條陸相等の牢乎たる決意の表明によりて一段の眞劍味を添へ、世界殊に太平洋中心に湧起せる一觸即發の重大危局に直面して我國民の深甚なる注意と不拔の決心を促すに至つた。新しくして三國同盟が世界の政局に及ぼす影響の重大廣汎なると同時に、同盟其のもの重要性も亦深く世界に認識せらるゝに至つた。然しながら英米に於ては本同盟の締結は日獨伊の對英米威喝にして、目下の重大危局を惹起せしめたる原因と誣ひ、これに對抗す

る政策遂行の爲に米英合作即ち事實上の同盟、米國の空前の軍備大擴張を餘儀なくされたるかの如く思惟し宣傳しつゝ、あるが、これ全く原因と結果を顛倒するものである。英米の日獨伊三國に對する從來の壓迫威喝こそ本同盟を促進せしめたる原因であつて、英米の合作、軍備大擴張が日獨伊三國をして協力對抗の大策ミして同盟を餘儀なくせしめたのである。我邦の一部にも此の種の英米の態度宣傳に迷はざる、者なきにしもあらざるべし。從て本章に於て三國同盟の由来と特色とに就て茲に冷靜に再検討することも、敢て無用の業にあらざるべしと思ふ。既に昨年九月二十八日の放送に於て近衛首相は米國當局の如く露骨ではないが、

日支の紛争は世界舊體制の重壓下に起れる東亞の變態的内亂であつて、これが解決は世界舊秩序の根底に横はる矛盾に一大斧鉞を加ふることによつてのみ達成せらるゝのであります。即ち日本は眼前の支那事變を解決するに同時に全世界の紀元を更新すべき絶大の偉業に参畫し、その重要な役割を分擔せねばならなくなつたのであります。

と圓曲に三國同盟の成因を説破して居る。本年一月二十七日の議會の答辯に於て松岡外相はハル國務卿の「滿洲事變を以て世界文明破壊の第一歩即ち原因なり」ミの暴論に對して、これを原因ミ結果ミを混同する僻説なりと駁し滿洲事變はアングロサクソンの極東に於ける現状維持の矛盾せる作動に基く自然の反駁であり、寧ろかゝる作動による世界文明の崩壊の一症状であると喝破したが、同様の駁説は三國同盟に就ても云ひ得る。即ち英米合作による大戦の擴大の趨勢、曳いて「名實共に眞に戦慄すべき世界大戦、現代文明の没落戦」たらんとする危険の防止の爲

の三國同盟であり、此の危険の存在が原因であり三國同盟はその結果であると云ふべきだ。

## 一、特色の(一)範圍の世界的開放的

如上の見地から先づ本同盟の特色——獨り日本に關して曠古の大外交であるのみならず、世界史上に於ても劃期的の大盟約たる所以——を客觀的に冷靜に解析し、併せて本同盟の起因、由來を明かにしたいと思ふ。

本同盟の特色の第一は其の範圍の世界的な點である。其の包容力は開放的で排他的にあらざることである。

本同盟條約前文は明白に「大日本帝國政府及獨逸國政府、伊太利國政府は萬邦をして各其の所を得せしむるを以て恒久平和の先決要件なりと認めたるに因り」と目的を宣明し、進んで「大東亞及歐洲の地域に於て各その地域に於ける當該民族の共存共榮の實を擧ぐるに足るべき新秩序を建設し」云々と、東亞及歐羅巴に亘る廣汎なる地域を先づ其の第一段の範圍として居る。これを從來の同盟條約と對比して此の範圍が世界的なる上、其の第一歩すら大東亞及歐洲といふが如き廣汎なる地域に亘ることは古今に類なき所である。例へば日英同盟は極東殊に支那朝鮮に後に印度に擴充せられたが既に局地的である。一八九三年の露佛同盟が露佛兩國の國境領土並これに準ずべき植民地又は勢力範圍に限定せられ、獨逸伊の昔の三國同盟も同様に當該三國の領土に局限し、昨年來の英佛軍事同盟、英吉利土耳其、英吉利ポーランド間の相互保障同盟と雖も共に英吉利、土耳其、ポーランドの各自領域に制限されて居る。局地的なるが故に其の範圍地域は最初から簡單明瞭である。然るに本同盟の地域は廣汎なる上に漠然不明

瞭である。大東亞とは果して具體的にどれだけの民族國家を包括するか。近頃蘭領東印度の政府當局は蘭印は大東亞共榮圏内に入らずと言明し、且比律賓は除外せらるるやミ皮肉くつて居る。第一條規定の歐洲に就ても、英本國は如何、歐羅巴は如何、或は歐洲諸國の阿弗利加植民地は如何との疑問を生ずる。然しながら、る疑問は第一に本同盟を解説するのに、舊時代の同盟の型式を以てし、同盟の地域は局地的で、其の目標は領土保全の如き自己利益の擁護に出發し、最初より排他的であつた先入觀に迷はされ、人爲的な領域秩序の維持の政策に提はれた結果に外ならぬ。必竟本同盟が地理的に政治的に自然に緊密共榮の關係に在る各民族各國家が相寄り相助け合ふといふ新世界政策に立脚して居ることを故意か無識か閑却して居るのだ。此の故に本同盟は最初から開放的であり、條約の前文には明白に「而して三國政府は更に世界至る所に於いて同様の努力をなさんとする諸國に對し協力を吝まざるものにして」と規定して居るではないか。殊に大東亞及歐洲に就ても「各その地域に於ける當該民族の共存共榮の實を擧ぐるに足るべき新秩序を建設し且これを維持せんことを根本義となし」と宣言して人爲的領域に言及せず地理的に政治的に經濟的に自然的共榮圏を構成すべき諸民族に呼懸けて居るのだ。そして自國本位の既得利益擁護は問題外として將來の共存共榮の大利益を目指して新秩序建設なる新世界政策に進む所に本同盟の根本義があるのだ。開放的で排他的でないから其の圏内の諸民族の任意協力を求むるのである。共同者を限定し得ない。共存共榮の自然の隣接關係に立脚して居るが故に人爲的領域に拘泥し得ない。故に其の範圍は逐次擴大せらるべく地域不明瞭なるは當然である。將來に於ける共榮の大利益新秩序の生成を目指す新世界政策にして眼前の既存利益や舊秩序の如

きは寧ろ打破せんとするものなるが故に範圍漠然たるも亦當然である。地域範圍の具體化は本同盟の目的遂行の今後の進展に俟つべきである。蘭印當局の皮肉評の如きは蘭領東印度の地理的自然的關係に就て故意に眼を塞がんとするものであり、一九三九年の世界混亂時期に於ける貿易計數を以て蘭印大東亞に屬せよとの論據となすは謬説である。英米が其の資本的威力を以て三國同盟諸國に必需の物資の移轉を妨ぐる爲に自己に有餘る產物すらこれを獨占的に蘭印から買収し、且又日本の商品及工業者の輸入及入國に對して不自然なる制限を加へたる結果表はれたる數字を論據としての大言壯語であつて、人爲的自己利益擁護に立脚するものである。松岡外相の議會に於ける辯駁を俟たずとも本同盟の根本目的を強いて諒解せざらんとする者に過ぎない。

### 三、特色の(二)目的の積極的建設的

本同盟の第二の特色は同盟の目的が積極的建設的である點だ。舊秩序を打破して各民族共存共榮なる理想を實現し新世界秩序を將來に建設せんが爲協力することを目標せざるは既述の如く本同盟條約前文に明記して居る。これは舊來の同盟が消極的に舊秩序維持を目標とし、既存の領土の保全殊に屬領植民地に於ては統治國の被治民族に對する擯取による既存利益の擁護に傾注し、第三國の侵略に對する共同防衛を主目的とする外何等積極的に新建設を企圖するものに非ざると比較して重大なる差異を認めざるを得ない。舊同盟が舊秩序維持の名の下に不自然なる既得利益保全の消極的防衛に専念し舊態保守の現實に捉はるゝに反して、本同盟が各民族の共存共榮なる新秩序の建

設即ち新理想實現に協力邁進せんとする所に重要な意義があるのである。舊同盟が保守退嬰的なるに對して本同盟が生長發展的なる所に新味がある。

茲に特に讀者の注意を喚起したきは、舊同盟が盟約當事者の國家領土を基礎とするに對して、本同盟が民族生活を立脚點とすることである。少くとも巴里講和諸條約による現在の歐洲の秩序は新舊國家の領土の獲得割讓削減による地圖の改訂であつて、廣く各民族の生活圏の確立、異民族の共存共榮を考慮したものではない。從て先づ獨逸が同民族の糾合を提唱し、生活圏(Lebensraum)確保を當初の標語としたが、チエツコ國の崩壞ポーランド戰後に於ては、獨逸の經濟學者は廣域經濟圏(Großraumwirtschaft)の建設を主張するに至つた。即ち異民族をも含む共存共榮圏を歐洲新秩序の目標とするに至つたのだ。敢て領土の奪取擴張を主張しない。伊太利も亦隣接の歐洲阿弗利加に於て國外同民族の糾合(Irredentia)を企圖する以外に、地中海岸に占據する異民族間の政治的共存經濟的共榮を主張して居る。「地中海の囚虜」の脱却を叫ぶは此の意味である。第一條「獨逸國伊太利國の歐洲に於ける新秩序建設に關する指導的地位」は此の意味に於ける獨伊兩國の希望理想の實現を指すのである。大東亞に於ては幸にして大體各國が異民族混住の變態を脱れ民族國家を構成し從て日本は自國民族の糾合を企圖する野心も必要もない。從て英米人の誣ゆるが如き領土侵略を企てない。滿洲國の建設、新中華國民政府の承認、泰國との和親條約締結の如きは其の顯著なる實例である。若し夫れ歐米諸強の東亞に於ける植民地略取の歴史、異民族擯取の舊秩序に對しても、今更其の統治國の領土主權を排除せんとするものに非ざらば、被治異民族の自由の解放、植民

地の資源開發による本國、第三國、植民地住民を併せて共存共榮の新秩序を建設せんと欲するものである。滿洲事變、支那事變、さては皇軍の佛印進駐、日佛印會商、日蘭印會談に於て、常に日本朝野の主張する共榮圏の建設は此の意味であり、本同盟條約第二條の「大東亞に於ける新秩序建設に關し指導的地位」とは實に此の意味に外ならないのである。約言すれば獨逸の歐洲に於ける廣域經濟建設の計畫も、伊太利の地中海開放の主張も、日本の大東亞共榮圏の理念も、同一の理想的秩序の建設を目指すに外ならない。これを全體主義の侵略と呼號する者は曲解誣謗者に過ぎず、冷靜に本條約を精讀玩味せんことを勸告せざるを得ない。

此の新秩序——共榮圏を以て直に經濟ブロックと同一視するは、本同盟が政治的經濟的文化的協力關係たるを輕視する誤りである。殊に英佛の如き世界に跨る大植民地領土を一團とする排他的帝國ブロックと混同すべきではない。此の廣大なる地域に亘る政治的經濟的利益を獨占支配するブロック帝國は、ブロック外の第三國を排除しブロック内の異民族を搾取する企圖の下に構成せられたものである。其の中心は統治者であり、支配者であり、覇權者である。これに反して新秩序建設は共存共榮を目標とする開放的、協力的である。其の中心は指導者であり、協力者であり、援助者である。特に第一條第二條には新秩序建設に關し指導的地位を規定し、建設の協力者先達たることを明にし新秩序圏成立後に於ける支配者たることを要求して居ない。此の點が本同盟の新機軸であり、著しい特色でもあるのだ。三國同盟を以て歐洲及東亞に於ける覇權獲得を目的とするものなりと惡罵する米國朝野の批評は舊秩序維持論者の肚裏に存するブロック帝國の中心支配權を以て直に共榮圏建設の指導者に當敵めんとする一種の

自己辯護の辭論といふべきである。洩れ聞く處によれば本條約の一方の起草者たる松岡外相及齋藤顧問の苦心の存する所は實に本條約前文及第一條第二條の如上の用語に有つたところである。當時の御詔書に「大義ヲ八紘ニ宣揚シ坤輿ヲ一字タラシムルハ實ニ皇祖皇宗ノ大訓ニシテ朕カ夙夜眷々措カサル所ナリ」と宣明遊ばされた其の聖旨を遵奉したるに外ならないと確信する。

#### 四、特色の(三)手段の政治軍事經濟的、(四)理念の義務本位

本同盟の第三の特色は同盟目的の達成の手段に就て盟邦間に政治的軍事的經濟的の有ゆる方法により協力援助を約した點に在る。本同盟條約第三條の規定がこれである。舊來の同盟條約の殆んそ凡てが單に軍事的的方法による共同防衛を目的達成の手段として居るのとは大いに趣を異にするものである。從て必ずや秘密の軍事協定を伴ふたものである。仄聞するに本條約には秘密軍事協定を附屬しないといふことだが、筆者は本條約の性質上必ずや然りと斷ずるものである。既に本同盟は新秩序共榮圏建設といふ廣汎複雑なる任務を目的とするが故に單なる軍事的方法を以て達成し得ない。政治的方法も經濟的方法も有ゆる手段を盡して國力を擧げて献身的に努力せざれば、容易に目的を遂行し得ない筈である。從て單なる軍事同盟の如く戦時の危機に於てのみ協力すれば宜しい譯には參らぬ。廣汎複雑なる眞に永遠に亘る新建設なるが故に恒久的努力を必要とする。第四條に於て混合専門委員會の常置を規定する所以は實に此處に存するのである。

加之舊來の同盟は各自の利益擁護を根本理念とするが故に常に各自の權利利益を主張し多くは利益の交換を規定して居る。最近の英米合作の一協定（一九四〇年九月三日）の如き、大西洋カリビアン海に亘る英領諸島の米國に對する九十九年の租借の代償として米國の老朽驅逐艦五十隻の讓與を約せるが如きは其の顯著な一例である。凡て權利利益本位である。然るに本同盟に於ては何等利益の交換も代償の規定もない。盟約當事者各自の利益利害を超越して同一圈内各民族共存共榮の爲の協力、共同の生活建設の爲の努力の義務を規定するだけである。舊來の同盟が權利本位であり、本同盟が義務本位である點も亦看過すべからざる本同盟の第四の特色である。

### 五、特色の(五)目標非對敵

本同盟の第五の特色は特定國を目標とする對敵同盟ではない點である。舊來の同盟は規定上に特定國を指示しては居らぬが、軍事同盟たる以上必ずや假裝敵國を目標としての對敵同盟である。昔日の日英同盟が露國を目標とし露佛同盟が獨國を目標とし、近年の英佛同盟が獨國を對敵とし獨伊同盟が英佛を目標とし、英土、英波の保障同盟が獨伊を目標とし、最近の英米合作が公然日獨伊を目標とし特に英吉利、希臘、蔣政權援助を強調せるが如き悉く然りである。本同盟に關聯して英米に於ては、蘇聯を以て、極東では日本と、バルカン地中海では獨伊と、利害衝突するものと盛に宣傳し、さては日獨伊との敵對者としてこれを離反せしめ英米側に引込む工作に苦慮した。ソヴェト聯邦は或は舊式軍事同盟の考へ方から見れば假裝敵の一と世間で疑ふであらう。然るに本條約は第五條に於

て蘇聯を本同盟假裝敵とするものにあらざることを明白にして居る。却て本同盟の各國と蘇聯との互助和親を三國共に協力して促進することを默約して居た。既に同盟條約成立後間もなく一九四〇年十一月十二日蘇聯の首相兼外相モロトフ氏の伯林會談は行はれ、駐蘇建川新大使モロトフ氏との會商も亦圓滑に進捗したのは本同盟の目的が英米の豫想に反して對敵同盟にあらずして共榮和親同盟であることを傍證するものである。

唯第三條に「三締約國中何れかの一國が現に歐洲戰爭又は日支紛争に參入し居らざる一國に依て攻撃せられたるときは」を規定せる他の一國を以て明白に米國を目標とし對敵國としてこれを脅喝威壓せんとするものなりとして米國大統領國務卿さてはスチュムソン陸相の如き政府當局を始め朝野舉つて本同盟は特に對米戰爭挑戰者なりと怒號するに至つた。此の米國側の誤解について松岡外相は一九四〇年十月十日の新聞會見に於て、同年十二月十九日、日米協會の野村大使壯行會に於て、既に「本同盟條約は何れの特定國をも目的とするものでなく、勿論米國を向ふに施はすといふのではなく」と宣言し「本同盟の目的を誤解し曲解して日本の對米敵意など云々して居るのは全く笑止の沙汰である」と迄も極言して居り、殊に今一九四一年一月二十一日の帝國議會の外交演説に於て、本同盟の眞目的を詳述して米國の斯る曲解的態度を遺憾とし、日米戰爭の如きは眞に世界文明の壞滅を意味するものにして本同盟の斷じて挑戰規約にあらざることを説明するに努力した。



## 六、特色の(六)迅雷的速度と同盟の由來

最後に本同盟條約の成立が開談以來僅かに三週間の短時間に東京に於て、リッペントロップ外相の右腕といはるゝ特派使節スターマー公使と松岡外相との間に疾風の如き早さを以て成案に達し、三國間の合意も頗る迅速に行はれ何等の論議もなしに一九四〇年九月二十七日伯林に於て世人の眼には突如として調印せられたことについて特に讀者の注意を喚起したい。本同盟の第六の特色は實にその條約完成の速度にあるのだ。蓋し其の突如さ加減は一九三九年八月二十三日調印の獨蘇不侵略協約と同様であつて正に電撃的外交の成果といふべきである。これを往年の日英同盟が一年有餘の交渉の後に成り、三國協商が三年に亘る多岐の協定の結果であり、最短時間内に迅雷式に締結せられたといふビスマークの傑作外交普墮同盟すら開談後一箇月餘に成立した。これを以て之を見れば本同盟の如く其の範圍目的手段共に複雑廣汎なる大條約が僅かに二十日にして成案に達したといふ有史以來劃期的な短期間に迅速に成立したことは實に本同盟の特色である。此の成立が電撃的に行はれたことは此の條約此の三國同盟の成立の原因たる國際情勢の急迫且重大なりしに因るものであつて、正に本同盟の由來として特に検討を要する問題である。殊に此の由來は同時に本同盟の目的遂行の將來に重大關聯を有するものなるが故に一應詳説する必要ありと信ずる。

日獨伊三國同盟の由來に就ては、何人も一九三六年日獨間に締結せられ翌一九三七年伊國が、參加した防共協定を

想起するが、同協定は政治的文化的協定で同盟ではなかつた。眞に同盟締約の交渉は一九三八年七月今の駐獨大使大島中將が大使館武官時代にリッペントロップ外相との會談に始まり、爾來一九三九年八月迄一年有餘の日獨折衝が重ねられ、獨蘇不侵略協定成立と共に打切りになつたことも衆知の通りである。併し當時の國際情勢は今日と大いに異り、其の内容殊に同盟の目的が今の條約と著しき差異あることは推測に難からずである。日獨伊三國間に親善提携の空氣と運動が防共協定締約以來三國に溢れて居たことは確かだが、本同盟成立の原因としては、もつと痛切な必要と緊迫せる情勢が是非とも三國を聯絡せしむるだけに醸成せられねばならない。

抑々現時の世局騷亂の根本原因は、さなきだに世界の各民族國家間の國力即ち人口、領土、資源の分配の不公平就中重要資源の一二強國獨占下に偏在せる爲の經濟的國民生活の不安と、軍事上の要地資材の同様な獨占偏在に基く不斷の脅威の爲の軍事的國家防衛の不安と、此不公平な事態維持の方策として他民族國家の發展興隆を抑制せんとする政治的作動就中包圍政策に基く列國鬭争の爲めの政治的國際關係の不安と、此の三つの不安の世態が第一次大戦以後却て一段の深刻味を加へたのである。更に過去十年來日本の東亞に於ける、獨逸の中歐に於ける、伊太利の地中海に於ける鬱勃たる進展に對する經濟的抑制、軍事的威壓、政治的包圍が愈堪へ難き重壓になつた。既存の排他的經濟ブロック英米佛蘇の四大帝國の高率關稅、爲替管理、輸入制限、パター制等により、資源と資本に乏しき上に輸出工業に依存する日獨伊三國が如何に經濟的生活不安に驅られたか。一九三二年の倫敦に於ける世界經濟會議が工業原料分配案を四大帝國によりて葬り去つたことは世人の記憶に新たな筈だ。米國の太平洋に於ける優勢

艦隊の集中、華盛頓會議以後ハワイ其他南太平洋諸島、アリウシャン諸島其他の北太平洋主要地の大規模軍備の如き英國のシンガポール、香港要塞の大擴張、濠洲ニュージーランドの新舊軍港及南太平洋諸島の海空軍基地の急造の如きは何を意味するか。さては佛國すら印度支那のカムラン灣軍港計畫を立て、蘭國も亦東印度諸島に英米の援助の下に海空軍を擴張した。蘇聯は西比利亞に於ける軍用鐵道の増設極東軍の強化を敢行して居る。東亞太平洋に立脚する日本の國防上の不安は當然の事であつた。英佛の歐洲大陸に對する陸上軍備の強化、北地中海に於ける海軍の聯合及び軍港軍事基地の強化が、蘇聯の大軍備の完成と共に、中歐に於ける獨逸地中海に於ける伊太利とに、殆んど死命を制する底の威壓であつて、兩國が打開に焦慮して提携したのも必至の勢であつた。

そこで日獨伊の三國は此の重壓から脱して、各國それぞれ其の隣接地域内に於て、政治的に軍事的に共存安固の國家生存を遂げ、經濟的に共榮安定の國民生活を保つ爲に、舊秩序の重壓を打破して新秩序の自由を建設せんとし相互に協力せんとするは必然の事だ。一九四〇年九月二十八日の近衛首相の放送の意味は、以上の解釋を以てすれば、正に今次大戦開始前の國際情勢即ち三國同盟の成立の前夜の空氣を明晰に宣示したものと云ふべきだ。

活眼を開いて東亞と歐洲の現状を見れば、……獨逸及伊太利は歐洲に於て新秩序を建設せんとして居るのであり、日本は大東亞の地域に於て亞細亞本來の姿に基く新秩序の建設を期しつゝ、あるものであります。……しかしして日本が東亞に於て獨逸伊太利が歐洲に於てこの共存共榮權を指導すべき立場に立つことは歴史より見るも、地理上より見るも、經濟上より見るも是又必然の勢である。私はかゝる必然の傾向を阻まんとする處に歐

洲に於て第二次大戦の勃發を見、東亞に於ては準戦時國際關係の緊張を示すに至つたものと思ふのであります。果して然らば日本が獨逸に協力し、獨逸が日本に協力し、三國相寄り相助けの場合によりては軍事同盟の威力を發揮せんとするに至れる、又必然の勢である。

## 七、同盟促進の原因

然るに昨一九四〇年五月、六月一方東亞に於ては日本軍破竹の勢は連戦蔣軍を驅逐し、奥地に閉塞せる蔣政權の軍需物資の唯一の輸血路即ち佛印雲南路もビルマ雲南路も共に英佛との交渉皇軍の進駐によりて閉塞せられ、汪精衛氏の新中華國民政府が日本の後援によりて成立し、愈々東亞共榮圈建設の第一歩が固められんとするに至り、他方歐洲に於ては獨軍の電撃的進撃により、蘭白兩軍の降服に次いでフランダーに於ける英佛主力軍の大壊滅となり、伊太利の参戦によりて歐洲大陸を風靡し愈々歐洲共榮圈建設の第一歩は築かれんとした。永く歐洲各國の合縱連衡の間に隠顯して勢力對抗を煽つて來た英國、——歐洲新秩序の重大な障礙であつた英國の没落も目前に迫つた際に民主主義擁護の名の下に、舊秩序維持の背後の大勢力米國は、俄然英國に對する舊來の微溫的な(所謂德義的)援助より突進して英米合作即ち事實上の同盟に入る様になつて、東亞、歐洲本土、並に地中海に於て日獨伊に對する重壓は加つた。米の無比の資本と資源を英の世界各洲に跨る領域及富源に併せて、即ち世界の經濟資源の獨占偏在を利用して經濟封鎖に近き抑制を日獨伊に加へた。更に米國の世界第一の海軍の空前の大擴張の上に無比の英海軍

との共同援助並に英米兩國の世界の海、散在する軍事基地の強化共用、即ち國防上の要地の獨占偏在を活用して太平洋、大西洋、地中海に於て日獨伊三國に軍事的威壓を加へた。加之米國は舊時代の常用手段たる外國利用の方策を踏襲して蘇聯、泰國、佛印政府、蘭印政府を誘ひ、英本國の外其の自治領、印度、ビルマ、加奈陀と結び、蔣政権、希臘、英國に對する政治的、物質的援助を公約し、以て英米合作を中心に北海大西洋に於ける對獨包圍、地中海に於ける對伊包圍、太平洋に於ける對日包圍を劃策するに至つたのである。斯くの如くして英米合作による經濟的封鎖、軍事的重壓、政治的包圍は昨年五六月英佛の大敗、蔣政権の窮窮をキツカケに極點に達せんとし、米國大統領の公言せる如く戰爭一步手前の緊迫せる危局を顯出したのだ。此の急激なる國際情勢の切迫が、日獨伊の三國をして急遽之が對策を講じ、此の危局の擴大を迅速に防止する爲に、既に必然の趨勢であつた三國同盟を疾風迅雷式に成立せしめたのである。世界史的な大外交を未曾有の短期間に決行せしめたのである。三國同盟成立の原因たる電撃外交の由來は實に此の如くである。

本條約第三條の本旨も亦暗に米國の此の經濟軍事政治三方向の重壓に因る世界大戰の恐るべき慘禍の勃發を防止せんとするに外ならない。同條の所謂他の一國は特定國を目標とするものに非ざるも、米國自ら好んで三國同盟の神聖なる目的即ち共存共榮を基礎とする新秩序の建設を妨碍せんが爲、既述の三手段を極端に行使せんか、自ら第三條の他の一國となるは不得止ものである。此の解説と之に對する日本の斷乎たる決意は次に引用せる近衛首相の放送に簡明に述べられて居る。曰く

米國は日本が三國同盟を締結して世界新秩序建設に邁進する眞意を諒解し、且又新しい世界新秩序建設といふこととに米國自身が從來の立場を反省し相携へて協力するといふならば、日獨伊三國は喜んで米國にも協力することにならう。然し、米國がこの三國の立場を理解せず三國同盟を敵對行爲として來るならば、三國は敢然之れと戦ふ覺悟はある。

と、此の最後の三國の決意に就ては、一月二十六日の松岡外相の議會答辯に於て、更に同月三十日のヒトラー總統のナチス政權八周年記念日に於ける獅子吼に依てこれを裏書して居るのである。(昭和十六年二月三日稿)

## 第九章 三國同盟成立の根本原因

前章に於て世界動亂の根本原因として、一二強國の獨占支配下に人力物力の偏在するが爲に世界の各民族各國家間に於ける資源の分配の不公平なる事を指摘し、三國同盟促進の由來は此の分配の不公平偏在を利用する重壓が日本、獨逸、伊太利の三國に加へられ爲に醸成せられたる世局の緊迫に在ることを説明して置いた。而して更に之を(一)人口領土資源の偏在に基く經濟的國民生活の不安、(二)國防上の要地資材の偏在に基く軍事的國家防衛の不安、(三)新興民族國家抑制の爲めの包圍政策に基く政治的國際關係の不安の三方面に分ちて略説した。之れは現下の世局認識上重要な問題であるから茲に稍詳細に再説することは敢て蛇足にあらざるべしと信ずる。

一、物的資源の偏在

近代の世界動亂の根本原因は、シャハト獨逸蔵相の言の如く結局「持てる國」と「持たざる國」との對立闘争に在りとは本書の冒頭から屢々陳述して置いた所である。國力が中人口領土資源の不公平なる偏在こそ世界恒久の平和の爲には改革せざるべからざる病源である。三國同盟の企圖する共存共榮圈の建設は此の改革の第一着手であるのだ。而して所謂「持てる國」は特に第一次大戦後一九二九年の世界恐慌以來自己の人力物力を統制綜合して一種の經濟鎖國政策を採るに至つて此の病弊は一段の深酷を加へた。帝國主義獨占經濟プロツクは英佛米及蘇聯の四大強國に依てそれ／＼自己民族を中心として國際經濟上の堅城鐵壁の如く隔立せられた。今此の既存の四大プロツクの領土人口だけの概數を表示しても下の如く強大なものである。

プロツク名	本 國		全プロツク	
	面積	人口	面積	人口
一、英帝國	二四四、〇〇〇 方軒	四六、〇〇〇、〇〇〇 人	五〇、〇〇〇、〇〇〇 方軒	五二〇、〇〇〇、〇〇〇 人
二、佛帝國	四七〇、〇〇〇	四〇、〇〇〇、〇〇〇	一一〇、〇〇〇、〇〇〇	七〇、〇〇〇、〇〇〇
三、蘇聯邦	六、〇〇〇、〇〇〇	一三六、〇〇〇、〇〇〇	二二〇、〇〇〇、〇〇〇	一七三、〇〇〇、〇〇〇
四、米 國	一〇、〇〇〇、〇〇〇	一二七、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇 (汎米四〇、〇〇〇、〇〇〇)	二五〇、〇〇〇、〇〇〇
五、葡、蘭、白	一五七、〇〇〇	二二、〇〇〇、〇〇〇	六、七〇〇、〇〇〇	一一二、〇〇〇、〇〇〇

(註) 米國がモンロー主義の主張より汎米聯盟に躍起となり前後十數回の汎米會議を開き一九四〇年七月のパナマ會議に於ては西半球歐洲諸國屬領共同管理を決議した程であつた、今次の大戦による中南米諸國と歐洲諸國との隔離状態を利用して經濟的的合作聯盟の第一歩まで進みつゝありたるを以て、近き將來に米國中心の汎米プロツクは成立すると思はねばならぬ。仍て本表に參考として括弧内に汎米プロツクの領土人口を掲示して置いた。

これに比較すれば日本の領土は六十八萬一千方軒、人口は約一億、獨逸は領土四十七萬一千方軒、人口六千七百萬人、伊太利は其の荒涼たる阿弗利加の屬領を併せて三百六十一萬三千方軒、人口僅かに五千萬人に過ぎず。英帝國は世界に跨つて世界全面積の四分の一全人口の四分の一を占めるものとは比較にもならぬ。

加之此等四大プロツクは世界に於ける地上地下の資源の豊富なる地域を占め、英帝國の如きは十九世紀以來世界最強最富の國として永く四方に君臨する程の國力を擁して居ることは茲に縷説の要はあるまい。米國の如きは廣大なる一國の沃野に據り、其の偉大なる企業力によりて、農業、工業、鑛業等有ゆる産業は發展し、凡ての物資に於て生産過剰に苦む程の國力である。蘇聯は永く富源未開の大國であつたが、ソヴェット聯邦成立以後前後三回の五箇年經濟計畫によつて近年著しく富強となり、其の生産力に於て既に自給自給以上に達して居る。佛國は既に自給自給飽滿の域に達して居た。物資に至つては英帝國は食糧工業原料軍需資源に於て何一つ不足はない。米國は僅かにゴムと錫に於て國外に供給を仰ぐも汎米プロツク成立の上は何一つ缺乏しないのだ。蘇聯は僅かにゴムだけの缺乏であり、佛帝國は石油だけの不足で事は済むのだ。

此の四大プロツク殊に米英佛の三大國の資本力に至つては殆んど世界の資力を獨占するに等しいものがある。茲

には其の一例として資金を代表する金の分配について一覽して見よう。大體世界の金貨及地金は米弗に概算してざつと二百六十億弗といふ計算である。其の分配はスタチスト誌の計算では各國保有量の比率は

國名	一九三四年十二月 パーセント	一九三九年五月 パーセント
米	三九・一	七三・一
佛	二五・九	七・二
英	七・五	〇
瑞	三・〇	二・〇
白	二・八	二・三
和	二・五	二・五
アルゼンチン	一・九	一・八
其	一四・六	七・〇

然し戦亂の不安と戦時軍需品購入資金の爲めに此の世界各國の保有金の殆んど九割は米國に集中された。之が爲に米國は中部の山中に特別の地下大金庫を建造して之を貯藏するに至つた。其の金額はこれを日本の圓に換算九百億圓に垂んとする異常の數に上る。而かもこれを金貨として世界に流通もしない。又これを準備金として兌換券の

發行もしない。特別の番兵を以て保護し結局死蔵と同一だ。そこで獨逸の經濟學者は「世界の金は地中より出でて地中に歸る」と皮肉な批評した程、それ程世界の資金は英米佛の三大ブロックに偏在して居るのだ。米國に集中せられた金の所有國は米國二分の一英佛各八分の一其の他の五十數國が合せて四分の一といふ計算で、米國の一經濟學者が發表して居たのを見れば、前記三國就中米國に偏在すること甚しきものあるを察することが出来る。

これに反して日獨伊三國の如き未だ獨占的經濟ブロックを構成せざるものは、人口は一億乃至五千萬人に達するも、領土狭く(伊太利は面積は大なるもエチオピア、リビアの如き大部分は荒涼沙漠地にして生産力ある土地は狭小なり)物資は缺乏して居る。財政難資金難に苦んで居る。殊に工業原料は缺乏し、生活必需品すら外國に依存するの有様である。今此の物資缺乏資源貧弱の實情を、主要なる商品に就て概數的に説明を加へて大體の概念を得ることしよう。

第一に食糧問題であるが、日本は米其の他の穀類については最近一二年間相當巨額の外米輸入を行つて居るが、今次大戦前に於て即ち平時は滿洲よりの補給によりて自給の域にあり、幸に脂肪及蛋白質に就ては漁業の旺盛により魚類其他の水産物は無盡蔵に恵まれて居る。戦時と雖も増産計畫及節約によりて優に飢餓を免れる。獨逸伊太利は麥粉肉類脂肪に於て自給は出来ない。最近異常な國內農産の増加獎勵によりて、獨逸は全消費量の二割七分、伊太利は二割の輸入を以て足る様になつたが、努力缺乏による戦時農産の減少は免れず一層の不足を來す譯だ。これを米、蘇聯の生産過剩、佛の悠々たる自足自給、英は本國こそ七十五パーセントの輸入を要するも、これを英帝國全

體から見れば加奈陀一自治領だけで充分小麥を補給し得る實情を對照すれば、實に天壤の差であつて、動もすれば英佛米の諸國が經濟封鎖によりて獨伊の飢餓戦を企圖する所以である。

第二に重要工業原料の問題に至ては其の不公平なる分配偏在は一層甚しいものがある。例へば工業原料中の鑛産物、石油、石炭、鐵、銅、錫、アルミニウム、ニッケルの八種について其の世界全生産額に對する既存ブロックと獨伊との總生産比率を擧ぐれば

パーセント			
米	二五	獨逸	六
英	二〇	伊太利	一・五
蘇	一〇	日本	(省略)
佛	七		

而かも平時日本は石炭と銅のみ自給し得べく、獨逸は石炭だけ自給の外に輸出の餘りあり、伊太利は各品目中一つも自給し得ない状態だ。若し此の外に重要工業原料中の農林産物、綿とゴムをも加へて見れば四大ブロック中米、蘇聯、佛はゴムに就て自給し得ざる外は凡て自給自足して優に餘りあり、英帝國は凡て自給自足以上である。日獨伊は殆んど凡て不足缺乏外國よりの輸入に待たざるべからざるものである。

## 二、鐵と石油とゴムと錫の偏在

今少しく工業原料中特に軍用資材として絶対不可欠の鐵と石油とゴムと非鐵輕金屬について如何に資材資源の偏在せるかを詳説しよう。

先づ鐵については既に獨逸の生産力と鐵鑛との關係を第六章に説述したが、更に之を四大ブロック諸國と比較して見ると面白い對照を発見する。(例によつて概念を得る爲に態と百萬噸以上の概數を以て示すことにする。詳細なる數字は各種の統計年鑑を見られたい。茲には一九三六年、一九三八年即ち今次の大戦前の統計に基き平時の實情を表はすことにした。)

國名	一九三六年 鋼鐵産額	一九三八年 鋼鐵産額	鐵鑛輸入額
米	四八百萬噸	八〇	ナシ
獨逸	二〇	二五	一八百萬噸
蘇	一六	二〇	ナシ
英	一三・五(カナダを含む)	一五	六
佛	七	一〇	(輸出) 一八
※日	五・三	?	三・八
白耳義	三	三	一〇

※日本の統計は昭和十一年商工省調査による。尙伍堂商相は第七十議會に於て昭和十六年度日滿協同鉄鋼作業一貫により年産鋼材六百二十萬噸案を提示し、吉野商相は鋼鐵一千萬噸を期する計畫を發表せりと雖も正確なる統計はこゝに省略す。

斯くの如く日獨伊は其製鐵能力に於て大いに見るべきものもあるも、其の原鐵に至つては大部分否主として海外の輸入に俟つに反して、米、蘇、佛は其の製鐵能力の巨大なる上に原鐵は自給の外輸出の餘裕綽々たるものがある。英國は一見原鐵輸入國なるが如きも其の輸入はこれを自己ブロック内に求め得るのみならず、其の海軍力の優勢なる限り歐洲外に容易に之を求めつゝあるのである。日本も日滿支の經濟提携によりて之を補給し得べく、獨逸は一九三九年、一九四〇年の大勝によりてチエツコ、ポーランド、諾威、ルクサンブルグ、佛蘭西の如き歐洲の産鐵地帯を占領し瑞典の富鐵を確保し得たるを以て、伊太利を除きては三國同盟の諸國は大體鋼鐵に關しては差當り飢饉を發生する虞なしといふべし。然し世界の産額の七割五分を自給する大産鐵國米國の生産力は三國同盟を壓倒するものたることを看過してはならない。

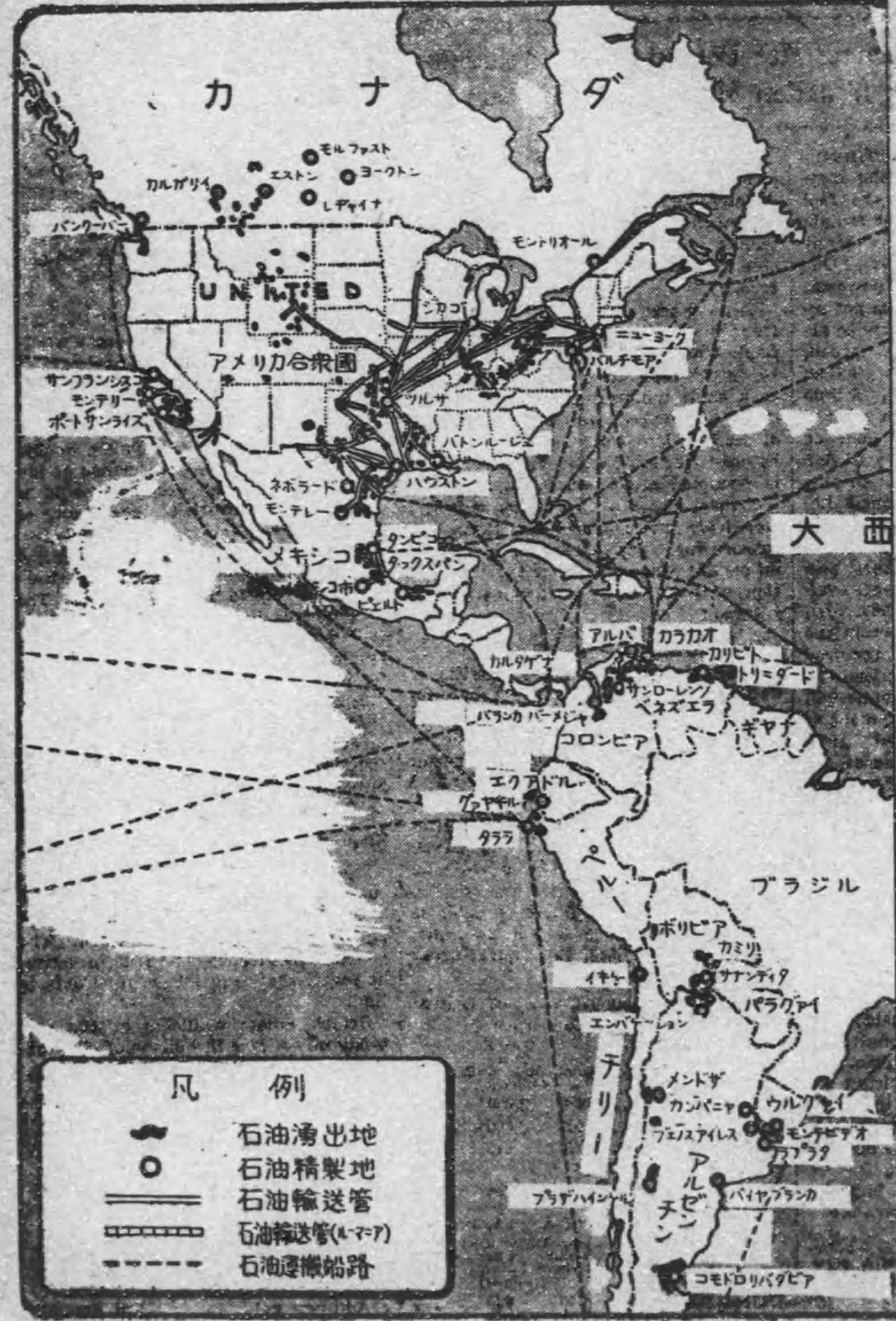
若し夫れ石油の問題に至つては、近代工業の内燃機關化に因り工業資材として頗り重要性を加へたる上に、軍備の大變革就中、空軍、機械化部隊、軍艦、潜水艦等の急激なる發達に伴ひ、石油が軍需資材中最重要品たる地位を占むるに至り、何れの國に於ても戦時になれば平時の倍額以上の消費を必要とするに至りしを以て、今や國力推算の第一要件は平戦時共に石油の保有量如何に在りといふも過言にあらざるべく、非常時の今日石油の一滴は血の一滴に

匹敵すと叫ぶ者あるも誇張にあらず、それ程石油の重要性は顯著となつたのだ。既に本書第四章に於て獨逸を中心として石油問題を説述して置いたが、茲に四大ブロックと日獨伊との間の石油の分配保有量の廣い見地から再検討して見よう。

資源分布の實情から見て物資々源の偏在の最も甚しいものは此の石油であることに注意したい。先づ下の表を一覽して世界の産油は殆んど四大ブロック獨占到屬し、就中英米の勢力圏内に世界の全産油の九十九パーセントを抱擁して居ることを看逃してはならない。

産 量 順 位	世界原油埋藏量(一九三二年末残存調査)		最近世界の産油量	
	(單位百萬バレル)		一九四〇年(九箇月間)	一九三九年
一 米 國	一一,〇〇〇	一〇,二二二	一,三二〇	一一,三三〇
二 蘇 聯	三,〇〇〇	一六四	二〇〇	二二二
三 ヴェネズエラ	二,〇〇〇	一四五	二〇〇	二〇〇
四 イ ラ ン	二,二〇〇	五九	八二	八二
五 蘭 印	一,〇〇〇	四五・八	五五	五五
六 ルーマニア	五〇〇	三四	五〇	五〇
七 メキシコ		三〇	三六	三六
八 イ ラ ク	二,五〇〇	二一	三〇	三〇
九 コロンビア		二〇	二五	二五

# 世界



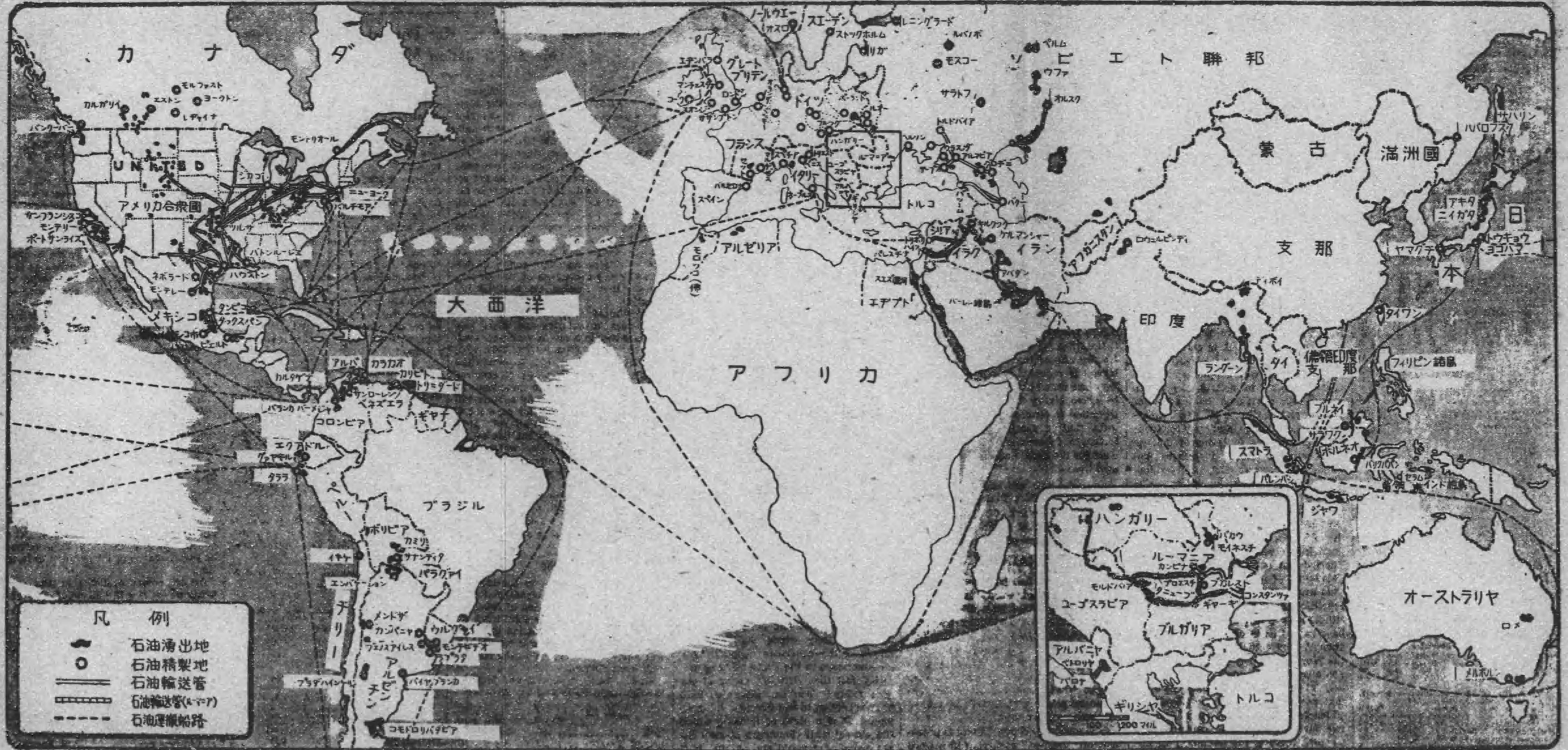
これに依つて五百萬バレル以上の産油國は十五箇國であつて、蘇聯、ルーマニアを除き全部米國、英國の領域

Number	Country	Production (Barrels)
一〇	アルゼンチン	一五・五
一一	トリニダッド	一五・〇
一二	ベネズエラ	一六・六
一三	カナダ	一六・六
一四	ビルマ	一六・五
一五	ペーレン	一五・五
一六	アルバー	一四・四
一八	アラビヤ	一四・四
一九	埃及	一三・八
二二	エクワドル	一三・八
二三	英領印度	一・七
一七	獨逸	X
二〇	ポーランド	X
二一	日本	X
二四	洪牙利	X
二五	アルベニア	X

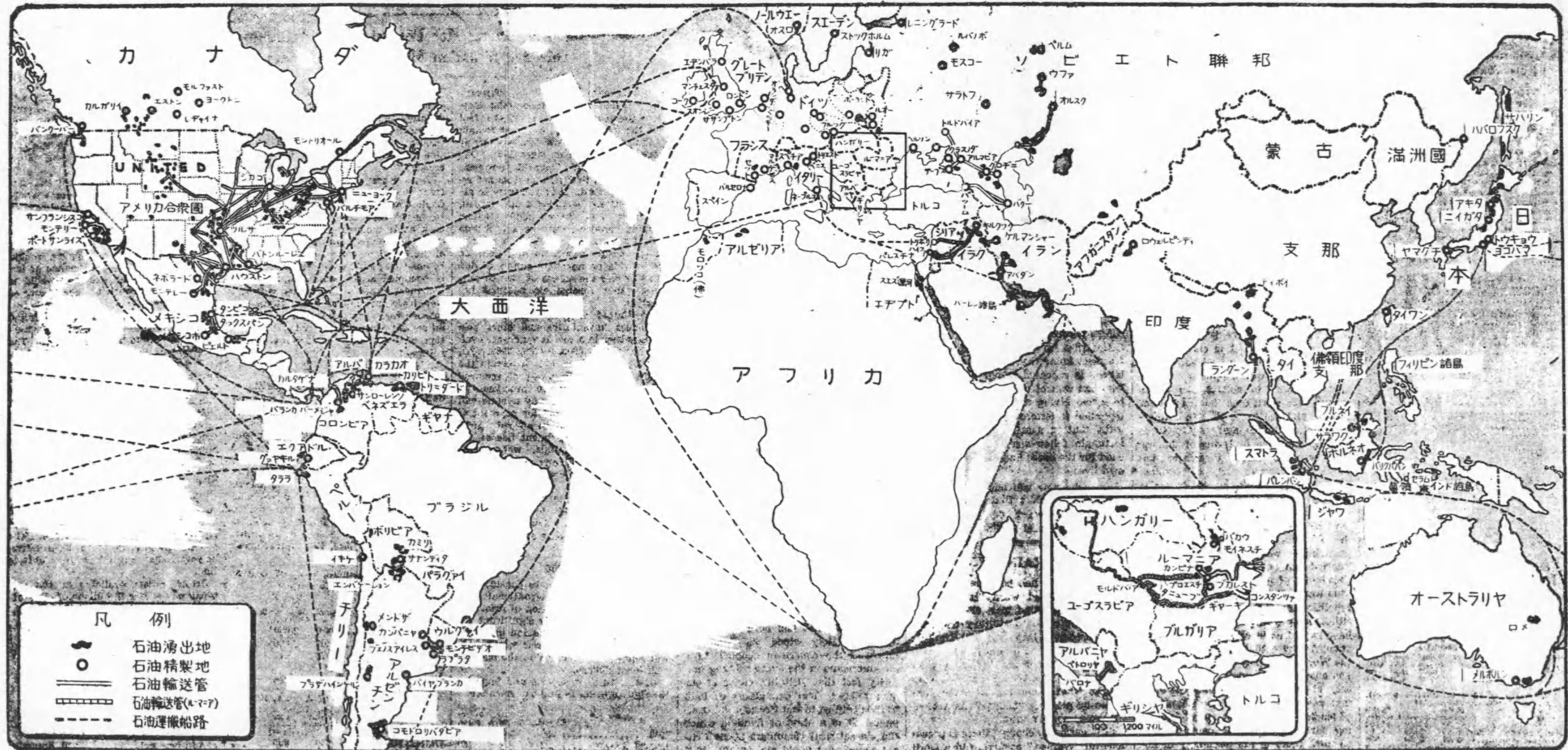
## 第一編 大戦と外交








# 世界石油散布図



# 世界石油散布図



- 凡例
-  石油湧出地
  -  石油精製地
  -  石油輸送管
  -  石油輸送管(パイプ)
  -  石油運搬船路



内又は其の資本系即ち勢力圏内に屬して居る。蘭印、メキシコに於て英米兩資本系の割據を見るも、南米の油田は大體米國の勢力範圍である。近東のイラン、イラク、大東亞の蘭印は大體英國の勢力範圍である。世界の石油は英米兩國に依つて兩分せられて居ると觀て差支ない。これに對して日本及獨逸は其の國內産額は消費量の數パーセントに止まる。伊太利に至つて殆んど皆無に近い。假令日獨伊三國が合成燃料生産によつて石油の補充に必死の努力を遂げても物の數にはならない。平戰時共に外國よりの輸入に依存せざるを得ない。此の故に此の三國は經濟生活の爲にも國防保全の爲にも、國內に於ける合成燃料の生産と同時に國外よりの輸入確保の爲には決死的奮闘を要するのは論を俟たない。獨逸が獨蘇不侵略協定を結んで、ポーランドの分割、バルチック諸國の合併、ベツサラビヤの回收等を承諾したのも、必竟如何なる犠牲を忍んでも世界第二の産油國蘇聯と合作して石油の補給を獲得せむ爲であり、其のバルカン出兵の工作も實は第六の産油國ルーマニアの石油を確保せむことが主たる目的の一つであつたのだ。伊太利が獨逸と共に地中海沿岸の開放の爲に乾坤一擲の對英對希の大戦を賭したのも世界第四位のイラン第八位のイラクの大油田の吐口即ち輸送パイプの終端たる佛國勢圍シリヤのトリポリ港、英國勢圍バレスタインのハイファ港、ベルシヤ灣のアバダン港を其の勢圍下に收め、以てイラン、イラクの産油を確保せむことを終局の目的の一とせるものと、英米側で臆断して居るのも故なきに非ずと思はる。日本が目下日蘭會商によつて蘭印との交渉に粘り強く陰忍を堅持して居り、大東亞共榮圏に蘭印の参加を勧誘して居るのも、實に此の世界第五位の産油國蘭印の輸入を確保せんことを主目的の一つとして居るのだ。後節に述ぶる太平洋危機の起因の一つも、此の蘭印石

油確保を妨害せんとする英米の對蘭策動對日威壓に在ると見るべきであらう。此の故に今次の大戦及現下の緊迫せる世局を以て石油戦争なりと評するものがあるが、正に戦術上に於ては石油の消費が主たる原動力であり、戦略上から見れば石油の争奪が決勝點でもあるのだ。

次にゴムの問題であるが今日工業原料として軍需資材としての重要性が俄然激増したのは石油と並行して居る。然るに現代の工業用のゴムは良質の栽培ゴムに限られて居る。アマゾン河畔や印度、ボルネオのジャングル中の天然ゴムに依存したのは遠き昔であつて、其上ゴム栽培は一朝一夕にして收穫を挙げ得ない。故にゴムの問題は數十年前から着手した最良栽培適地マレー半島、蘭印並英領ボルネオの獨占地位に左右せられて居るのだ。大體世界のゴムの年産は一九三七年に百十三萬五千噸、一九三八年に九十萬噸ザツト百萬噸の産額中八割七分はマレー半島蘭印實はシンガポールの市場即ち英國勢力下に獨占せられて居る。何一つ物資に不自由しない米國と雖も近年中南米諸國に栽培を始めたが今は全く英國勢力下に叩頭せざるを得ない。日獨伊の如きは猶更である。故にゴム程其の分配の不公平其保有國の偏在せるものは他には類を見ない。米國が躍起ミなつて日本の南進を阻止せんミする主たる動機の一つは、實に世界最大の消費者たる米國(世界全消費の五割七分)のゴム確保にありとも觀測せられる。左に其の概数を附記して置かう。

生ゴム輸出量(一九三七年)  
英領マレー 四八〇、〇〇〇 屯

生ゴム消費量(一九三六年末調)  
米 國 五七三、〇〇〇 屯

蘭印	三九〇、〇〇〇	英國	七九、〇〇〇
セイロン	八〇、〇〇〇	獨逸	七二、〇〇〇
英領ボルネオ	三〇、〇〇〇	日本	六一、〇〇〇
印度支那	二〇、〇〇〇	佛國	五六、〇〇〇
泰國	一八、〇〇〇	蘇聯	三一、〇〇〇
英領ビルマ	一三、〇〇〇	伊太利	一九、〇〇〇
南米	一〇、〇〇〇		

最後に錫の問題を略記して置きたい。これが又恐しく世界の一部に偏在して居る重要資源である。大體一九三七年の統計によれば世界の全産額二十萬五千噸であるが、ゴム同様に英領マレー、蘭印、ビルマ、泰國、佛印等、所謂南洋に偏在して居る。そして其製鍊所もマレー及蘭印に集中し英國勢力圏内にあるのも同様だ。現にゴム同様世界の錫市場は英國が支配して居る。近頃南米ポリビアに錫の産出があり米國が開發に努力して居るが、猶未だ大量には達しない。マレー、泰國、ビルマ等英國資本勢力下の産出量十八萬三千噸、蘭印二萬八千噸ミ見られる。そして最大消費者たる米國は八萬八千噸輸入して居るから、全世界産錫の四割三分の需要者と云へるが、全然英國の資源及支配力に依存するものではない、各方面から輸入して居る。これに反して日獨伊は全くこれに依存せなければならぬのである。

## 三、經濟封鎖の厄難

以上重要物資、軍需工業の主要資源の偏在の概念を與ふるこゝが出来たに信ずる。と同時に直に思ひ及ぶこゝは此の資源の保有と資本の集中が四大プロック就中英米に偏在せる結果、「持たざる國」少くも日獨伊三國は其輸出の市場から見ても資材の輸入源泉から見ても其の貿易は永く英米依存を免れざる實情であつたのだ。茲に其の計數を表記せずとも衆知の事實であり、何人も貿易統計表を一覽すれば正に一目瞭然の事である。既存四大プロック就中英米への依存貿易状態が、平時に於て國民經濟生活の死命を制し殊に戦時に在つては一國の興廢の鍵を握るの危険が伏在して居るのだ。此の資源の偏在、貿易依存の關係を屢々利用せられて政略上戰略上日獨伊三國は既往に於て苦い經驗を嘗めて居る。茲に大戦前後特に最近三國同盟成立前の經濟的抑壓の推移を述べることしよう。英米兩國の對日獨伊經濟抑壓の發端は、先づ一九三一年の滿洲事變、それから一九三三年ヒトラー政權出現後對外強硬策就中ライン進駐、賠償金支拂の停止、内外借款のモラトリアム、其の上一九三五年伊太利のエチオピア遠征等に對する英米の對抗策に始まるのである。當時の米國國務卿スチムソンの滿洲事變に對する憤怒的抗議、ルーズベルト大統領のナチス攻撃、英外相イーデンのムソリーニ彈壓と相俟つて、英米佛の三大プロックの對日獨伊の感情的憎惡と經濟的壓迫は加つた。之れが一九三五年迄の第一期抑壓時代である。更に一九三六年、日本の倫敦軍縮會議脱退、一九三七年の支那事變勃發、一九三八年獨伊樞軸の成立、チエッコ問題、ミュンヘン會議となり、つひに一

九三九年九月獨逸と英佛の宣戰となつて、英米佛の對日獨伊憎惡と壓迫は經濟封鎖に迄惡化したのだ。これが第二期封鎖時代である。然るに西部戰線膠着九箇月にして蘭白の野に於ける英佛軍の大敗となり地中海岸に於ける伊英の戰爭も開始せられ、同時に東亞に於ては皇軍の南支進撃よりひいて佛印進駐と迄なり、全く蔣政權は全面的閉鎖の苦境瀕死の類勢となつた。此一九三九年末より今日に至る迄第三期の世界大戰一步手前の緊迫時代である。斯くの如き經濟重壓は表面上貿易又は内政上の理由の名義に依るも實は純然たる政治的動機による一種の經濟戰に外ならないのである。

先づ英國の對日經濟戰から略述して見よう。一九三三年日本が滿洲問題の爲に國際聯盟脱退後同年倫敦國際經濟會議に於ける工業資源の分配問題の握潰しを手始めとし、一九三六年のオッタワ英帝國會議協定に基く保護貿易政策實行の名の下に、一九三五年迄の日本工業品の飛躍的海外進出の出身を控へ、世界に跨る英帝國プロック内に於て日本の輸出品に對し關稅引上げ及クォーター割當制及輸入特許制を以て一大打撃を與へた。其の上に日本の重要市場たる支那に於てリースロスの幣制改革によりて支那財政の實權を握り、剩へ蔣政府當局をして財政上の理由を以て實際上日本品に最も重き負擔を歸する關稅改正を行はしめて更に間接の經濟壓迫を加へた。之が第一期である。愈々蘆溝橋事件を以て始つた曠古の大戦支那事變となり、皇軍大陸を席捲すると同時に歐洲大戰の危局迫る第二期となつては、英國は終に米國と協力して日本に對する對抗策に出で、専ら軍器及借款によつて蔣政權の抗日持久戰を助けた。是れ即ち蔣介石を傀儡とする對日經濟消耗戰に外ならないのである。然しながら日本は英國の期待

するが如き経済的弱體ではなかつた。泥足の人形の如き腰砕けではなかつた。そこで第三期となつては最早英國は歐洲大戰に全力を奪はれて東亞に手を出す餘裕がない。偏に米國の手による對日經濟壓迫に一任するの外なくなつた。斯くして對日經濟重壓は専ら米國の責任となり、而かも今日迄日本の貿易殊に軍需資材の輸入は最も多く此の米國に依存せる實情なりしを以て第三期の對日經濟戰は最も深刻な譯である。

是より先日本は米國の反日工作なるものはスチムソン一流の條約論及弱き支那に對する同情による感情論に基因するものであると思つて居た。米國の支那に對する實質的利害はこれを投資の點から見ても極東全部に五億弗に過ぎず、それも三分の一は石油會社の設備投資、其の他は對支借款又は教會其他文化的投資に止まる、其の對支貿易の如きも支那事變後の急激な軍需品機械類の輸入によりて一時的増加はして居るが、之を米國全體の貿易から見れば支那は僅かに輸入一億五千萬弗輸出五千五百萬弗程度のもので九牛の一毛に過ぎない。其の貿易利益は米國人一箇年のチューインガム消費額に均しく煙草消費額の八分の一に過ぎない。評した米國評論家もある程で、之に對して日本の東亞大陸に於ける利害は一國の死活問題である程の密接不可缺な實際關係と比較するだけ對暮な話である。話せば分かるの見地から、宇垣、有田、野村の歴代外相は陰忍を盡してグルー米大使と日米會談を重ねたが終に米國は了解しようとはしなかつた。本年一月二十四日のハル國務卿の外交委員會に於ける證言は最も露骨に日本に對する米國の此の不理解を表明して居る。此の間米國は執拗に對日經濟抑制策と對蔣財政援助策を遂行して居た。唯直接に法律的に露骨に對日輸出禁止策には出でず、米國の製造業者に對して軍器や航空機部分品や高級ガソ

リンや其製造機械の輸出差控を内訓して所謂德義的禁輸モーターエムバルゴに止まつて居た。對蔣援助も棉花麥粉の現物によるクレヂット設定所謂棉麥借款程度に止まつて居た。中支南支の各港さては英の香港、ランゲン、佛印の海防を経て奥地に於ける蔣介石に軍器軍需品(殊に石油)の輸血をやる程度であつた。然るに前述の如く日本軍の南支進出、南支海上封鎖決行に次で東亞新秩序建設方針發表以來、俄然米國は極めて露骨に直接に對日經濟壓迫の策をとり出した。英國が歐洲大戰の爲に暫時手を引かざるを得なくなり天津上海租界問題法幣問題ビルマルト閉鎖等稍々有和態度を執ると反比例に米國は英國に代つて對日壓迫對蔣援助の第一線に立つに至つたのだ、それは一九三九年七月の日米通商條約廢棄に始つて今正に對日全面的輸出入禁止即ち全面的經濟封鎖策に突進せんとして居るのである。此の間の經濟壓迫策の重壓は衆知の通りであるから、詳細の説述を避けて單に其項目を列記して讀者の判斷に資するに止める。

一、一九三九年七月二十六日日米通商條約廢棄の通告、即ち一九四〇年一月より日米通商條約は失効となり日米

間は無條約關係になり、米國は自由に對日經濟的制限を行ひ得ることとなる。

二、一九三九年十一月大統領の發布せる中立法の改正

該中立法は表面上各交戰國に對して一律に米國人米國船の軍器軍需品の輸送は禁止するも、米國に於て現金を以て買入れ自國船を以て輸送することはこれを許す所謂 Cash-Carry 條項を設け大きな抜け道を造つた。これによつて實際上太平洋海上権を抑へ居る英佛のみに武器軍需品を供給し獨伊は事實上資金も安全輸送の船もな

いから禁止と同然だ。日本は太平洋上に自國船を運航し得るも、其の積荷に對して所謂德義的禁輸を行ひ且又日本への輸入に對して商慣習上の取引上のクレジットを許容しないようにして大いに對日輸出を抑制した。

三、一九四〇年六月以來矢張り早やに各種の輸出特許令を實行した。表面上國內軍需品確保並國防上の必要を理由とするも、一面には英佛及中南米諸國には除外例を設け、實際上日本のみに適用を企圖するものに外ならぬ。

(イ)六月 各種工作機械殊に飛行機部分品輸出特許令

(ロ)八月 屑鐵、航空用高級ガソリン輸出特許令

(ハ)十二月 鐵鍊、鉄鐵、鐵合金、並特定の鋼製品半製品の輸出特許令

(ニ)同 月 特殊金屬十五品目の輸出特許令其の中には軍器軍需品の製作に必要な、研磨材、光學測定機械、計量機、平衡機、試験機、水壓ポンプ、精密工具、航空機用滑油製造に關する装置及設計を含む。

英國側に於ても上記の米國の禁輸と併行して實施せる輸出禁止令は

(イ)十二月加奈陀のニッケル、銅の輸出禁止

(ロ)埃及棉の英帝國外輸出禁止

四、今後豫想せらるべき又現に米國官民の間に論議せられつゝある對日禁輸案、換言すれば全面的經濟封鎖は近く終に實現せんとする形勢である。

(イ)石油の全面的對日輸出禁止

(ロ)日本の生絲の米國輸入禁止

續て英國の對獨伊經濟壓迫に至つては、既に一九三五年國際聯盟を通じて伊太利に對する財政經濟ボイコット決議によつてムソリーニは酷く苦しめられた。當時若し英國が蘇聯米國をも引込んで石油の非買を決定せば伊太利は英國に開戦すべきことを公言した程である。更に英國は獨逸に對する海上封鎖を利用して一九四〇年五月伊太利の必要不可欠なる獨逸石炭の輸入をも抑止し終にムソリーニは參戰を執行するに至つた。獨逸はヒトラー政權になつてから、夙に英佛米から資金及クレジットは拒絶され、事實上貿易は抑制せられ、止むなく蘇聯バルカン諸邦西班牙葡萄牙とのバアター貿易によつて急を凌ぎ來り、一九三九年九月宣戰以來は北海大西洋地中海悉く封鎖せられ、伊太利と共に夙に英國側の經濟的壓迫は覺悟の上でこれが對抗策を遂行して居るのだ。従て目下日本のみが非戰狀態に在りながら英國の爲に資本及物資の獨占偏在を利用して全面的壓迫を蒙りつゝあるのだ。素より日本と雖も戰時經濟の運営上英米勢力圏から未だ脱却するを得ず、陰忍に陰忍を重ねてこれが對抗策を防衛的消極的ながら實行し來つたが、昭和十六年度物動計畫からは英米依存の重壓から脱却せんとして必死の努力をなして居る。大東亞共榮圏の建設日滿支の合同物動計畫に邁進し、日佛印會談、日蘭印會商、日泰協定の如き皆、この英米依存脱却、英米の經濟重壓克服の爲の努力の一端である。斯くの如き英米の經濟重壓は實は戰爭一步手前の脅威であつて、同一狀態に在り同一の利害を有する日獨伊三國が同盟による對抗策を講ぜざるを得ざる立場に追ひつめられたのだ。同盟促

進の主たる原因の一つは實にこの英米の經濟壓迫であるのだ。ルーズベルト大統領は舊臘歲末の爐邊閑談に於て

米國は先づ第一段階として戰爭の局外に自國を置く目的で英國を援助して居る。

と稱し、米國新聞紙は、

米國の英國援助は英をして獨に勝たしむる爲でありこれに依て獨米戰爭を避くる爲である。蘭印、比律賓を助くるのは日米戰爭を避くる爲である。

と嘯いてゐるが、これは肚裏に於てか、る援助が一步進めば戰爭となるを覺悟の無言の挑戰である。その上に大衆に對しては日獨伊の西半球及南洋侵略の野心が三國同盟の動機であり、この同盟によつて米國に挑戰して來たが故に有ゆる軍備、財力を以て之に對抗する必要がある。經濟上の壓迫を深刻にするのも反省を促す一手段だ。米國政客も新聞も説いて居る。正に原因結果の混同にあらずして何ぞやだ。

#### 四、國防要地の偏在

世界資源殊に國防資材の地理的散布が一地方に偏在し、しかも二三強國の政治的軍事的方策によつてこれを獨占保有する結果、國力の分配不公平となれる現狀に就て前節に説述したが、これと同様に世界の軍事要地の地理的散布も亦一地方に偏在し、しかも二三強國の先占奪略による獨占割據は、各國の國防及戰略上に著大な差異優劣を來しこれが爲に或る一國は他の一國の爲に常に脅威を感じる状態に置かれる。この資源要地の地理的偏在、政治的獨占

が世界不安の原因の一つである。恒久の平和はかゝる不公平を矯正して、各民族國家存立の地理上の自然の條件其の發展の地理上の自然の進路を開放すべきである。國際政治の動向の説明はこの點から出發すべきだ。現在の不自然な政治上の國家地域を基礎として地理學を論ずるのは科學的ではない。宜しく地理的自然に基く政治學即ち、Geopolitik を建立すべきであつて、從來の政治地理學即ち Political Geography は再檢討すべきだといふ學說を唱へた獨逸の學者があるが、正にこの資材要地の獨占偏在の不自然状態即ち舊秩序を打破して自然の共榮圈新秩序建設を目指す三國同盟の基礎學と稱するも誇張に失せざるべしと思ふ。

軍事要地の地理的偏在の實情を觀察するに、西半球が太平洋と大西洋の二大洋によりて遠く舊世界から隔立して居る點と、濠洲が遙に南太平洋と南氷洋により新舊兩世界から隔離せられて居る點とは、今日迄此等大陸を國防上安住地となして居た。共に未開野蠻の原住民を征服して優越なる白人の民族國家を建設し、近隣に競争の地位に立つ程の強力な異民族の存在しない事が何といつても國防上安固の地位を今日迄保證し來たのだ。

陸上の軍事上の要害の偏在問題は主として歐羅巴及亞細亞の強盛な異民族國家對立の間に存するのである。而して今日迄は險阻な山嶽と渡渉の困難な大河が軍事上の要地となつたのである。中央歐羅巴に於けるボヘミア高原、アルプス山脈、ライン河、ダニューブ河、東南歐羅巴に於けるカルパト山脈、西歐羅巴のピリニース山帯の如きは其の著大なるものである。獨逸は常に南ボヘミアの如き軍事上の要地を他國の占據する限り安全感を得なかつた。三十年戰爭、ナポレオン戰爭、普墺戰爭、ヒトラーの南進軍の目標は實にこの中歐の天王山ボヘミア要地の争



奪戦であつたといふべきであり、普佛戦争も第一次大戦西部戦線の激戦も、今は中歐の要所ライン河の攻防である。バルカンの動亂は必竟ダニュープ河とカルパト山脈の二大軍事要點の争奪戦で、東南歐の川中島合戦と見るべきである。

亞細亞に於ては古來中央土耳其斯坦地方一帯の高原が第一の要地であつて、蒙古、支那、印度、波斯の争奪戦の舞臺であり、近代に於ける露英の闘争がアフガニスタン、波斯の高原を争奪の地點としたのもこれである。東亞に於ては阿爾泰連山が古來漢民族帝國、蒙古、滿洲民族、中亞諸民族の争點であり、黄河、揚子江、黒龍江、鴨綠江が蒙古人種に屬する諸民族の争奪の要所であつた。近代に至つては日清、露支、日露の諸戦役の争奪點であつたことは讀者の記憶を喚起する迄もあるまい。

此等の陸續きの要害は近代の武器及戰術の著しき發展の爲に其の堅牢不拔性は大いに滅却した。殊に最近の戰車砲の進歩、海軍艦船の發達、空軍の異常な活動は、此の陸上の自然の要害の重要性を著しく減殺した。寧ろ人工的な築城やトーチカや壘塞の建造によつて國防の第一線とするやうになつた。近代に於ける歐洲地圖の數度の變更最近の獨逸軍の大勝は、實に此の陸上自然要害の價值減退を如實に物語るものである。

これに反して海上の要地の重要性は海軍空軍の發達の爲に著しく増大したのである。此の海上の要地は島嶼と港灣と海峡であることは申す迄もないが、其の世界の要地點が殆んど英米の勢圍内に偏在獨占せられて居る事が現時の國防上の不安と脅威の根本原因である。之が爲に最も重壓を感じつゝあるものが獨逸

伊太利、日本である。加之既に述べたる如く、世界の資源及財力の八九割を保有して居る英と米とが、資源資力此の軍事上優越の要地を併せて、經濟上軍事上の合作換言すれば、事實上の同盟の作動を以て、獨逸に對しては北海大西洋に於て、伊太利に對しては地中海に於て、日本に對しては太平洋及南支那海に於て經濟封鎖の重壓と軍事上の脅威を加へんとする所に、現時の世局不安の重々しい雰圍氣が漲つて居る病根があるのである。

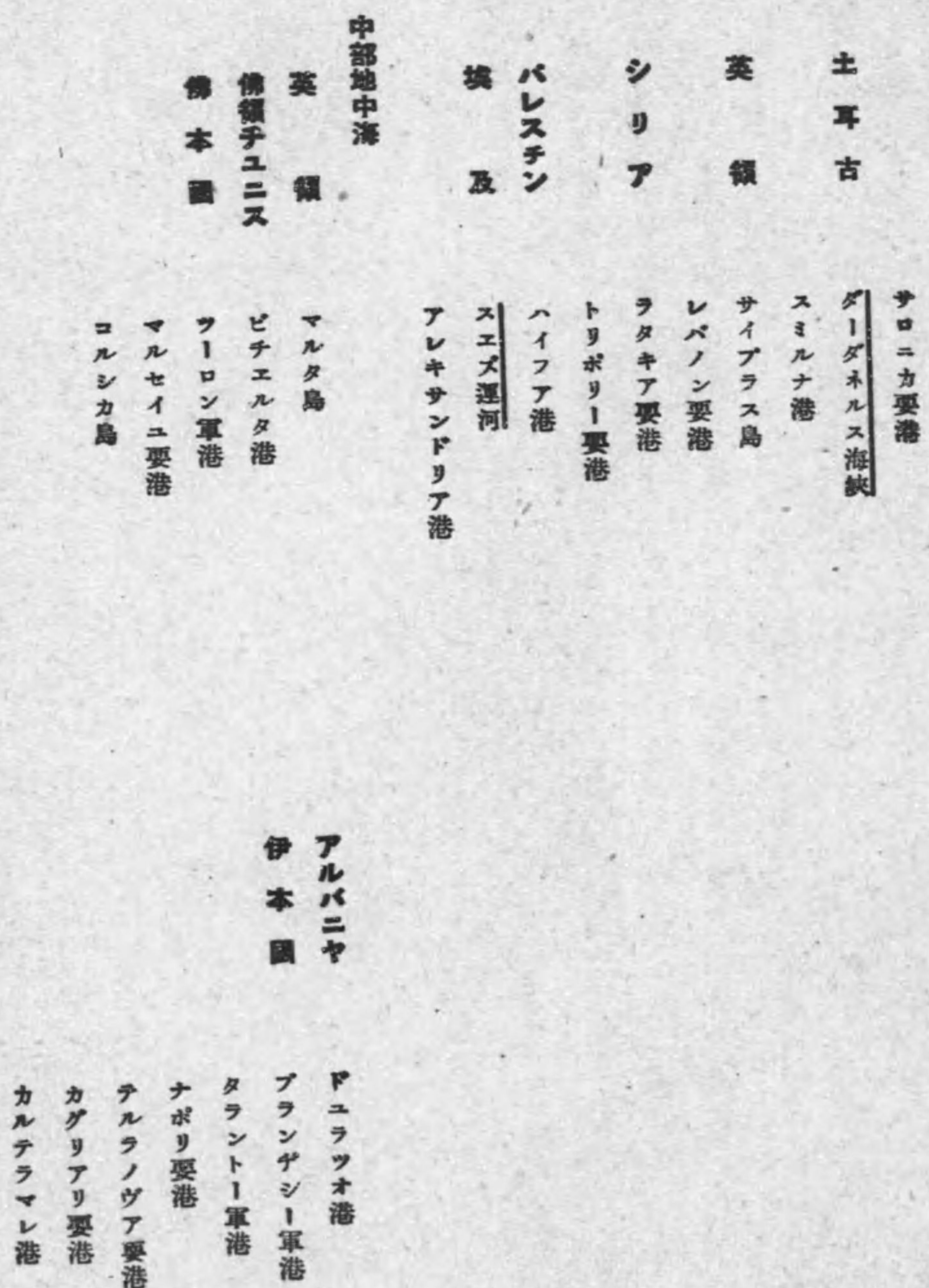
## 五、歐洲に於ける軍事海軍要地の偏在

先づ歐洲に於ける海灣は北にバルチック海、南に黒海は最近の獨蘇合作によつて蘇聯露西亞の獨占内海となつた。即ちバルチック海内の要港はクロンスタット(蘇領)、ハンデ(舊フィンランド領)、タリン(舊エストニア領)、リガ(舊ラトヴィア領)は悉く蘇聯の手に落ちたが、メメル(舊リスマニア領内)、ダンチツヒ(舊波蘭領内自治領)、スウイネミュンデ、キールの諸要港とバルチック海唯一の出入口カテガット、スカゲルラツクの兩海峡が昨年四月の北歐戰によつて完全に獨逸の手中にあるを以て、獨蘇は相牽制してバルチック海は何れか一國の獨占には陥り得ない。黒海は一九四〇年八月のベッサラビアの合併によつて殆んど(ルーマニアのコンスタンタ、ブルガリアのヴァルナ要港を除き)完全に蘇聯の内海化した。其唯一の出入口ボスフォラス、ダーダネルス兩海峡が土耳其古の手中に在り、其の背後に相互援助の盟邦英國ある限り蘇聯はこれを閉鎖された同一である。

北海に於ては東に諾威、丁抹、西に英島國、南に獨逸、和蘭、白耳義、北佛蘭西が海岸線を分割占據して居る。

其出口の一つは英吉利海峡で、これは佛のダンケルク、セルブール、ブロンニュ、ル・アーヴル、ブレストの軍港に、英のドーバー、ポーツマス、プリマス諸軍港によりて固く閉鎖され、他の北の廣い出口は英國がロシス、インヴェルゴルドン、スカツパフロアの三大軍港の外に、セツトランド島更に丁抹領フアロス島まで占領して、英國封鎖艦隊は一隻の艦船をも逃出入を許さない。況んや東海岸の那威の要港ベルゲン、スタヴァンゲル、クリスチアンサンズは英國の實際上の盟邦の手に在り、獨逸は僅にキール運河口とウキルヘルムハーヴエン軍港とヘルゴランド島を擁して自己の海岸襲撃に備ふる以外は、全く英國海軍の袋中に包括せられて居るのだ。此の北海封鎖が第一次大戦第二次大戦に於ける獨逸の苦悶であり飢餓戦の慘禍の原因でもあつた。獨逸軍は最近僅に北歐戦争に蘭白侵襲に北佛大戦によりて大勝を博し、其の結果東海岸と南海岸の要港を占領して、英國に對する反對封鎖に英本土上陸戦の脅威に逆轉することが出来たのだ。

地中海に於ては英佛伊の生命線の交叉背反に就ては既に本編第二章第六節に詳述せる所にして再説の要なきも、左に地中海要地の英吉利勢圖と伊太利勢圖分配の實狀を表記して一目瞭然たらしめむ。



西部地中海

佛領アルゼリア

アルシエル要港

佛領モロッコ

オラン軍港

英領

カサブランカ港

英領

ジブラルタル要港

友邦西班牙

バレアリック群島

カルタヘナ港

カサズ港

リビア

メツシナ要港

カタニア要港

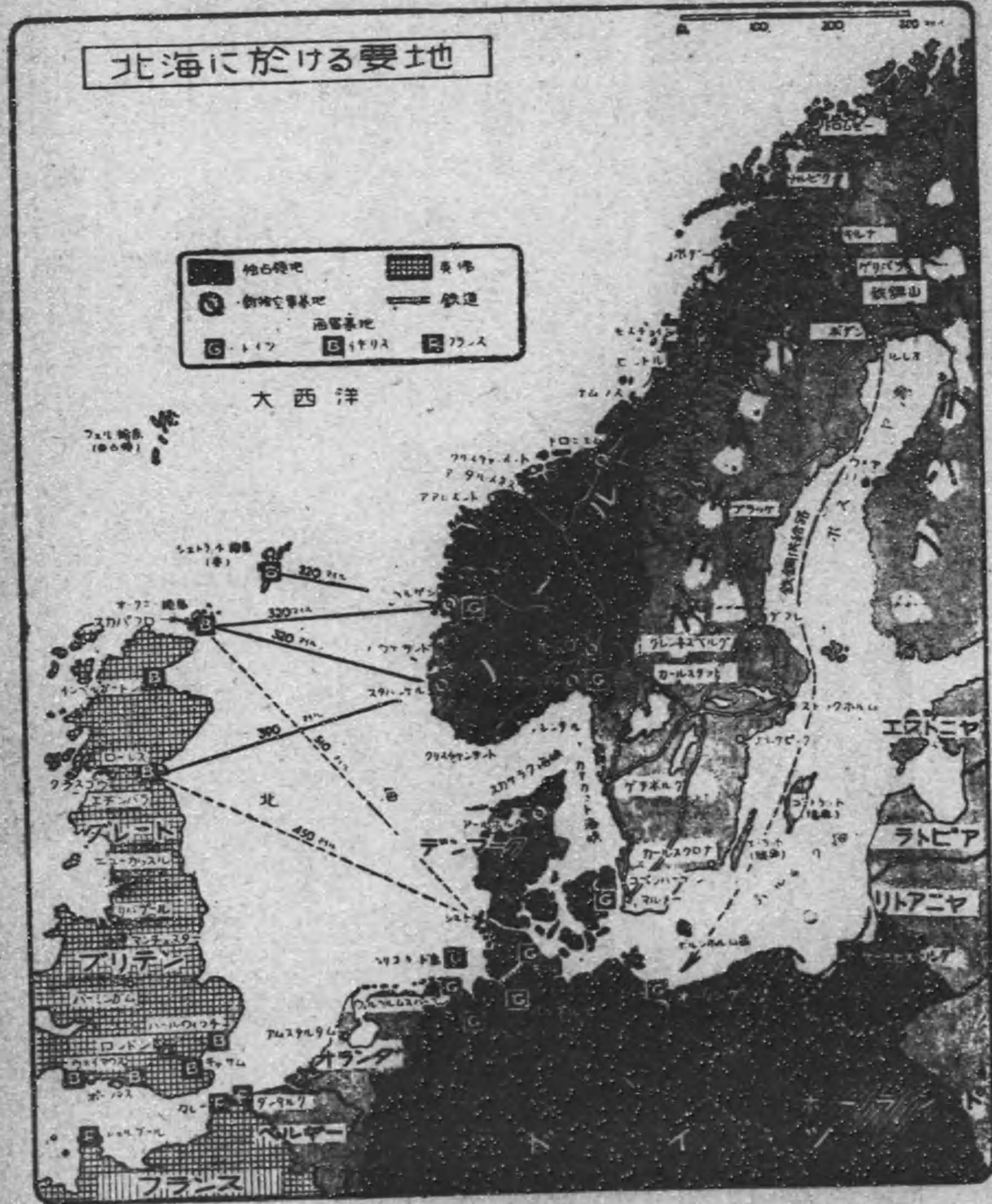
パンテラリア島

ベンガザ要港

トリポリ要港

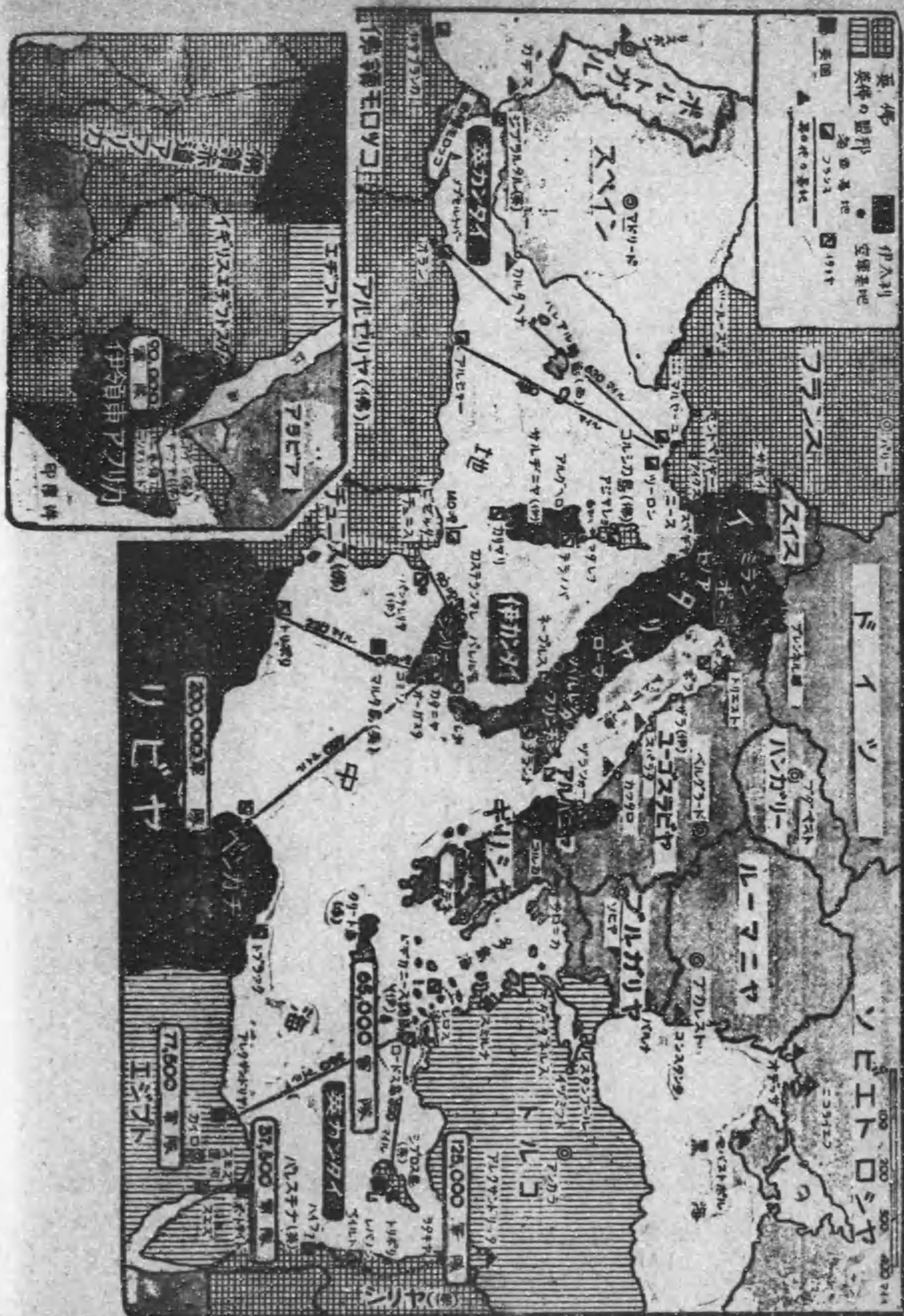
而して最も重要な點は伊太利が中部地中海に要地を占めながら、阿弗利加の植民地エチオピア、ソマリーランドは孤立し、リビアすら動もすればマルタ島及びビチエルの要地の爲に中斷せらるゝの危険あり。就中地中海の二つの出入口スエズ運河ミジブラルタルが全く英國の手中にあるを以て、伊太利は獨逸よりも簡單に囊中の鼠となり、兩口も狭小且つ堅牢な要塞と大海軍の爲に封鎖突破は思ひも及ばず、所謂地中海の囚虜の地位に陥れられ、伊太利が最も厳しい海上封鎖の重壓に苦められて居るのだ。

轉じて歐洲阿弗利加と北南米の重要交通路たる大西洋に至ては中立國葡萄牙の要港リスボンと洋中の要地マデ





地中海に於ける要地



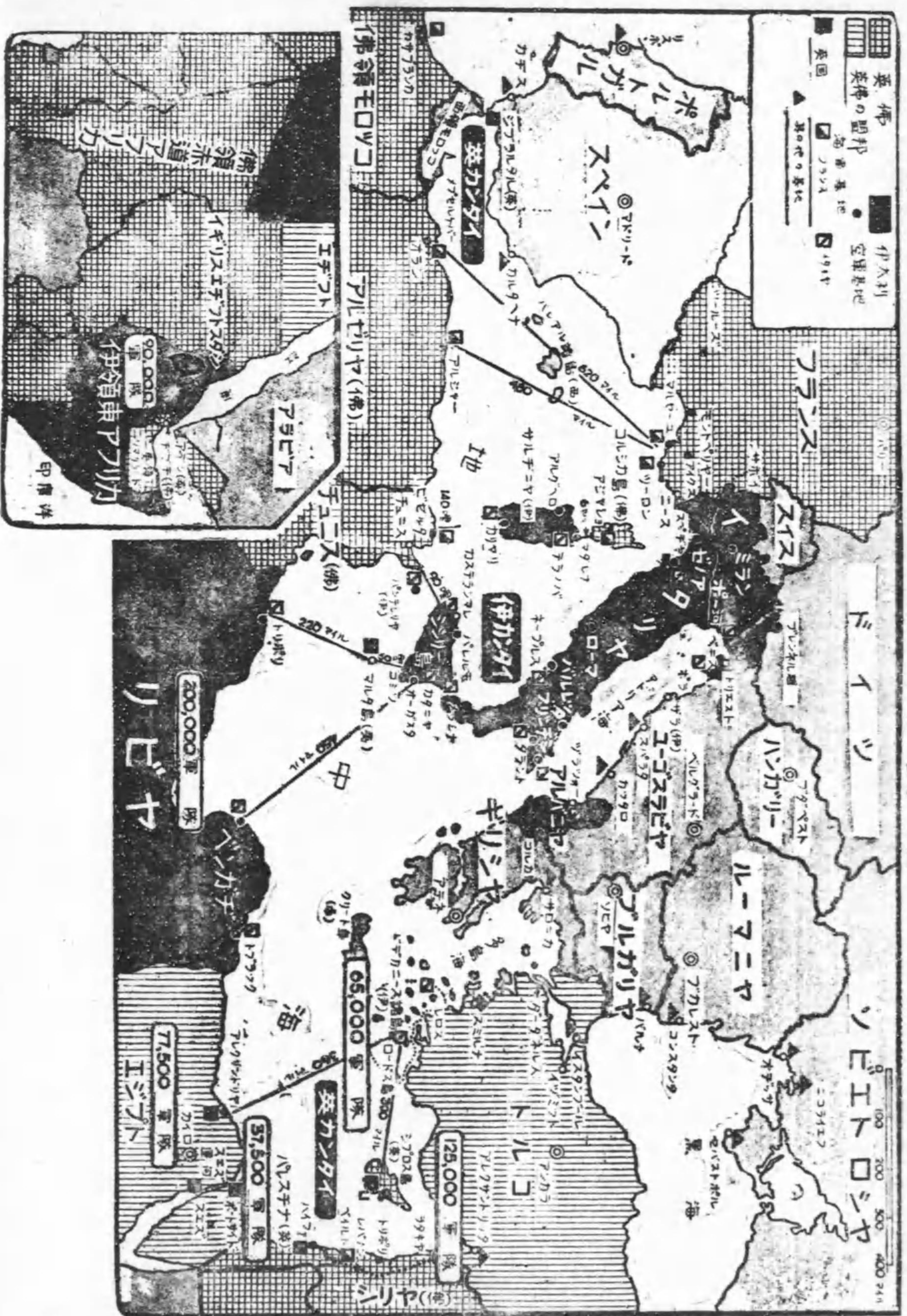
イラ島、アゾレス島、佛、蘭領の西印度諸小島を除きて、海軍基地となり空軍基地となるべき島も港灣も悉く英米の勢圏内に隷屬し、殊に世界に最も優勢なる英海軍と米海軍と提携して他の諸國に一指をも染めさせない状態だ。獨逸潛水艦隊や快速艦の商船撃沈によりて英米の航路を脅かしつゝあるも、軍事的見地よりすれば大西洋は英米の内海に等しい状態である。此の大西洋問題に就ては後節英米合作を論ずる時に詳説しよう。

轉じて印度洋に於ける要地の分布を見れば北に於ては紅海を扼するアデン要港、ペリム、ソコトラ、キユリアオマリア諸島、ベルシヤ灣を扼するバールン島、ラツカダイツ、マルダイツ兩群島、印度錫蘭の各要港、ビルマのマルタパン灣、マレー半島のベナン要港の如き、西方阿弗利加海岸にはケーブタウン、ダルバン兩要港、ザムジバル、アルダブラ、モーリシアス、ロドリゲスの諸島、さては中央洋上の要所サイチエル、チャゴス、ココスの諸島に加ふるに濠洲印度洋岸の諸要港並に事實上殆んそ英國勢力下に抱擁せられんとする蘭印の諸港諸海峡は悉く英國勢圏内に在り、印度洋は實際上英國の内海に等しい状態だ。

六、太平洋及南洋に於ける海軍要地の偏在

最後に太平洋なる茫々たる世界表面の三分の一を占むる大海洋に於てすら、其の沿海の港灣と島嶼とは日本の沿海を除いては、英米其の友邦の手に北西南の三方より遙に包圍せらるゝの状态にあるのだ。地圖を一覽すれば直に注目せらるゝは太平洋の通路の海峡及運河は北にベーリング海峡、西にマラツカ海峡、東にパナマ運河ありだ。だ

地中海に於ける要地



イラ島、アブレス島、佛、蘭領の西印度諸小島を除きて、海軍基地となり空軍基地となるべき島も港灣も悉く英米の勢圏内に隸屬し、殊に世界に最も優勢なる英海軍と米海軍と提携して他の諸國に一指をも染めさせない状態だ。獨逸潜水艦隊や快速艦の商船撃沈によりて英米の航路を脅かしつゝあるも、軍事的見地よりすれば太平洋は英米の内海に等しい状態である。此の太平洋問題に就ては後節英米合作を論ずる時に詳説しよう。

轉じて印度洋に於ける要地の分布を見れば北に於ては紅海を扼するアデン要港、ペリム、ソコトラ、キュリア・マリア諸島、ベルシャ灣を扼するバレン島、ラツカダイヴ、マルダイヴ兩群島、印度錫蘭の各要港、ビルマのマルタバン灣、マレー半島のベナン要港の如き、西方アフリ加海岸にはケープタウン、ダルバン兩要港、ザムジバル、アルダブラ、モーリシアス、ロドリゲスの諸島、さては中央洋上の要所サイチエル、チャゴス、ココスの諸島に加ふるに濠洲印度洋岸の諸要港並に事實上殆んそ英國勢力下に抱擁せられんとする蘭印の諸港諸海峡は悉く英國勢圏内に在り、印度洋は實際上英國の内海に等しい状態だ。

六、太平洋及南洋に於ける海軍要地の偏在

最後に太平洋なる茫々たる世界表面の三分の一を占むる大洋に於てすら、其の沿海の港灣と島嶼とは日本の沿海を除いては、英米其の友邦の手に北西南の三方より遙に包圍せらるゝの状態にあるのだ。地圖を一覽すれば直に注目せらるゝは太平洋の通路の海峡及連河は北にベーリング海峡、西にマラツカ海峡、東にパナマ運河ありだ。だ

がベリリング海峡は米國のアラスカ要港ダッチハーバー及アリユシアン群島によりて扼せられて居る。パナマ運河は米國の大要塞である。マラッカ海峡に至つてはシンガポールの大軍港によりて英國の手に閉塞せられる。従て太平洋の東西の兩出入口パナマ運河とマラッカ海峡は米英との最も嚴重に掌握すること、恰度地中海の兩出入口スエズ運河とジブラルタル海峡が英國の手に強く閉ざされて居ると同様の情勢だ。然るに太平洋は茫茫たる大洋である。亞細亞沿海の日本海、黄海、支那海は日本列島の自然の地理的地位上、軍事上の要港及島嶼が日本の手にあるが爲に東亞大陸との聯絡海路は日本の手に握られて居る。最も列國關係の錯綜せるは南支那海である。俗に外南洋と稱せらる、此の海洋は北は臺灣南支の福建廣東二省、東は米領比律賓群島、南は蘭印のボルネオ、スマトラ、英領のサラワク、マレー半島、西は佛印泰國によりて圍繞せらる、大海である。日本が生命線の一として大東亞の共榮圈内に在りと主張する一帯の諸外國領域に包まる、海洋だ。軍事上の見地から近來喧しい南洋問題も茲に在るので。

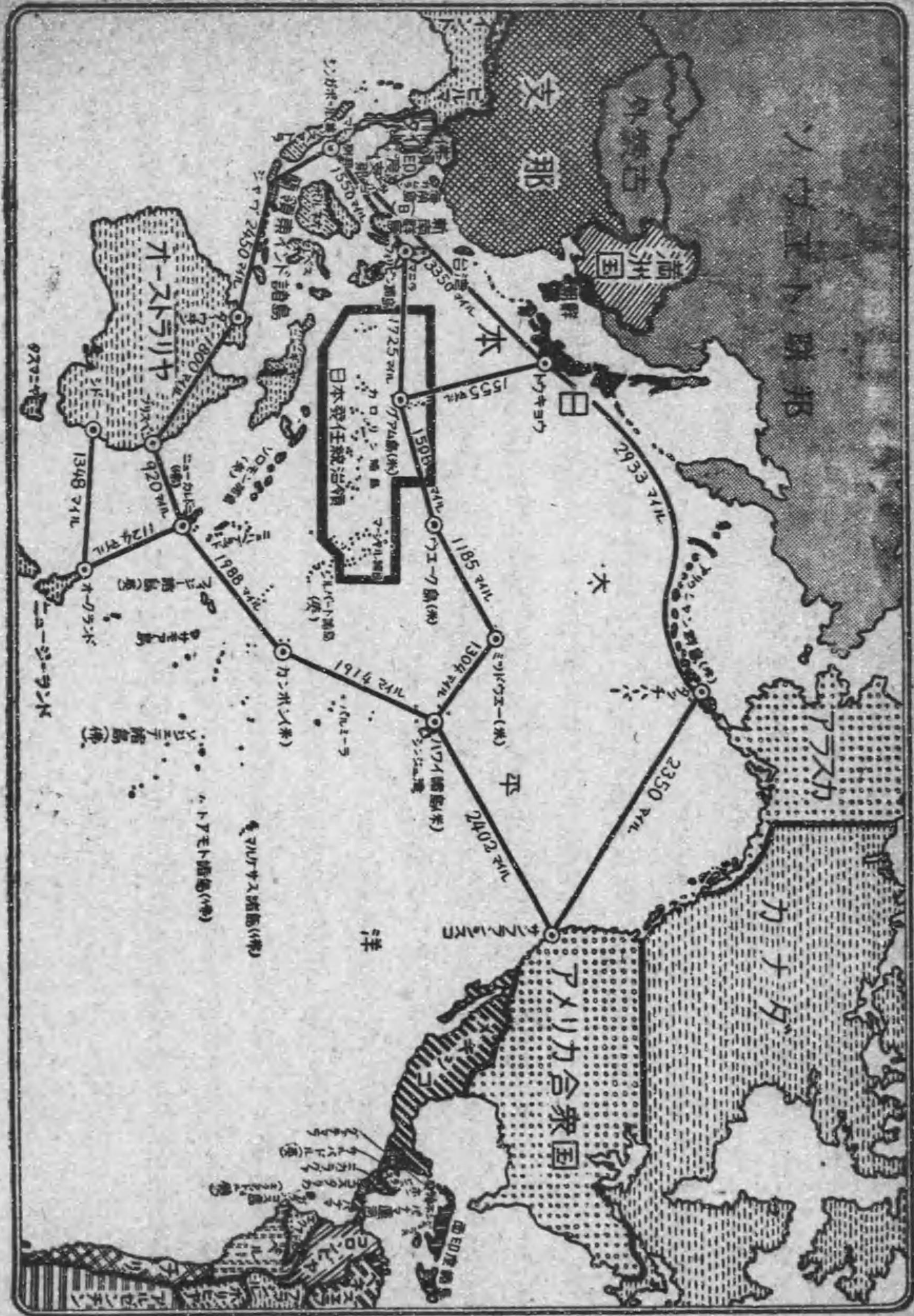
此の南洋の軍事上の要地にして、日本の領土又は占領地帯に屬するは臺灣、澎湖島、新南群島、及南支港灣と海南島である。米國の手にあるは比律賓の諸港灣就中マニラ港である。英國の手に在るは香港、シンガポール、及北ボルネオの港である。蘭印に屬するはスマトラ、ボルネオ、ジャバ、セレベスの諸要港である。佛印に屬するは海防、カムラン灣、西貢諸港であり、泰國のシャム灣も亦然り。かく諸國の軍事要地の相對峙する關係上、蘭印が最も多く港灣を有し、英國と米國が最も堅牢なる要塞及軍港を把持し、日本が最も優勢なる海軍力を此の海上に擁して居るのだ。然るに太平洋問題にして今論議せられつゝあるのは此の南洋に關聯しての幅壹萬哩以上に亘る南太平洋の軍

軍事上の要地の問題である。

太平洋問題に關して佛蘭西は遠く本國より孤立して南支那海に濱する印度支那と南太平洋上に散在する諸島を保有する。(一)ニューカレドニア諸島、(二)ニューヘブリド島、(三)ソシエテ諸島、(四)オーストラル諸島、(五)ツアモト島、(六)マルケサス島がそれ共に海軍の給油基地空軍基地にしては重要なも何等軍事的設備はない。今は英國に政府を建てたドゴール派の手にあるが、凡て周圍の要地を占據せる英國の手に左右せらるゝのみだ。和蘭に至ては世界第一の島帝國と大富源を構成する蘭印諸島を擁する關係上、而かもスマトラ、ジャバ、ボルネオ、セレベス、モルツカ諸島、小スンダ諸島、ニューギニア南洋の屏障を形造くるが如く二列に點々連續して、英領マレー半島から濠洲にかけて之を連結する橋梁の如く飛石の如くである。従て南洋に於ける軍事上の許多の要港要地は蘭印に集つて居るといふべきだ。蘭印問題が太平洋問題の重要點たることはこれで明かであらう。従て一旦事ある場合、蘭印が何國の勢力下に從屬するかが軍事上の重要問題でもあるのだ。

繼て英國の南太平洋に於ける軍事上の地位は(一)ニューギニア島、(二)濠洲、(三)ニュージーランドの大島は素より、濠洲と南米間赤道の南方に散在する萬を以て數ふべき大小諸島嶼(上記の佛領諸小島を除き)は悉く英領に屬して居る。故に赤道以南の南太平洋は英國の勢力下に屬すと云ふべきであらう。

唯赤道以北に於ける太平洋を横斷する數千の小島嶼に至ては日米軍事要地の交錯を見て居る。米國の海軍要地は米國太平洋岸の最大要港ロスアンゼルス(サンビエロ軍港)を基點とし布哇の眞珠灣を前進根據地とし太平洋の中



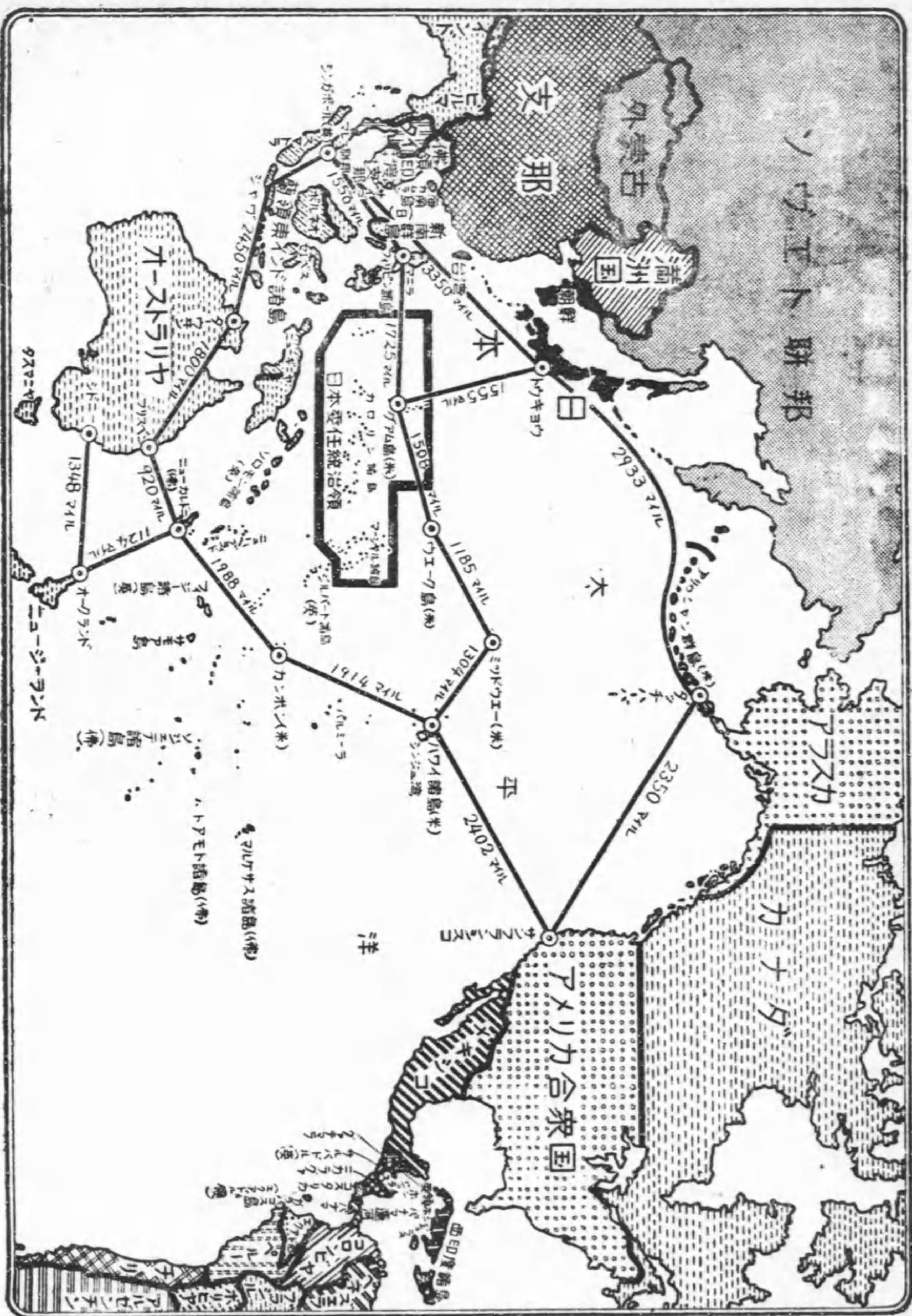
太平洋に於ける海軍基地

央を直線に横断して居る。其の前衛基地マニラ軍港に列る一列の軍用基地ミッドウエー、ジョンストン、ウエーク、  
 グアムの諸島を連結する攻勢国防線である。併し此の攻勢国防線は日本の海軍基地から餘りに近く、其の上に日本  
 の委任統治領マーシャル、マリアナ、カロリン諸群島の天然の小軍港小基地によりて、數箇所に於て遮断されて居る。  
 そこでパナマを基點とし眞珠灣を中樞根據地にして、パナマ灣の前面にあるココス島(中米のコスタリカ領)、ガラ  
 バゴス島(南米エクワドル領米國租借の密約成れり)本年一月中旬新聞に傳へらる、さもあるべき事なり)より一九  
 三九年既に英國から租借し又は共用を約せるバルミラ島カントン諸島(就中フェニックス、ヴァクトリア島)さては  
 將來特別使用を約束すと推測せらるゝ英領諸群島に點々軍用基地を連結して、終に濠洲の新軍港ダーウキン並に蘭  
 印諸要港、最後に東洋第一の大軍港シンガポールの共同使用によりて、日本よりの急襲の危険少き南太平洋迂回線  
 を計劃しつゝある。之によりて日本海軍の南進に備へんとする作戦は現に英米當局間に私かに協議を重ね、蘭印もこ  
 れに勧誘せられつゝありと推すべき理由がある、新聞報道及英米軍事通の發表せる論説も亦一應此の戰略の實現の  
 可能性を認めさせるに充分だ。かくて南太平洋及南洋の攻撃国防線が英米の勢力下に偏在獨占せられ居ることを斷  
 定して大過なしと信ずる。

### 七、英米合作包圍政策

以上軍事要地の世界的分布と其の保有國の關係に就て煩を厭はず詳説したるは、此軍事要地の偏在と經濟資源の





太平洋に於ける海軍要地

央を直線に横断して居る。其の前衛基地マニラ軍港に列る一列の軍用基地ミッドウェー、ジョンストン、ウェーク、グアムの諸島を連結する攻勢国防線である。併し此の攻勢国防線は日本の海軍基地から餘りに近く、其の上に日本の委任統治領マーシャル、マリアナ、カロリン諸群島の天然の小軍港小基地によりて、數箇所にて遮断されて居る。そこでパナマを基點とし眞珠灣を中樞根據地として、パナマ灣の前面にあるココス島(中米のコスタリカ領)、ガラバゴス島(南米エクワドル領米國租借の密約成れり)本年一月中旬新聞に傳へらる、さもあるべき事なり)より一九三九年既に英國から租借し又は共用を約せるバルミラ島カントン諸島(就中フェニックス、ヴェイクトリア島)さては將來特別使用を約束すと推測せらるゝ英領諸群島に點々軍用基地を連結して、終に濠洲の新軍港ダーウキン並に蘭印諸要港、最後に東洋第一の大軍港シンガポールの共同使用によりて、日本よりの急襲の危険少き南太平洋迂回線を計劃しつゝある。之によりて日本海軍の南進に備へんと作戦は現に英米當局間に私かに協議を重ね、蘭印もこれに勧誘せられつゝありと推すべき理由がある、新聞報道及英米軍事通の發表せる論説も亦一應此の戰略の實現の可能性を認めさせるに充分だ。かくて南太平洋及南洋の攻撃国防線が英米の勢力下に偏在獨占せられ居ることを斷定して大過なしと信ずる。

### 七、英米合作包圍政策

以上軍事要地の世界的分布と其の保有國の關係に就て煩を厭はず詳説したるは、此軍事要地の偏在と經濟資源の

獨占を利用して、近年獨逸を北海太西洋に於て、伊太利を地中海に於て、日本を太平洋に於て、包圍して孤立の地位に陥れむとする英米合作——名義だけは之を回避するも實質上の英米同盟の重大性を客觀的事實によつて證明し強調せむと欲する筆者の微意に外ならない。

新進民族國家の勃興を抑制せむとする所謂包圍政策は少くとも近代歐洲外交の慣用手段である。本編第一章に既に述べたる如く、ビスマルク以來殊に第一次大戰以後、今日迄繰返し種々の國家結合同盟協商によつて種々の包圍政策が實行せられた。それが最近の英米合作の世界的なる大包圍政策に至る迄著しきもの、通じて七回に及んで居る。(註)然し今は之を史的に研究する暇がない。直ちに英米合作による包圍政策の全貌を略述することにしよう。

(註) 包圍政策の概観

第一回 ビスマルクの對佛包圍政策(佛國の復仇防衛策)

(イ) 一八七九年 獨逸同盟

(ロ) 一八八一年 露獨逸三帝同盟

(ハ) 一八八二年 獨逸伊三國同盟

(ニ) 一八八七年 獨逸保障秘密條約(所謂再保險協定)

(ホ) 一八九〇年 伯林會議に於ける獨逸の握手

第二回 エドワード七世の對獨包圍政策(三國同盟と三國協商の對立時代)

(イ) 一八九一年 露佛同盟

(ロ) 一九〇〇年 伊佛協定

(ハ) 一九〇三年 英佛協定

(ニ) 一九〇七年 英露協定

第三回 クレマンソー、ボアンカレの對獨包圍政策(獨逸の復仇防止策)

(イ) 一九一九年 巴里の講和諸條約による獨逸の領土削減と其の周圍に新興國家の建設

(ロ) 一九二〇年 英佛と白耳義の安全保障條約

(ハ) 一九二三年 チェッコ、ユーゴスラヴ、ルーマニアの防守同盟所謂小協商

(ニ) 一九二四年 佛蘭西、チェッコ攻守同盟

(ホ) 一九二五年 佛蘭西、ポーランド軍事保障條約

(ハ) 一九二六年 ポーランド、ルーマニア軍事保障條約

第四回 ムソリーニの對獨包圍政策(ヒトラーの塊合併抑制運動)

(イ) 一九三四年五月 伊太利、埃太利、洪牙利三國のローマ協定

(ロ) 同 年七月 英吉利、佛蘭西、伊太利のストレーザ協定

第五回 イーデン、ラヴアールの對獨伊包圍政策

(イ) 一九三五年 國際聯盟による對伊經濟封鎖決議

(ロ) 一九三六年 佛蘭西蘇聯の保障協約

(ハ) 同 年 蘇聯チェッコ援助協約

(ニ) 同 年 蘇聯ポーランド不侵略協定

第六回 チェムバレーンの對獨伊包圍政策

第九章 三國同盟成立の根本原因

第一編 大戦と外交

- (イ) 一九三九年五月 英吉利ポーランド相互援助保障條約
- (ロ) 同年 英吉利の對ルーマニア保障援助宣言
- (ハ) 同年 英吉利の對希臘保障援助宣言
- (ニ) 同年 英吉利土耳其相互援助保障條約
- (ホ) 同年 英吉利蘇聯の相互保障援助交渉(八月獨蘇不侵略條約協定により自然消滅)
- (ヘ) 同年 英米軍需バーター協定
- (ト) 同年 佛土協定
- (チ) 同年 英吉利とルーマニア及希臘との借款融資協定
- (リ) 同年 英吉利とポーランド、融資協定及佛蘭西とポーランドの借款協定

第七回 ルーズベルトの日本、獨逸、伊太利包圍政策(英米合作、本文記述に付省略)

米國の政治的對獨包圍政策は既に一九三八年ルーズベルト大統領の侵略國(獨逸を指す)の惡疫隔離演説から始まり、(一)ミュンヘン會議前一九三八年九月チエツコ、獨逸兩元首即ちベネシエ、ヒトラーに和平勸告と同時に特にヒトラーの自重要請の勸告を發し、英佛後援獨逸抑制の態度を明にし、(二)ヒトラー之を容れずしてチエツコ問題に邁進するや、歐洲の大戦近きに在りとの見透しより同年十一月米國再軍備の聲明をなして暗にヒトラーに一矢を酬か、(三)一九三九年三月獨逸のチエツコ合併不満足の聲明を英佛の對獨抗議と前後して發表し、(四)四月には英佛のポーランド、ルーマニア、希臘の保障援助同盟と同時に米大統領は獨のヒトラー、伊のムソリーニに親電を以て隣接諸國不侵略の聲明勸告の破天荒の外交をやつて獨伊の兩首領を憤怒せしめたるが如き、(五)歐洲不介入を聲

明せる彼は獨逸のポーランド占領の否認宣言を發し、(六)十一月米國中立法の三宣言によりて英佛援助獨逸排斥を實現し、(七)一九四〇年ウヰルズ國務次官を英佛獨伊に派して各國の底意を探らしめ、獨伊の戰意堅きを見るや前後三回の軍備擴張案によりて全體主義國打倒、民主主義擁護を屢々強調して英佛援助、獨伊排斥政策を次第に明白にして來た。(八)其の上に獨逸に侵略せらるゝ虞れある諸小國に對しては、英佛に呼應して財政援助武器輸送等の便益を供與し、英佛が同盟を以て獨伊を包圍せんとせし頃には、英佛の同盟諸國土耳其、ルーマニア、希臘、ポーランドに對して德義的援助を與へ對獨包圍政策を暗に激勵するの政略を續行した。(九)愈々英佛對獨の宣戰となり、英國が傳統的海上封鎖策に出で、同盟佛國は素より諾威、和蘭、白耳義をも強要して對獨經濟戰を遂行する際に、現金自國船條項と米國船の戰爭區域航行禁止の條項を以て、實際上英佛積極援助、獨逸消極對抗を實行しつつ對獨包圍經濟戰を間接に強化したことは、明かに英米合作による獨逸包圍策の第一着手とも云ふべきではないか。

然し北歐戰爭、フラングー大決戦により佛蘭西、白耳義、和蘭、丁抹、諸國が獨逸の占領に歸してから英佛中心米國援助の包圍網は見事破壊せられた。英國軍大敗獨軍の電撃的英本國上陸の急が傳へらるゝや、米國大統領を中心として俄然徹底的援英運動が起り、英米の經濟的、政治的、軍事的合作によりて獨逸、伊太利、日本の三方面に於ける包圍政策を斷行する決意は、かくして一九四〇年五月以來米國要路外務陸海軍大藏の首腦部の肚裡に早く定まり十一月包圍政策の中心ルーズベルト大統領の三選決定後急速に實行に移され、一九四一年に入りて一段の大規模な長期計畫が、議會に對する一般教書、豫算教書によりて發表せらるゝ様になつたのだ。而して此包圍政策は三國

同盟發表前に決定せられ、其の内容實質が本年に入りて公表せられ、其の上に三國同盟の挑戦に應ずる止むを得ざる對策なりとして、參戰を欲せざる米國大衆を次第に戰爭の渦中に引込まむとするものと見るべき點に特に讀者の注意を求めたい。

英米の對獨包圍政策の第一線北海に據る封鎖網は諾威、丁抹、和蘭、白耳義、北佛の獨軍占領によりて維持するを得ざるに至つたことは既述の通りだ。そこで退いて

(一) 大西洋の全面的海上權把握によりて英國を徹底的に後援し、これに依て對獨包圍線を強化せんとの策に出でた。一九三九年ルーズベルトは米國の國防第一線はライン河に在りと放言し一九四〇年には米國の國防第一線は英國に在り公言して居る。是れは此の英米合作包圍政策を言明したものでないか。却説其實行計畫及方策は

(イ) 英海軍は大西洋防備を擔任し、自沈又は降服せず飽く迄對獨抗戰を頑強に持續すべきことを條件として、米國は對英軍器軍需品の大量援助を約し、且其の全艦隊を太平洋に移すの密約は駐米英大使ロシヤン卿ミルズベルト大統領の間に一九四〇年の夏頃成立して居ることは殆んど公然の秘密とされてゐる。

(ロ) 一九四〇年八月加奈陀首相キングとルーズベルト大統領と二日の會談に基き、米國と加奈陀の共同防衛の軍事協定が成立した。對獨宣戰せる加奈陀と軍事同盟を約する米國は最早中立國ではない。これは一種の參戰であり英米同盟の第一歩に外ならない。

(ハ) 同年九月成立した英米間協定は大西洋カリビヤン海の英領及諸屬島に於ける要地の英米共同使用又は米國

軍事基地としての租借に關する協定であつて、英米の太平洋に於ける重大軍事同盟である。北よりニューフワウンドランドの港、太平洋の要地ベルムダ島の一港、バハマ諸島、ジャマイカ島、小アンチル群島中のアンテガ、ドミニカ、セント・ルシア、セント・ヴィンセント、バルバドス、グレナダ、グレラデンの諸島、最後にトリニダッド島の一港、英領ギアナのジョウジタウン港、總計十三箇所の租借を許したのである。

(ニ) 之と同時に老朽驅逐艦五十隻を英國に譲渡した。英國が獨潜水艦と空軍の爲に既に三百萬噸以上の船舶を失ひ、商船護衛と對潜水艦戰に最も必要な而かも最も不足せる驅逐艦の譲渡は、重大な軍事援助であつて最早中立法規も無視せられたる事實上の英米同盟である。

(ホ) 若し目下米議會提出の對英援助全權委任案が成立せば、終に米海軍の商船護衛即ち英國の執拗なる要求が許容せらるゝに至らんとする推測は殆んど確定的だと見られて居る。

(ヘ) 最も偉大なる對獨包圍の威力は米國の空前の大軍擴張案と對英武器貸與案とであり、其の議會通過後の英米の對獨抗戰力の著しき強大化は刮目して見るべきものがあらう。

此の軍擴大豫算は全く三國同盟威壓の大方策なるが故に茲に其の大綱を示すことは無用の業に非ざるべしと信ずる。一月六日ルーズベルト大統領は其の議會教書に於て『我々は如何なる事變に對しても適應し之を克服するだけの陸空海三軍の建設を緊急且必要とするものである……我々は侵略に敢然抗爭する決心ある世界の如何なる國に對しても全幅の援助を約するものである』と言明し、此の大軍擴によつて差當り英吉利、希臘、蔣政權を全幅的に援助

### 大西洋に於ける要地



するの決意を表明して居る。また『之に依て我が西半球より戦争を隔離せん』と附言し、自國防衛に専ら使用するかカモフラージュはして居るが、其の演説や聲明中に、米國の今後の空軍製造能力の半分は英國其他の民主主義擁護國に振り向ける、即ち日、獨、伊に對抗する諸國の直接援助に當てる決意を明かにして居る。従て此大軍擴が主として對日獨伊包圍戰線の増援に利用せらるゝことは火を見るよりも明かだ。前駐英大使ケネデー氏やリンドバーグ大佐の證言の如く、今日誰れか米國に進撃し來るものあらん。さすれば米國自身の消極的防衛に此の大軍擴を要せざることは何人も疑を挿まない自明の理だ。少くもルーズベルト自身は必要ならば積極的對獨戰に参加しても英國を援助し、場合によりては日米戰を堵しても太平洋に於て日本の南進を阻止する爲に英米蘭の合同作戦に出づるの底意を有するもの推測せざるを得ない。現に米國の大眾は過半此のルーズベルトの戰略に賛同するやの兆候(註)あるに於ておやだ。大衆の人心を收攬するの妙手ルーズベルトは少數孤立派の反對を押切つて邁進するもの覚悟して之に備へ、最悪の場合の用意を遂ぐる事は日獨伊三國の國民共通の責務である。果然一月二十六日帝國議會に於ける松岡外相及川海相は悲壯な日本の決意を表明して居り、一月三十日のナチス政權記念日の獅子吼に於てヒトラー總統は對米強硬決意を傲然として宣示したのである。ムソリーニ首相の決心も亦云ふ迄もない。唯對伊包圍戰に於ては米國の威壓は僅かに英國及希臘に對する武器及財政援助の間接攻勢に止まり、地中海に對する英、土、希の從來の包圍線の物質的經濟的強化を策するだけだ。

(註一) ガラーの輿論調査投票は六十パーセントは假令戦争の危険を冒しても援英に全力を盡すとの意見なり。

### 大西洋に於ける要地



するの決意を表明して居る。また「之に依て我が西半球より戦争を隔離せんとするものである」と附言し、自國防衛に専ら使用するかのカモフラージュはして居るが、其の演説や聲明中に、米國の今後の空軍製造能力の半分は英國其他の民主主義擁護國に振り向ける、即ち日、獨、伊に對抗する諸國の直接援助に當てる決意を明かにして居る。従て此大軍擴が主として對日獨伊包圍戰線の増援に利用せらるゝことは火を見るよりも明かだ。前駐英大使ケネデー氏やリンドバーグ大佐の證言の如く、今日誰れか米國に進撃し來るものあらん。さすれば米國自身の消極的防衛に此の大軍擴を要せざることは何人も疑を挿まない自明の理だ。少くもルーズベルト自身は必要ならば積極的對獨戰に参加しても英國を援助し、場合によっては日米戰を堵しても太平洋に於て日本の南進を阻止する爲に英米蘭の合同作戰に出づるの底意を有するものも推測せざるを得ない。現に米國の大衆は過半此のルーズベルトの戰略に賛同するやの兆候(註)あるに於ておやだ。大衆の人心を收攬するの妙手ルーズベルトは少數孤立派の反對を押切つて邁進するものも覺悟して之に備へ、最悪の場合の用意を遂ぐる事は日獨伊三國の國民共通の責務である。果然一月二十六日帝國議會に於ける松岡外相と及川海相は悲壯な日本の決意を表明して居り、一月三十日のナチス政權記念日の獅子吼に於てヒトラー總統は對米強硬決意を傲然として宣示したのである。ムソリーニ首相の決心も亦云ふ迄もない。唯對伊包圍戰に於ては米國の威壓は僅かに英國及希臘に對する武器及財政援助の間接攻勢に止まり、地中海に對する英、土、希の從來の包圍線の物質的經濟的強化を策するだけだ。

(註一) ガラーの輿論調査投票は六十パーセントは假令戦争の危険を冒しても援英に全力を盡すとの意見なり。

八、對日包圍戰線

かくの如く大西洋、地中海に於ける包圍戰には米國は間接の第二線に立つて居る。之に反して太平洋に於ける對日包圍戰には米國が第一線に立ち自ら中心となりて直接軍事的に矢面に立つものである。本年の空前大豫算が其の壓力を主として軍備擴張に於て目標を太平洋方面に向けつゝあるが故に、茲に先づ此の豫算の大綱から説明して米國の對日包圍策の全統に及ぶこととする。

(イ) 米國の今期議會提出の豫算案は實に一九四一年七月より一九四二年六月に至る一年度の總支出額に於て無慮百七十四億八千五百萬弗である。其中軍備擴張費が百八億一千一百萬弗(實に我が本年度豫算總歳出の四倍)にして總額の六十二パーセントに達して居る。此の爲に歳入不足六十八億八千九百萬弗、之に對して國債發行限度を四百億弗に増大した程である。尙目下審議中の授英案即ち武器貸與法案の爲の資金は此の勘定の外なることを注意して置くが、實に古今未曾有の大軍備豫算たることに驚歎せざるを得ない。

(ロ) 此の豫算の主要部分となれる大軍備豫算は本年度だけの分であつて、軍備大擴張そのもの、三年繼續費の第一年度分に止まるのだ。所謂三年計畫に従へば、總計二百八十億弗、内陸軍百三十七億四百萬弗、海軍百十五億八千九百萬弗、軍事工場擴張費三十一億八千九百萬弗(新設大工場數百二十五箇所)之れが完成の曉、特に日本に重大影響を及ぼす海空軍の擴張の豫想數字を擧げよう。

米國の飛行機製造能力計畫

一九四〇年八 以後	年産	一〇、〇〇〇 臺
一九四一年一月以降		一三、〇〇〇
同年 夏頃		二四、〇〇〇
一九四二年 初期		三六、〇〇〇
一九四二年 後期		五〇、〇〇〇

海軍の擴張計畫(一九四六年完了)

類別	現 役	建 造 中	新 計 畫	計 畫
戰 艦	一五隻	一〇隻	七隻	三二隻
航 空 母 艦	六	四	八	一八
巡 洋 艦	五七	二一	二七	八五
驅 逐 艦	一九九	五六	一一五	三六八
潛 水 艦	一〇五	五九	四五	一八五
果 計	三五八	一五〇	二〇〇	六八八

其總噸數は日獨伊佛の總噸數を凌ぐ四百萬噸標準なりと謂はれる。

以上軍備大豫算の目標の奈邊に重點を措くかの外に其の對内對外政略も亦大いに考慮を要するものがある。即ち

第九章 三國同盟成立の根本原因





である。殊に我軍に於ては萬一の最悪の場合に處する確固たる決意と萬違算なきを期する軍備も作戦も整へることを我等は確信するものである。と同時に一般國民も此の最悪の場合に對する堅き決心覺悟を以て愈々益々國防國家の完備に翼賛するよう眞に一億一心の努力を要するところは云ふ迄もない。

以上筆者は太平洋中心の時局の重大性を強調せむが爲に、客觀的事實と煩瑣なる數字を羅列して、太平洋に於ける英米の對日重壓が終に爆破の虞ある程度迄進捗せむとする可能性を説明した。斯かる日米戦争の爆破が眞に恐るべき世界大戦となり、それこそ文明の破壊となるは申す迄もなく、而かも此の慘禍が果して米國の東亞並太平洋に於ける如何なる利益の防衛の爲なるかに思ひ及べば、冷靜なる米國識者は無謀の舉たることを斷言するに憚らないことは豈獨りケネデー前大使やリンドバーク大佐のみならんやである。若し賢明なるルーズベルト大統領が此の無謀の舉なるを知りつゝ、今日迄の對日重壓を以て日本を屈服せしめ得べしと誤信し、更に一層の威迫を加へ來れば日本は何時にても之に應じて決戦の準備を覺悟あることを承知せざるべからず。又斯かる威迫を以て日本の死活問題たる大東亞共榮圈建設の企圖を思止まらしめ得べしと考ふるにせば、餘りに日本を見縊りたる慢心で大なる違算を來すべきを豫言して憚らない。本稿の目的筆者の微衷は米國民の深甚なる反省を促すと同時に、我國民の萬一の場合に對する牢固たる決意を切望して止まざる點にあるのだ。(昭和十六年紀元節の日稿了)

## 第二編 臺灣と南洋

## 第一章 臺灣の今昔

明治四十二年官命によつて臺灣に始めて渡航し全島を視察し、更に進んで馬來半島、スマトラ、ボルネオ、爪哇、セレベス、比律賓と主として經濟的發展の狀況を視察した。第二回目は、大正二年臺灣を根據として南支那から佛領印度を一寸見て來た。今回臺灣拓殖會社の用務を帯びて三度目の臺灣を視察した。恰度昭和十年日蘭會商中止の爲め蘭領印度から歸つたとき急遽神戸に直航し臺灣に立寄ることを得なかつたが此度其の素志を達したのである。私の所望は二十五年前の臺灣と南洋諸國との比較に、今日の臺灣と南洋との對照にあつたのである。第二回目的蘭印旅行は専ら邦人發展の實狀と工場農地の視察に限つたやうに、今度の臺灣旅行は工場と試験場、港灣と土木に限定したのである。そして此の二十五年間の臺灣の産業の進展の著しいのに讚歎を禁じ得なかつた。併し臺灣の今日の産業施設の大發展振りは最近臺灣施政四十年記念の各種の刊行物に依つて詳細に説明報告せられて居るから、今更蛇足を添へる爲に見聞を披瀝する必要もあるまいと思ふ。

乍去二十五年前に私が體驗したやうに、臺灣を出發點として南洋熱帶諸國を見、更に南洋諸國を見た印象の新鮮な間に今日の臺灣を見ることによつて、其進展の跡を比較研究して得た觀點から所感を述べることは、或は讀者諸

君に一種の興味を喚ぶものあるべし信じて茲に此の一章を草した次第である。

### 一、熱帯島國の重要性

熱帯地は熱帯特有の産物の爲に世界の産業上に重大な役目を演じ來つたことは叙説を俟たない。食料品の富庫として工業原料の特産地として重要な關係を工業國との間に保持して居る。之等工業國の植民地としての熱帯地方の重要性は多くは此の點に置かれて居る程である。併し熱帯地方は寧ろ世界文明の發祥地として最も古く國家を構成したのである。埃及印度波斯バビロンの如き皆それであつた。併し之等の古文明國も其の衰亡後は歐洲の近代國家にミつては單に珍奇な産物、特殊な嗜好品の産地として、或は重商經濟時代に於ける金銀寶石の産地として尊重せらるゝに過ぎなかつた。蘭領印度の諸島が、西班牙、葡萄牙、佛蘭西、和蘭、英吉利の間に永年間爭奪の目標となつた時の如きは全く香料、珈琲、茶の産地として其の貿易の利益を何人の手に收むるかの問題であつた。メキシコが西班牙、佛蘭西の手に轉々した時代は、正に金銀を何人の手に握るかの問題であつたのだ。然るに近代機械産業の時代となつてからは熱帯地は單に特殊の食料品嗜好品の産地として珍重せらるゝよりは寧ろ近代工業に不可欠の工業原料の特産地として重視せられるやうになつた。印度や埃及が棉の産地として尊重せられ、波斯やボルネオ、メキシコが石油の産地として如何に重要視せられ居るかを見れば明白である。

然るに近代工業の發達寧ろ第二の産業革命に伴つて大なる熱帯異變が起つた。それは大陸熱帯諸國よりは島國熱

帯の重要價值が顯著になつたことである。島國熱帯と云へば何んと云つても蘭領印度が世界第一の島帝國であり最も重大性を有する熱帯島國である。比律賓や馬來(半島であるが實際には島國といつても差支ない)は、之に次ぐ重要熱帯島國である。従て表南洋諸國の重要性は歐洲大戰後最近ブロック經濟時代になつて一層重要性を帯びるに至り島國熱帯の開發は近代に至つて重大化したのである。其の理由を按ずるに

(イ) 島國熱帯は海風の爲に大陸熱帯に比して氣候が大いに緩和されて居る。筆者は南洋旅行から歸つた最初に熱帯に關する根本觀念從來の地理の教科書の熱帯に關する事項の改訂を唱導したことがある。シンガポール、爪哇の氣候が殆んど赤道直下なるに拘らず、年中略々同様で盛夏と雖も華氏八十九度位で大陸印度の内部は素より温帯支那の中央漢口の夏の酷熱と比較すべくもなく、又雨期も雖も支那廣東の霖雨、泰國バンコックの長雨と異り、スコール即ち熱帯夕立(白雨)が定時に沛然として來り冷風一時に起り雨上りの爽快は島國熱帯にのみ味ひ得る所である。

(ロ) 島國熱帯の地勢は其地質地形の成立略等しく、中央脊梁に高山あり氣溫の變化は緯度の高低よりは地勢の高低によつて異なるものあり、爪哇の如き一年中夏冬の氣溫の差は僅に二度なるが、一千米高地に登るに従て常時二度の氣溫の差あり、三千米以上にては温帯の氣溫に等しい。之が自然に島國熱帯の植物殊に農産林産の種類多種多様を生ずるので。これは我臺灣に於て阿里山見物をした人々には直ちに首肯せらるゝであらうが、爪哇の特産、上等珈琲や茶や規那は皆一千米以上の高地に産するのである。

(一) 次に海風の爲に發育特別に恵まれる特産物がある。それは大陸の海岸よりは島國熱帯の方が種類も多く發育も良好である。例へば油椰子(コブラ)、甘蔗(砂糖の名産地はメキシコ灣ではキューバ、太平洋では布哇、南洋では比律賓、爪哇の如き皆我臺灣の如き熱帯島國である)、ゴム(栽培ゴムは何といつても馬來半島と爪哇、スマトラ、英領ボルネオの如き島國だ。天然ゴムの南米大陸や印度のジャングルに在つた天然ゴムは今や顧みられなくなつた)、さては比律賓麻の如き皆これを證明して居る。更に近代工業に不可欠の石油は本來古い水成岩に含まれる點から大油田は大抵昔の海岸地帯だ。波斯灣頭の油田、メキシコ灣頭の油田、さてはボルネオ島、スマトラ島の東岸の如きそれだ。従て今後の新油田は矢張り熱帯島國に於て開發の可能性が多いではないかと思ふ。若しそれ果物其の他の食用植物農産品の種類の多種多様なるは臺灣始め島國熱帯旅行者の第一に驚嘆する所であらう。

## 二、臺灣開發の三特色

上述の見地からして臺灣は近代工業國たる日本に執つては唯一の島國熱帯である、唯一の特殊工業原料の産地である。従て帝國の産業政策上重要な地位に在るのである。筆者は明治四十二年の最初の南洋旅行に臺灣を出發點としたのは、時の通商局長萩原守一氏の遠眼と故山本条太郎翁及時の臺灣銀行頭取柳生一義氏の激勵によつたものである。そして歸朝後に島國熱帯開發の急務を論じ、既に開發の頂點にあるものは爪哇、比律賓だ。最も遅く開發に着手せられたのは馬來だ。其の中間に在つて開發に油の乗つて居るのは臺灣だ。説き、爪哇、比律賓を中年初老

期、臺灣を青年期、馬來を少年期と説明したのだが、今日に於ても矢張り此の三階段此の三期の區別比較は依然として存するのである。爪哇は和蘭によりて開拓既に三百年、且其の開發の當初に於て既に特有の文化を有し農産も既に相當發達して居た。比律賓も略々同様で西班牙の手によつて開拓せられ近代に至り米國によりて大いに開發せられたが矢張り三百年の開拓史と比律賓固有の文化も今日に保持せられて居るのだ。之に反し我臺灣は僅に明代に支那の避難民の逃竄地であり、清代に移民は來つたが殆んど見るべき産業はなかつた。領臺以後先輩諸公の血のにじむ様な努力の結果によつて四十年間しかも初めの十年は治安の爲に全力を盡し、眞の開拓は僅かに三十年位だ。筆者が二十五年前に臺灣最古の砂糖工場臺灣製糖會社の工場見學の時には、事務所の上上に土匪防衛の爲に堡塞式に銃眼が設けられ、工場員は武装準備をして居た時代であつた。従て臺灣の産業開發は未だ若々しいものだ。殊に近代工業國中の最年少者若い日本の手に依つて此の若い青年期の島國熱帯臺灣が開發せられつゝあるのだから、これを他の南洋諸國に比して濠利たるものあり、所謂「ハリキリボーイ」たる所に臺灣産業の特色がある。この「若さ」が臺灣開發の第一の特色である。

纏つて他の熱帯諸國の開發の變遷を見るに、大體之等植民地は主として本國母國の利益の點から打算して稍々分業的に各島間に特殊産業を奨励して居たやうに見える。其の結果は島國各單一産業又は一元制の開發であるやうに見える。例へば英領馬來半島の如きはゴム栽培一點張りである。(部分的には錫採掘あれど之は別として) 蘭領爪哇は砂糖一點張りだ。如何に爪哇島が人口稠密とは云ひながら、樂に稻の三毛作が出来るにも拘らず米作は改良せら

れず、全島人を養ふに足らず、今尙輸入米によりて支へられて居る。特産品規那ありといへども其産額は云ふに足らず、珈琲や茶は次第に衰微しつつある。スマトラは錫に重きを置き最近漸く石油が重要産物となつた。ボルネオは石油以外云ふに足るものなし、比律賓も雖も砂糖が唯一で最近「フキリツピン」麻が寧ろ外國人の手によりて大なる産額を見るのみだ。

これと對照して我臺灣に於ては開拓の先覺者は最初から熱帯産物の凡てに就いて其の發達を企圖し、始めから多元制の農産獎勵を行つた。先づ第一に甘蔗の栽培に砂糖の製造に官民一致して努力した。其の結果として一九三六年度から日本の消費全額を臺灣で生産し得るやうになつた。永年爪哇糖を輸入し多き時は粗糖百萬噸も日本人の手で買入れ、日本は爪哇糖第一の御得意であつたのだ。併し日本の先覺者は砂糖自給自足政策を立て、保護關稅や甘蔗獎勵や、凡ゆる手段を盡し此の政策の遂行に邁進し、殊に世界大戰の際の歐洲諸國の砂糖缺乏による苦い經驗に鑑み、急速力を以て此の自給策を進捗せしめ終に臺灣のみにて百萬噸を超え、沖繩南洋諸島の産糖額に當るものはこれを海外に輸出する迄に至つたのである。従つて臺灣と云へば砂糖を聯想する程であるが、併し爪哇や比律賓の如く砂糖に主力を注ぎ他の産物は自然に放任するやうな遺口ではない。農産物の中に就ても米作の改良增收に大なる努力を拂ひ、今や内地の米穀政策の爲に其の生産は自然に制限せられた程である。茶についても北部の紅土質に其の栽培改良、其の製造獎勵を行ひ、烏龍茶の名を英京倫敦に知らしめた外に支那向の包種茶の栽培製造にも精進して居る。更に果物の多種多様な栽培にも官民の熱心な努力の結果、他の南洋諸國の自然生に放任するかに見える

バナ、は立派な企業生産となり、新に山峽の荒地を開拓して滿山芭蕉の特異風景を見る迄に進み、パイアも布哇に劣らぬ計畫生産に達し、バインアップルの如きは布哇産と市場に競ふ域に進み、其の罐詰業は昨年合同して生産統制を計るに到つたのである。その他柑橘類は又多種良質種にマンゴー、マンゴスチン、ブーゲン迄も企業生産に達せしむる爲に當事者は努力し、黄麻及棉の如きも今や試験栽培を脱して企業生産に着手せらるゝ迄になつたのである。況んや各種の鑛業及製造業についても政府は同様に多種多様に各方面より獎勵誘掖して居る。此度の旅行に於て在來の砂糖工場の新設擴張は素より各種罐詰工場、製紙、製麻、製材、精油、さては高雄に新設せられたるアルミニウム工場の如き、今新竹に設計中の化學工業の如き、重工業輕工業共に日に日に各種の工業が勃興しつつあるのを見て實に快哉を叫ばざるを得なかつた。爪哇の如き最も古き熱帯島國すら、農業に於ても甘蔗以外は政府も獎勵せず工場の如きも砂糖工場以外に見るべきものなき有様なるを對照して、臺灣が多元制産業、複雜産業併立主義なることは確かに臺灣開發の第二の特色と云はざるを得ない。二十五年後の今日爪哇にては砂糖一本槍政策一元制の弊を認め砂糖を制限して最近七十五萬噸の植付に止め、工場も多少閉鎖するの止むなきに至り、又新に此處三年爪哇に於ても纖維工業を創立し他の工業の發展にも努力するに至りしを見て、筆者は臺灣と南洋の今昔感に於て臺灣開發策の賢明を認めざるを得ない。

續つて南洋諸島國と我臺灣との天恵を比較する時は、實に我臺灣の貧弱さを痛感せざるを得ない。先づ其の廣袤面積を比較して見れば如何に蘭領印度が廣大であり、比律賓や馬來が沃地に富むか、左の計數を一瞥しただけで明

白である。

	面積	人口
蘭印	一、八九九、〇〇〇方軒	六〇、七三〇、〇〇〇人
比律賓	二九六、〇〇〇方軒	一一、八六〇、〇〇〇
馬來 (英領)	一三六、〇〇〇方軒	四、三五〇、〇〇〇

臺灣が我九州より稍々小にして蘭印全領に比して二十五分の一に過ぎず、之に反して蘭印内には爪哇一島すら日本本土より少しく小なるに、スマトラ、ボルネオ、ニューギニアの如きは各島これを歐洲の大國伊太利、獨逸、佛蘭西に匹敵する面積の堂々たる島國であり、比律賓の如きは臺灣の九倍に當り、馬來半島と雖も臺灣の四倍に匹敵するのだ。次に臺灣には年々颱風の爲の風水害あり、殆んど四年目位に暴風雨の被害甚大なるものあり、先年の大風水害の際には臺灣の甘蔗全滅爲に種苗に缺乏せし程である。然るに爪哇馬來は素より比律賓と雖も呂宋の北部を除きては氣候四時正しく、寧ろ颱風圏外の無風に近き天恵の島國である。加之臺灣はかく地積小なる上に其地勢上峻山大嶽中央に盤踞し、豐太閤時代にはこれを高山國と呼びし程に山多くして平地乏しきを遺憾とする。之を他の南洋諸島國の山はあれども大河巨川あり、廣大なる肥原あるに比して實に天恵乏しき島國といはざるを得ない。其の上島國でありながら天然の良港に乏しい。爪哇島の如きスマトラの如き比律賓の如き四方に港がある。ボルネオすら港灣あり少しく政策せば良港を得べし。故に其の開港場及沿岸貿易港の多きこと屈指に追がない。然るに我臺灣は僅かに全島に亘り巨船を泊し得るのは多大の人工を加へた基隆と高雄の二港のみだ。斯くの如く他の南洋諸島國は地積地勢氣候に於て天恵に富むを以て其の開発は單に天恵と自然を利用するだけにて結構である。これに對して我臺灣は地積地勢氣候に於て天恵甚だ薄きを以て自然を征服するに非ざれば開拓は出來ないのである。これが臺灣開發の第三の特色である。臺灣の開発は自然の力よりは人工が與つて最も力ありといふ結論に達せざるを得ない。以上が臺灣と南洋を比較しての筆者の今昔感の結論である。

### 三、臺灣の努力と其の成功、附三大土木

此の如く臺灣は天恵に頼るよりか人工に俟たざれば大なる發展は成就し得ない。これが臺灣の短所であつて實は其の長所でもある。人工に依る即ち自力を頼む外なきが故に臺灣は開拓の始めより努力を要し且不斷に努力を續けざるを得ない。そこに臺灣開發には青年期の濺刺たる氣分が横溢して居たのだ。二十五年後の今日に於ても尙「ハリキリボーイ」精力絶倫を見得るので。そして永久に濺刺たり萬年青春の氣分を保たざるを得ないので。此の臺灣のハリキリ加減を砂糖の一例によつて説明しよう。日蘭會商中和蘭の一技師寧ろ學者の内談に「日本は爪哇糖の第一の得意先であつた。日本の青年は甘蔗栽培、砂糖製造練習の爲に來爪した。我々は愛弟子として親切に教へた。實に熱心勤勉の弟子であつた。處が今日となつては出藍の譽を通り越して臺灣糖は爪哇糖の敵となつた。自然の條件から申さば一英反の收穫高多きこゝ甘蔗の成育期の短きこと、種苗の優良なるこゝ等から見て保護關稅さへなく

ば臺灣糖は到底爪哇糖の敵ではない。併し日本人が此のハンデキャップを超えての努力は實に驚嘆に値する。例へば爪哇より種苗の輸出禁止せらるゝに至つては、別に臺灣特種の適種苗を永年の苦心研究によつて作り出した。(F一〇八號を指すか)日本の技師は簡單なる測定器を發明して甘蔗糖分充實期を手輕に檢定して一舉に收穫し糖分を十二分に利用する。砂糖工場に至つては其の能率を擧げ生産費を節約することに成功した(國産機械の優良、蔗粕バガス燃焼ボイラー「タニマ式ボイラー」の特性等を指すか)を述べたが、今度の視察によつて、製糖會社自營耕地の施肥による甘蔗の發育の顯著にして集約農法に大成功を收め、一英反の收穫高に於て決して爪哇糖に劣らざること並にバガスからバルブ製造の化學的經濟的成功を收めたること、更に燃料政策の爲砂糖工場が無水アルコール製出に大規模の工場擴張をなせること等を彼の技師に話したら更に一驚を喫すること、思ふ。これ全く天恵の澤きに抗して自然を征服する臺灣の努力をマザ〜と物語るものに非ずして何ぞや。筆者は昂然として言明する。そして臺灣の先覺者並に現在の官民諸子の多年の努力に敬意を表せざるを得ない。

更に棉栽培に關してもその好例として一言述べざるを得ない。茲四五年間臺灣に適する棉の研究の爲に臺灣では臺南臺中の農事試験所で實に熱心な研究試作が行はれた。然し棉作に就ては最初から三つのハンデキャップが附いて居た。即ち第一に天然の恩惠薄い點だ、印度や埃及のやうな氣温と乾燥がない上に風水害の多い點である。この缺點に對しては播種期開花期を考慮して風水害多き時季以前に收穫を終る計畫を立て、大體解決した。第二に適當な棉種の選定であつた。世界各地から種子を取寄せて試作の結果大體テキサス棉の一種、エキスプレス種と印度棉タ

ワーアメリカン種の間種が適當に判斷せられ、其の纖維の長さも粘力も決して米棉テキサス棉に劣らざる良質を得て専門家は愁眉を開いた。第三に虫害病害の問題だ。臺灣には從來永年の耕作が頗る保守的で爲に作物に對する虫害病害の根絶が不充分であり、新しい虫害に弱い棉の栽培は一苦勞であつた。幸に頗る經濟的に虫害驅除の藥草栽培を併行して行ふことによりて半は解決した。最後に其の生産費の問題で、これを印度、泰國、比律賓に比し土地も勞銀も高く、加ふるに氣候も劣るから到底印度棉の低廉には比すべくもなしとせられてゐるが、テキサス棉の生産費に比較して大體廉なること計數に達した。茲に於て臺灣拓殖會社は新しき開墾地や干拓地に其栽培を決定し其準備として不取敢臺灣棉業會社を起した程だ。が併し棉作地の廣大なるものを新に求むることに目下の難事とせられてゐるが、これ等の自然の障礙を征服するの意氣を以て官民共にこの難事業に邁進せんとしてゐる。

更に臺灣開發の特色たる自然征服の好適例として臺灣の三大土木事業に言及せざるを得ない。既に述べたる如く臺灣は島國にして良港に乏しいが

(イ) 臺灣では巨額の資を投じて基隆高雄の兩港の大築港を完成し、且東部の唯一の港として花蓮港の築港工事中だ。この築港こそ難工事の標本である。これを南洋諸國の良港比律賓のマニラ、爪哇のタンジョンブリタク、(首都バタビヤの海港)スラバヤ、英領シンガポールの大擴張が實に簡單に容易に行はれしと比較して、我臺灣の築港は全然新造に屬し山を毀ち岩を挫き風浪高き海口に防波の大突堤を築く等實に前者が天然の良港を利用擴張するに對して、後者は全く天然の障害を破毀して人工の港を創設するに等しいのである。それにも拘らず優に一萬噸

級の大船一時に數隻を岩壁に繋ぎ得るに至らしめた。二十五年前基隆沖で荒れ、安平ではテッパイによりて命辛々本船に移乗し、打狗では矢張り沖懸りで船酔に苦しみたる筆者は、今の基隆港や高雄を見て隔世の感を抱くのである。

(一〇) 第二の大土木工事は所謂嘉南大圳である。臺灣の地勢は中央に新高山系以下一萬尺以上の峻峰高嶺聳え河川悉く短くしかも急湍激流をなす。加之乾濕二季に分れて雨季には濁水滔々として急轉直下し水害は日常事なり、一度乾季に入れば、河川は直に小石原と化して一滴の水なしといふ有様にて渴水期には灌漑の途がない。この爲に唯雨水を頼りに稲作を試み大半旱魃の災に失ふのみであつた。この最も甚しいのが嘉義臺南に亘る大平野十五萬甲（一甲は約内地の一町歩）で而かも臺灣中部の大平野を構成してゐる。これが灌漑の爲六千六百萬圓を投じて二大川の水を琵琶潭に取り入れて大貯水池を設け三百三十里に亘る長水路を開き始めて十五萬甲の耕地に給水するを得たのだ。この大圳の工事は全く水源と水路の創造であつて其難工事たるは想像以上であるが、臺灣中部の大耕地はこれによつて生れ出たのだ。

(一一) 第三の大工事は有名な日月潭の大貯水池による臺灣電力會社の水力發電工事である。大正八年以來勘度か作業を中止しつゝも、終に昭和九年に工事竣成を見た上十萬キロワットの電力を全島に供給し、其電力料金の低廉によつて近年大工業の勃興を見るに至つた。高雄に於けるアルミニウム工場の如き、基隆に近き金瓜石の大製鍊所の如き、羅東近くの大製紙場の如き、倍ては新竹に於ける電力による窒素化學工場の建設計畫の如き皆然りだ。

殊に其の建設費が一キロワットに就て六百圓も掛り、これを内地の二百五十圓見當と比して不廉なるに拘らず、其の電力料金を思ひ切り低くして工業を誘起せる點に於て筆者は又當事者の思ひ切つたハリキリ方に敬服せざるを得ない。この三大土木は實は思ひ切つたアドヴェンチュアであつた。到底天恵に厚き南洋諸島國では思ひも及ばぬ冒險事業と見えたであらう。それが悉く成功して採算のされる立派な事業となつてゐる點に於て筆者は臺灣に於ける潑刺たる努力と天然征服の勇氣に重ねて敬意を表するものである。

唯一言苦言を呈したいのは、臺灣の交通の未完成である。

(一二) 鐵道の輸送力の貧弱なる點は大なる改良を要する。砂糖、米、鑛物、材木の如き大量輸送を要する特産物に對して鐵道線路の不備、運輸機關の貧弱は、其の運賃高き相俟つて臺灣の官民の猛省を促し、速かに改善を要する點と思考する。

(一三) 四百哩に亘りて單に南北兩端に各一港を有するに止まり、其中間殊に砂糖米等の大産地臺中方面に海港を缺くことは重大な缺陷と謂はざるを得ない。物貨の集散を便にする爲運賃と時間の節約には是非も第三の築港を急務とする。

(一四) 近代交通機關の大變動の際に自動車殊にトラックの利用は、鐵道の競争線としてよりは給養線として重要だ。道路網の大擴張については二十五年前の臺灣を知る筆者の眼には愉快の感に打たれた。國道の開設南北に亘り東西に及べるを見、殊に難工事中の難たる臺東州、臺北州を運ぬる臨海道路の開通の利益を自動車によつて體驗



した筆者には涙の出る程嬉しかった。併し折角の道路網も僅かに基隆—臺北間、淡水—臺北間のみ舗装が完成して大部分は未完成なるは惜みても餘りあるといふべきだ。臺灣ほごの若さも濼刺さもなき爪哇に於ても其東西を走る二大幹線南北兩海岸を貫く二大線も全島一萬キロ以上完全に舗装され、寧ろ不況時には贅澤と思はる、程立派なのに對照して、ハリキリボーイたる臺灣が近代交通の花形たるべき自動車道路網の不完全な未完成の儘に置くのは怪訝に堪へない。

以上三つの筆者の注文は共に臺灣の地勢から見て困難であり經費の巨大なることを承知して居る。併し自然を征服し障礙に打勝つて一步々々永遠に前進せんとする臺灣の意氣から見て、又先覺諸公の遺蹟に顧みて今の臺灣人の一大奮發を要する點ではなからうか。

#### 四、臺灣産業の將來—臺灣の工業化と南洋關係

臺灣は既に述べたる如く天恵薄きに拘らず人間の努力によつて開發進展を遂げ今日の繁榮を來したのであるが、何分にも地狭くその上耕地の擴張は困難である。臺中に於ける海岸遠淺の干拓事業、東部臺灣臺東州下の荒地墾墾の如き、多少の餘地はあれども農産物に就ては前述の棉及黃麻栽培の如き新作物に對する耕地の缺乏は争はれぬ。若し夫れ臺灣第一の産物甘蔗に至ては自足自給の目的を達し、米に至ては内地米穀政策によりて自然の制限を受け居り、果樹と雖もバナナ、鳳梨の外は輸出に至らず、謂はゞ農業は飽和點に達し居れりとも云ひ得る。今後は其の

改良と其の生産費の低減に力を注ぐこととなるであらう。果して然らば臺灣開發四十年の今後臺灣産業の進展は如何なる傾向に推進せらるゝであらうか。永久の青年臺灣の氣力は如何なる方向に轉すべきか、臺灣の當局者も事業家も共に深甚な考究を繼續して居る。小林總督との前後二回の會談も此の點が話題の中心であつた。森岡長官との會見に於ても亦此の問題について意見を聞くに在つた。松本電力會社長も大いに此の産業轉換の氣運を説いて居られた。其の他の有力者も皆今後の臺灣の工業化に望を囑して居らるゝのを看取し得た。筆者の今回の視察も主として此の見地から新しき工業工場の見學に没頭したのである。

併し工業發展には資本の問題は別としても三つの要件が大切である。曰く工業原料、曰く動力の低廉、曰く勞力の豊富これだ。

第一に勞力の問題を考察するに、本來臺灣の人口は稠密だ、僅かに三萬五千方杆の面積中高山國の名に違はず略々半分（一萬六千方杆）は山地しかも峻山高嶽である。其の中に五百萬以上の人口を擁して居る。略々面積を等しうする九州の人口七百萬に比すれば未だ人口問題起らざるとも云へようが、山地以外の人口密度は一方杆に二六四・四といふ程度にあり、内地以上だ。況んや其の人口就中本島人（漢人種）の増加率は千人に對して二四・七の比例であつて、約五年母に五十萬人の増加である。此の勤勉にして忍耐力に富む本島人の増殖は勞働豫備軍の優勢なるを示すものであるが、何れ臺灣の樂土に於て收益多き農耕就中甘蔗米作に永年生活安定を得た臺灣農民は容易に工場勞働に向はない傾向がある。併しこれは一時の現象で、大勢は農民の増加人口がやがて工場に向ふ時代は近く來る

べしと思はれる。現に臺中製麻會社工場にては附近の農家の子女を集めて紡織業に使用し効果を擧げ家族も會社も満足して居る。若し一時の策としては金爪石鑛山に於けるが如く對岸南支の労働軍を使用するも不止得事である。唯労働者の能率如何に就ては疑問を抱くも、熱練工と監督は内地人を以てし、本島人勢力を調育せば朝鮮人よりも又爪哇人よりも遙に能率を高め得べく、現に熱帯地に有勝ちな出勤移動不定は労働者收容制(セツツルメント)によらず附近部落の通勤制による時最も不利な稼働率を示すのであるが、高雄アルミニウム工場及前述の製麻工場の場合によれば、稼働率七十五パーセント以上なりとの事なれば先づ上の部に属すべく、労働者の技能についてはアルミニウム工場及金爪石製煉場の如き重工業に於ても、製麻工場及羅東の製紙工場の如き輕工業に於ても、意外に成績よく今後の訓育及熱練如何によりて有望なりとせらる。唯其勞銀が或は内地よりも高きやと思はるゝのみならず、これを南洋諸島國に比すれば著しく不廉なる點に在る。これ畢竟臺灣に於ける農業の有利殷盛の餘波にして永い眼を以て見れば臺灣の賃銀は必ず低減すべしと信ずる。當事者は此の勞賃不廉の過渡期を如何にするかの方面の問題に捉はるゝことなく労働力の大勢に立脚して工業化を考慮すべきだと思ふ。

第二に動力の問題だが、既に述べたるが如く水力電氣に就ては今日迄の建設費の問題に於て内地より不廉なれども臺灣電力會社の獨占となり、其の實力は政府の力大なるものあり自然に統制行はれ、電力供給費に於ては内地より大いに經濟的である。今後南北東西各其の雨期乾期異なり渇水期に多少の遲速ある點を利用して、更に水力發電所を四方に起し有無相通する所謂スーパーシステムによりて電力供給設備及發電費の節約を行はゞ、やがて其の電

力のコスト大いに低減し得べしと信ず。現に松本電力社長は此の點に大なる抱負を持ち、現在すら思切つた電力料金値下に依つて新工業の勃興を誘掖しつゝあるのだ。唯遺憾なのは今日迄火力燃料として工業に不可欠の石炭缺乏である。筆者の見た所では臺北州内に於て小規模の炭坑多々あるも其の炭質と曠量に於て内地に劣るの憾あり。併し地質學の權威者の意見によれば、臺灣は其中央脊梁の高山脈と雖も古き水成岩に屬し、東岸の新沖積層の平原との中間の南北に亘る廣き山地は第二期の水成岩系に屬し、必ずや石油並石炭の大なる鑛床あるべしと語れる位にて今後大いに地質調査(遺憾ながら此の方面の調査は他の方面の調査に忙殺されてか割合に不完全なりと思はる)を探鑛に努力せば或は此の石炭問題は意外に早く解決せらるゝ時期に達すべしと庶幾して居る。當面の過渡期の石炭補充問題は工業の發展、航運の殷盛に伴ひ滿洲北支向の復航の船腹利用によりて滿洲炭北支炭の廉價品を輸入することによりて解決せらるべしと思はる。

第三に工業原料の問題に就ては製糖工業に對する甘蔗の如く、將來は紡績に對する棉、製紙及バルブ工業に對する蔗糖及鬼首の如く大いに期待をかけ得る新工業の原料は相當あり得るも、これを一般工業國に見るが如き各種輕工業の原料の我臺灣に缺乏することは臺灣の工業化、産業の轉換に大なるハンデキャップであるこゝは否定出来ない重大問題である。

併しながら筆者は臺灣の特殊の地理的位置が此の難問題の解決に大なるヒントを與へて居ると思ふ。以下少しく此の點に關して愚見を述べて見たい。

試に亞細亞の地圖を一覽すれば、近代工業の原料の新産地と目せらるゝ熱帯島國は南洋に群がり集つて居る。馬來半島からスマトラ、爪哇、更にフロレス群島チモール島と遠く濠洲に連る一連の大島群は第一列をなして印度洋と南支那海とを區分して居る。第二列にはボルネオ、セレベス、モルツカ諸島、ニューギニア一連の大島群をなし、第三列比律賓群島が横はつて居る。其の最北端に我臺灣島は鎮在して居るのだ。これを臺灣から見れば最も近き比律賓から第二列島群、第三列島群を南方赤道を超えて扇を開いたやうに末廣となつて居る。さうして恰度其の扇の要に當る處に我臺灣は嚴存して居るのだ。且又廣義の南洋諸國としてタイ國、佛領印度支那を含めて考へても我臺灣は其の中心點となるのだ。之等の諸群島及諸國への距離を見るに高雄港を基點として

シンガポール	約 一、六二〇哩
バンコック	一、七〇〇
スラバヤ	二、一〇〇
マニラ	五五〇
香港	三四〇

となり、大體臺灣を中心としてコンパスを廻して見れば今日の汽船にて最も近き香港、マニラは共に二日航程、印度支那、ボルネオ、セレベスは五日航程、最も遠きバンコック、マレイ、爪哇は六日の航程に過ぎないのだ。この南洋なる大扇面の要に當るといふことは換言すれば南洋といふ世界の大資源地と、東亞即ち日本及滿洲支那といふ大市場との間に立ちて、自然に地理上最も近い、海運上最も便宜な連絡地點に、我臺灣が存するのであるといふに

過ぎない。此の如き臺灣島の經濟地理上重要な地點を占めて居ることを形容して或る英國の南洋通は「南洋諸島といふ大寶庫を開く鍵だ」と述べたことがあるが、面白い説明だと思ふ。

この經濟地理上の重要地點たることが、臺灣島自身に工業原料はなくとも近代工業勃興を促す一要因だと思ふ。試に日本内地に於ける紡績業今日の大發展の歴史を反省して見れば分明だ。日本に棉は産しない。唯印度の低廉な棉産地と米國の良質の棉産地との中間に日本は存在し、太平洋と印度洋の兩大航路の中間連絡點にあるので、豊富な人力と低廉な動力（電力石炭）と、而かも運賃安の海運力を利用して、茲に印度棉と米棉との混棉紡績を開始し新式の紡織機を使用して今日の盛大を致したのである。この紡績事業は臺灣の新工業に重大なヒントを與へざるを得ないではないか。現に原鑛石一片もなき臺灣の高雄港に於て爪哇のビンタム島のボーキサイドを輸入し、日本からコークスを輸送し、その上に臺灣電力を使用し立派にアルミニウム製錬に成功して居るのは正にこのヒントを實現して原料缺乏の臺灣に經濟地理上の重要性利用に頼つて立派に新工業を確立することの最も好ま實例をなして居るではないか。更に臺中の製麻會社の如きは同じく臺灣電力を使用し船賃安を利用して、黃麻を印度から輸入し麻袋の製織を成就して居るではないか。將來この實例に倣ひこのヒントに従つて馬來、スマトラの護謨や錫、タイ國の棉や、比律賓の麻、さては比律賓、馬來半島、佛領印度、蘭領印度等の富鐵礦而かも本國和蘭や、英國や、佛國や、米國では不用な又入用でも運送賃の不廉な爲に不引合の諸鐵産を利用して臺灣に諸々の重工業を起し、或は半製品として日本及東亞に再輸出することも考へられる。此の如きは日本品の有力市場として今日迄片貿易みな

るので問題を起したこれ等南洋諸國から今後日本が大量の買附を成し、其の諸國の對日本輸出を増進する結果となり同時に其の原産地の購買力の増加となり近年問題となつた日本と南洋との貿易調整の解決にどれだけ貢献するか言を俟たない。これぞ實に南洋と日本との間に有無相通じ共利共榮の經濟的協力を促進するものである。此の見地からして臺灣の工業化、産業轉換は臺灣と南洋との密接なる利害共通關係に立脚して始めて解決せらるべきものと信ずる。我々はこの見地から南洋との經濟關係、親善本位、共利共榮本位に立脚して徐ろに事業を進むべきであると考へる。(昭和十二年七月稿)

## 第二章 臺灣の自然と人生

昭和十二年七月二十四日久振りに臺灣に上陸した。明治四十二年と大正二年の二度、南洋出張南支觀察の基點として本島に渡り、風物を眺め産業を究め史蹟を偲んでから彼は二十五年目の今日で三度目だ。併し臺灣の今の山川草木の自然、都市田園の人生、これを見て今昔の感大いに深いものがある。二十六日から汽車と自動車とガソリンカーで西部を縦断して高雄に至り、更に七月二日から飛行機、汽車、自動車で東部花蓮港に赴いた。今度は専ら工場と農園、港灣と貯水池の視察に没頭した。従つて會遊の風物も多くは車上から眺めて二十五年前の記憶と對照し

て、そゞろ煙霞の旅心を催したに過ぎない。臺灣の旅日記も山水の紹介も餘りに多く世に出でゝ居る。筆者が更に蛇足を添へるは愚だと思ふ。併し眼に見、耳に聞いた印象を何かの形で書き残して置きたい氣持に駆られて、手帖に誌した心覚えの例の駄句とを拾ひ集めて拙著「爪哇みやげ」の例に倣ひ、この一章を八月歸京後に書いて見た。

### 一、植民地と神社

歐米の諸國は植民地開發の第一着手として基督教の宣布に力めた。或は植民地獲得の手段として宣教師を送つたほどで、何處にも寺院と政廳との建築が新市街の中心をなして居る。これを南洋諸國に見ても、西班牙の建設したマニラの美觀の中心カトリック教のあの大寺院、和蘭の經營した爪哇の首都バタビヤのプロテスタントの教會堂、最も實用主義の英國すらシンガポールの都市の中心にある英國教會の寺觀は相當立派なものだ。我臺灣にも滿洲にも本願寺の堂宇は建設せられ布教に努力して居る。併し基督教のそれの如く都市の中心をなすものではない、市の片隅に建設せられた小寺院に止まる。それも植民地開發といふ政策の具としてではない、純なる葬祭のための存在だ。さりとしてこれを以て日本人の宗教心の稀薄を論斷するものあらば大なる誤りだ。

日本人の心の底に深く根強く存在して居る敬神の念は基督教の信仰や佛教の崇拜とは全然趣を異にして居る。大和民族の傳統的信念であり、民族精神の統一的道徳である。これは論議を離れて内省して見ればすぐ判ることだ。我等は行く處に我等と共に我等の祖神先祖の靈在り殊に海外又は植民地に於て異人種と接觸する時、一層この

信念は強く、我等の胸裡に湧出して来る。そしてあらゆる可能な場合に神社を建設して祖神を祀るのだ。そしてそれが民族精神の統一の標的となる。己れのカミ共に祖先の稜威を自覺するのだ。滿洲に於ける忠魂碑、臺灣に於ける殉職者の記念碑は單なる墓碑として我等に懐古追慕せしむるだけではない。同胞の威靈の存在を以て崇敬の表現となつてゐるのだ。歐米人に於ける戦死者の記念碑とは別な觀念を以つてこれ等の忠魂碑に對するのだ。この神社の崇敬心と忠魂碑の觀念とが結び付き一つとなつて民族の敬神信念の表現として出來たものが臺灣に於ける官幣大社又は縣社として存する臺灣神社である。國民の傳統的敬神の念と臺灣の爲に陣歿遊ばされた故北白川宮殿下の御威靈に對する崇敬とが渾然配合して表はれたのが大小の臺灣神社である。この點に於て筆者は臺灣神社に參拜する毎に特殊の感に打たれたのである。南洋諸國に於ける基督教の寺院や土民の迷信的社寺、臺灣島人間の關帝廟や娘々廟に對するとは全然別世界に在るの感が深かつた。臺灣神社の儼然たる存在が、どれだけ臺灣の治政開發に努力せる大和民族に大なる感激或はインスピレーションを與へたか。筆者は臺灣今日迄の急激なる發展と今後の洋々たる進運の發動力はこの臺灣神社に對する我々の特殊な崇敬信念のものではないかと思つてゐる。

臺北の官幣大社臺灣神社は明治橋を渡りて圓山の丘に建立せられてゐる。草山に往く度毎に仰ぎ見て禮拜して過ぎたのだ。

熱風や治まる御代の大鳥居  
榕樹茂る參道に仰ぐ大宮居

風薫る大宮の千木青空に

臺南は故大宮の薨去の遺址である。臺北のそれと異り市の中央公園は自ら外苑となり、參道の大街の並木は熱帯樹合歡木の一種、蘭人や英人が詩的に「焰の木」と稱するそれだ。支那人や華僑の間に「鳳凰花」を以て知られた真紅のアカシヤだ。

崩れまし、御遺跡や今焰の木

何處の臺灣神社にも一樣に御影石の獻燈が夥しく列んでゐる。その中に「島根縣人會」の獻燈を見て高雄では參拜の我れに懐郷の念さへ浮べしめたのだ。

花蓮港廳で例の臨海街路を自動車で走つた時、最後の瘁猛なタロコ蕃社の激戦地も今や開墾地となり、蕃人は歸順して小文化住宅とも申すべき村落をなしてゐる。その村に小さいながら丘上に宮居おごそかに建立せられたのを見て、警官に尋ねてやはり臺灣神社の分社たるを知つて感激は更に深かつた。

蕃童の叩頭づく小宮樟樹の蔭

日月潭に臺灣電力の發電所を訪れた時、湖心の小さい島に朱塗の廻廊と鳥居を見て、岷々たる深山の中、蕃人の立籠れる幽境にも亦神社を見出した時は何事も云へない心地であつた。しかも日月潭の大堰堤築造の際、惡疫瘴癘の爲に島人苦力の病死するもの多く終に我玉島の宮の神靈を祀りて此小祠を建て、より、島人すら崇敬の念に打た

れて作業進捗せしむるに因縁を聞きて、一層我等の傳統的信念の表現、神社の威徳を仰がざるを得なかつた。

霧晴れて湖心の島の赤き宮

## 二、アルケード（停子脚）

臺灣の大都市、街頭の特色はアルケードである。臺灣の當局と土木技師の誇りはこれである。本島人間には之を「停子脚」と稱する。昔から暑熱の街頭の往來に、極めて幼稚な日覆式の軒先の延長らしいものがあつた。それを故後藤伯爵の民政長官時代に臺北の南市街經營に近代式のアルケードに改めたのが始源である。舊い臺南も新しい嘉義も高雄も皆コンクリート又は煉瓦で軒先に希臘建築の圓柱式に方柱を並列せしめ其の上は二階の張出しとなり、人道即ちサイドウォークはこの二階下アルケードである。雨の日も炎天の日もこの軒先の人道を往來するシヨツピングの夫人連の夏衣ミ本島人婦人の半洋半支の装ひの賑はしい晝下りは、正に臺北大稻埕街や高雄の銀座の光景である。土地の人はこれを臺灣の小巴里など、誇る手合もある。

アルケード廣場に遊ぶ兒の日傘

紺のスカート白き上着やアルケード

熱風も物かはアルケード街の賣出し日

## アルケードに馴れて物買ふ汗の旅

然しアルケードは必ずしも臺灣の独占ではない。極寒の國に暑熱の街には世界各國に存在して居る。日本でも積雪深き北國では高田市の如き、古いアルケード街とも云ひ得る。瑞西の首都ベルンの舊市街は道の中央に噴水の小川と青い芝生のアベニューを狭んで兩側の人道はアルケードである。チエツコスロヴァキアの首都ブラダの城下街の舊道の遺跡には矢張り古風なアルケードがある。千八百十五年の維納會議に脱け出して休養した露帝アレキサンダーの宿泊したホテルの遺物もあるマルタスケ・ナメステーは（日本の公使館所在地）特にアーチ型の古いアルケードの街である。今でもボヘミアの史劇映畫のロケーションとして屢々利用されてゐる。高田市ほどの積雪はななくとも冬期嚴寒の爲に街道は凍りついて滑り倒るゝ危険があるので人道をアルケードにしたのだ。炎熱の國では香港の商店街のそれは誰れも知つてゐる。併し最も美しいアルケードの街を造つたのは西班牙人である。比律賓のマニラ及キューバのハバナの舊市街、メキシコの諸都市のアーチ型のしかもタイルで化粧されたアルケードは實にアルケード美觀の極致だと、今でも十年前の旅行を追想する。臺灣の諸公よ、今一歩進めてセメントの原料多き臺灣で美しいタイルを作りアルケードの今のコンクリートの粗野な姿を美化してどうか。そしてこのアルケード化粧用タイルを印度南洋方面に輸出する計畫を立てアルケード街美化の範を世界に示してどうか、張切つた臺灣の諸兄に一寸耳打ちして置く。

### 三、臺灣の街路樹

街路樹は其の都市の氣候風土と國民の性格趣向を不知不諳の間に現はしてゐて面白い。拙著『爪哇みやげ』の中にもこれを論じこれを詠じたこともある。巴里のシャンゼリゼーやアルバールのマロニエ（我枋の木）列樹の初夏の萌黄の茂り、嚴冬の木枯の姿、さうしても一句浮ばざるを得ない。伯林のリンデン街の菩提樹の並木も夕陽を照返す葉の艶には一種の手堅い獨逸氣質も見える。併し街路樹として雄大の感じは鬱蒼たるアカシヤだ。寒い大連、奉天の市街でも爪哇の如き熱帯でも大いに繁茂する所にこの樹の特色がある。

我臺灣では南中北の氣候の差異に注意してか、又は各都市の特色を出さうといふ考へか、臺北、臺南、高雄、新竹の大都市にそれ／＼異つた街路樹を植ゑてゐる。街路樹の要件は夏茂り冬落ちそして成長の速かなることにある。今一つ都市の美觀を添へる爲に樹の姿の面白いこと、時に花を開いて風致を増すことが出来るなら、猶さら結構である。

臺北で目につく並木は榕樹である、亞熱帯の特色ともいへよう。然し榕樹の面白味は大廣場の中央に鬱然として聳え峨然として根を張つた姿である。總督府庭の大榕樹に眞の雄姿を見た。唯かに南洋諸國の大官邸やサルタンの宮庭に似合ひの大樹である。臺北に見るが如き街路樹として氣根の貧弱な垂下りはどうかと思ふ。

#### 道端に髪すく女の子榕樹蔭

たゞ臺灣神社の参道の並木だけはやゝ形整へたりと思はる。早く鬱蒼たる雄姿になることを祈る。

#### 榕樹茂る参道に仰ぐ大宮居（再出）

臺北に見た第二の特殊並木は官廳街に見る榕樹である。その姿その葉の面白味は匂になる、併し炎天の木蔭としては茂りが足らぬ。

#### 五月晴れ棕櫚大街の時計塔

高雄市街の一部に椰子特にローヤルパームを並木にしてあるが、これもシンガポールやパタピヤに見るやうに繁茂してゐない。併し棕櫚よりは街路樹として優る。これも熱帯亞熱帯の氣温の差異で止むを得ないかと思ふ。たゞ臺北で一吋面白いのは「タガヤサン」の並木である。かゝる貴重木を街路樹としてゐる例は先年爪哇滯在中樹園の都市（ガーデンシティ）バンドンにこれを見て葉の色、木の姿そして後の工藝用材たる實利を加味しての街路樹、さすが和蘭人の工夫だと思つたことがある。

實用ミ美葉を兼ねた街路樹は新竹方面の街道に盛んに植ゑつけられてゐるユーカリ樹だ。一寸護謨の葉に似た色彩があり、その實は楯以上の製油原料である。その成長も早く竹東の臺灣石油會社の用地の風除けにもこの樹を植ゑてゐた。筆者は世界の街路樹中美觀ミ實益を兼ねたものとしてボヘミヤの林檎、櫻桃、米國メーン州の砂糖楓ミ相並んで新竹州のユーカリを挙げざるを得ない。

臺中臺南の大國道に植附られた列樹は汽車の窓から見れば赤松のやうな葉の形で、その翳々たる木立は楊か榆の

やうなものだ。自動車で視察の際手近にこの並木を検するに松は全然異り寧ろ楊柳の類で内地の魚柳の種屬である。木麻黄即ちこれだ。先年爪哇旅行の時ストラバヤの市街から築港に到る運河沿道の並木がこの木麻黄であつた。しかもその樹皮が全く赤松の如く紅褐色なのに葉の柔軟な優姿に、筆者は「爪哇松」の名を附して咏嘆したことがあつた。夏の夕微風にそよぐ枝振りは何とも云へぬ優美な姿だ。今臺灣の大街道にこれと同種の樹肌の黒松に似たものを見て筆者はその遠見の姿から假りに「臺灣松」と名附けたい。どうも日本人は松を好む。庭に松なかるべからず。街道の並木と云へば昔から松に限られたものだ。この愛松癖が臺灣に来て大道に木麻黄を並列せしめて松並木を偲ぶその望郷の念に同情して、筆者は矢張り木麻黄の列樹を「臺灣松の並木」と呼びたいのだ。この松並木に伴ふ風物はストラバヤでは別荘住宅地の赤い軒燈の下にサロン姿の蘭人爪哇女が適切に目に映ずる。我内地の舊東海道の松並木に昔笠や駄馬の鈴の音が調和するに同じである。併し臺灣松の並木街道には水牛の荷車が日盛りを悠然として進み、牛追の本島人は長柄の柄杓を肩に時々水牛に泥水を浴せる姿が何となく板についてゐるやうに思はれた。

熱沙道 往く牛追の長柄杓

松並木臺灣にありと旅の汗

#### 四、鳳凰花

熱帯の花樹の中に合歡木に似たアカシヤ屬の木は忘れ難いものはない。春になれば眞紅に少し黄味か、つた豈

科の花が咲く、それも藤の花の如く房々と咲き亂るゝのだ。英人はこれを「焰の木」と稱して夕陽に燃ゆるその花を愛し、支那人はその花の形を賞して「鳳凰花」と名づけてゐる。この樹と花についての追懐と詠詠を舊著「爪哇みやげ」に掲げたこともある。今度の旅行で臺南の大街にこの焰の木が街路樹として空を蔽ひ咲き初めし火焰の花を仰ぎつゝ再び熱帯の氣分を満喫した。臺南の人々の誇るこの並木、如何にも熱帯ならでは見られぬ街頭風景である。花盛りには櫻見の代りに鳳凰花見物が年中行事の一つとなつてゐると云ふ話も内地人らしくて幽かしい氣がする。

白服の往きかふ大街や焰の木

往時の蘭國政廳のプロピンチャ城址、そして鄭成功以來の歴代の首都の城池として臺南に残る赤坎樓と鳳凰花の對照が繪のやうに美しい。我々の眼にケバ／＼しい朱欄畫柱の支那式の樓臺と毒々しいほど赤い鳳凰花とは實に面白い對照である。

鳳凰花の焰を抜いて畫樓かな

更に懷古の情に堪へなかつたのは昔の唯一の良港安平に今も史蹟として残れるセーランヂヤ城址、徳川末期に濱田彌兵衛が和蘭甲比丹を組み敷いて匕首を擡しつゝ大見得を切つた彼の有名な蘭人城址の邊りに、この焰の木が昔ながらに赤い燃ゆるが如き花を開いてゐたのであつた。

焰の木の片枝茂る古城壁



そしてこの鳳凰花が實に蘭人によつて爪哇から始めて持來されて今日我臺灣に鳳凰花の街路樹となり、廣場や孔子廟に大きな日蔭を作つてゐることが筆者の興味をそゝる中心である。思へば十九世紀の初大奈翁が歐洲を席捲した當時、和蘭本國は固より東洋に於ける植民地すら外國の手に落ち、和蘭の獨立の國旗は安平のこの城址と我長崎出島の蘭國領事館に纏るのみであつた。東印度の諸島は本國の獨立恢復と共に英國の手から復歸したが、臺灣は永久に蘭人の手から離れた。そして今その舊城址は僅に礎石の一部を止めて夏草繁るのみなるに、蘭人の賣した鳳凰花は依然として咲き擴がり今や臺南の名物街路樹として榮える點に私は深い／＼感慨を持たざるを得ない。且又日蘭の通商三百年の歴史、日本と西洋の唯一の貿易は實は蘭人蘭船によつて爪哇島と臺灣を足溜りして長崎出島で行はれたことと思ひ及べば、さうしても今後は臺灣を足溜りして日蘭の通商の盛大を期待し得ると信ずる。獨り馬鈴薯のヂヤガタ芋のみならず、鳳凰花が日本と蘭印の通商の古い思ひ出であり又將來の希望でもある。

### 五、臺灣の庭樹

日本人は何處に往つても日本室と日本式庭園を欲する。臺北第一の料亭梅屋敷の庭の石や木の配置、さては泉水の姿など苦心の跡を察する。臺南の旅館東屋の奥庭にも同様の苦心を見る。筆者は日本座敷が確かに夏向きの建築で熱帯向だと思ふ。それに阿里山の廉い檜の良材を用ひての建築には大賛成だ。併し熱帯には熱帯の樹木草花がある。日本庭園の中心は松以下常綠樹を配するにある。熱帯では何もかも常綠樹だ。成長が早く直に巨木になる。こ

れだけを念頭に置いて造園設計が行はれるならば筆者は何も申さぬ。幸に街路樹や大官廳の前庭、西洋造りの大家の奥庭には臺灣獨得の亞熱帯植物や熱帯植物を配置して立派に庭園をなしてゐる。今度の旅行中臺北だけでも舊知舊友を訪問して、官邸に待つ間やその社宅を散歩する間に、これだけのことは見て置いた。小林總督の官邸の前庭は檳榔樹が巧に利用されてあつた。

檳榔樹煙る大玄關の夕立かな

畑軍司令官の官邸は新しく庭は廣からねど榕樹の蔭に對して簾を動かす微風に涼蔭いふ感じを起した。

將軍も夏瘦見え榕樹かな

岩松司令官は古き官邸に住まへり、中庭の芭蕉の自然の姿面白しを見た。

夕立を芭蕉葉に聞く主客かな

加藤臺社社長邸は林家の一族の邸なりか、表は南洋に見る西洋造りの平家建、大分和蘭風の重厚味あり、中庭は噴水を圍みて純然たる支那式の廻廊に椒房を列ねたる造りである。華僑の純洋式の邸宅と異り東洋風を多分にとり入れただけに庭樹も東洋風に熱帯樹で作りに上げて居る。松か梅かを配する處に羊齒の樹と檳榔を配し四ツ手、青木の代りに芭蕉と脩竹を以てせるは心憎き造園ではある。

涼風や噴水に濡るゝ羊齒の幹

廻廊のタイル冷かに棕櫚若葉

これ等に比較すると日本庭園は内地の形式に捉はれて氣温適應の臺灣草木を充分に利用しないので、勞多くして功少きの感がある。併し田園の小驛や小住宅の垣根や小庭を車上から観ると、邦人の大衆はなかく臺灣草木を利用して日本の庭園趣味を發揮して居る。

パイイヤに浴衣乾しけり五月晴れ

馬に喰はれし道端の木槿の風流は、臺灣の熱地に居ても忘れ難きにや、小驛の鐵道官舎の小家には三種の木槿が利用されて居る。木槿の熱帯種で眞紅の大輪さく朱槿、蓋の長く垂れし朱槿の變種（予は爪哇にてその形を賞で、風鈴木槿と名づけしが臺中の農事試験所にも同じ名を附けありしに快感を覺えた）鬱金香と見擬ふ黄金色の椿に似たる黄槿の三種は或は小庭の垣根に、手水鉢の添木に、西日を防ぐ立木に利用せられてゐるのを見た。

アンテナの竹青々と朱槿垣

水打つて風鈴木槿なつかしみ

桐よりは木瓜親しむ夕涼み

メキシコで日覆用に軒から窓に蔓はびこらせる、あのバガンベリヤは臺灣には少い。花は小さくて葉が紫紅色に化し恰も花瓣と思はるゝ所にこの花の特異性がある。四時花咲き棚にも垣にも自在に利用せらるゝのだ。臺中と嘉義

の間の小驛にこのバガンベリヤの棚を作りてプラットホームに汽車待つ間の日蔭と花見の兩徳を與へたるは驛長の心憎きまでの風流ぞこしみく眺めたことだ。

日盛りをバガンベリヤの花の蔭

六、水牛百態

水牛は南洋南支諸國何れにも耕作上重要な畜類である。殊に我臺灣に於ては到るところ水牛を見ざるなく、田園の景姿には水牛なくては臺灣氣分が出ない。他の熱帯國には水牛と黄牛とは相半ばし少くとも運送曳引用としては黄牛又は白牛が用ひられ、未だ臺灣に見るが如く運送曳引用に迄水牛を用ひて居るところは甚だ少ない。水牛車だけは確かに臺灣の特色だ。従つて爪哇では牛車といへば黄牛車である。舊句爪哇田園風景にも

牛追は車上に眠る日傘かな

ミ詠じた程で、我臺灣の街道では牛追殿は竹皮笠に長柄の水柄杓を以て紅塵炎熱（新竹州内では赤い土壤が多いので字義通り紅塵である）の路を時々水牛の脊に水を浴せつゝ車を曳かして行く、とても車上に晝寝の餘裕もない。

塵風に追はれて暑き水牛車

泥水を少時浴せて水牛車

然し昭和八年の統計表を見ても水牛三十萬二千頭に對して黄牛僅に七萬五千頭だから、水牛を稍々亂用するやうに見えるほど臺灣人は水牛をよく馴らしよく使つてゐる。従つて本島人の水牛を愛撫する様も他に見られぬ圖である。雨の日の道端で

傘さして水牛に草飼ふ母子かな

それどころか、水牛のために特別浴槽を設けてゐるのを見た。池や川を離れた處では水牛に全身水浴せしめるのに困難だ。それに臺灣の川は淡水河を除いては流水絶えぬ眞の川はない。雨期だけの河川で乾季には賽の河原となるものが多い。従つて川の名は溪が多い、曰く濁水溪、曰く草文溪、皆然りだ。水が脊に乾いては働けぬ水牛に對しては本島農民の苦心さもあるべしと思はる。道端に水溜りを深く掘り下げて水牛の坐つて浴するだけの大きさに野天浴槽即ち水牛プールを作るのだ。泥水から頭だけ出してこの水槽に愉快さうに浴してゐる姿は臺灣風物の一特色だ。先年チエツコスロバキアに在勤の折、有名な温泉場マリエンバードで泥温泉に浴した時の自分の姿を想出して苦笑せざるを得なかつた。

水牛は青田の中に泥浴槽

水と離れ難き水牛と夕立は實に臺灣雨季の好畫題である。

夕立や尾を振りて水牛の得意なる

更に水牛の悠然たる態度は臺灣の濁水浴々たる溪水と面白いコントラストとも云へる。

吊橋や濁水渡る水牛群

この根強いそしてスローモーションの巨體悠然たる水牛を本島人の少女少年が巧に使役して耕耘に従事してゐる様を見て、性急な内地移民に果してこれを利用するだけの根氣ありやと疑を抱きつゝ花蓮港廳の移民村吉野村を訪れて村長に尋ねたら、今やこの移民村も第二世時代となり臺灣の風物に自然の感化を受け水牛も結構使役し得ると云ふことを聞いて愉快に感じた。舊友中川蕃君の著書「糖汁餘滴」の開巻に巖谷小波翁の「カツキンといふ語を知りて旅の汗」の句を引用して何でもカツキン（福州語の早く、即ち北京語の快々の的に當ると思はる）と焦心する氣短な邦人を戒める一節があつたが、熱帯で事業をなすもの殊に自然の力を頼る農業等では如何にも悠然たる水牛を學ぶべきだ。午睡も必要だ。氣永にやつてしかも根氣強く不撓不屈いふこゝが大切だと思ふと邦人と水牛の對照が意味深いやうに思ふ。

臺灣水牛の悠々たる姿は特にその鷺の友情に現はれてゐる。鋤を曳いて進む泥田の足下に二羽三羽鷺は飛下りて思案顔に抜き足差し足水牛と歩調を合せて進む。鋤のハンドル握る農夫も親しげにしてゐる。この田園情景は邦人に大なる教訓を與へてゐると思ふ。そして眞に熱國臺灣の好き姿、幽しき風物だと思ふ。

泥田鋤く水牛に馴れし鷺の群

日盛りや水牛の背に鷺一つ

## 七、甘蔗と水田

臺灣といへば砂糖を聯想する程に臺灣の經濟的發展は砂糖の今日の富産を基礎とすることに誰れも異議はあるまい。明治二十九年に爪哇の甘蔗苗を始めて輸入してから四十年の甘蔗栽培の苦心、それも近き比律賓糖、爪哇糖との競争——これがなかくの強敵だ。如何に苦心しても臺灣では甘蔗は十八ヶ月の長期を要し爪哇では十二ヶ月、おまけに一町歩の收穫は臺灣は爪哇の七十五パーセントだ。況んや土地狭く、颱風の害四五年に一回、勞銀は高いといふ種々なハンデキャップの下に今日の隆盛を來し、今や日本國內の消費糖は全部臺灣糖によりて自給自足の域に達し、沖繩や南洋委任統治領の産額だけは寧ろ海外輸出に向けらるゝやうになつた。今から二十五年前始めて臺灣に渡つた時は臺灣糖の先驅者の一人日比翁未だ在世中だつた。臺南の田舎に臺灣製糖會社の最初の工場を見學した時だ。事務所の屋上には土匪防衛のため一種の掩堡を作り銃眼の設けてあつたのを見、土匪襲來工場員全部武裝の下に製糖工業を經營した當時の苦心談を聞き、臺灣糖の創業が一種の戰闘であつたことを思ひ、また農事試驗所で病蟲害風水害鼠害に對する苦闘を技師から聞いて涙ぐましい感に打たれたのは實に昨日のやうであつた。それから直に比律賓、馬來半島、蘭領印度諸島を約四ヶ月旅行したが、爪哇の農作研究所で有名な植物學者の永年の研究の結果爪哇に最適する種苗を作出し、世界の砂糖の覇者として少くも東洋砂糖市場獨占の地位をまで築き上げた蘭人の苦心經營のことも思ひ遣られた。彼等は日本を若い弟子の様に親切に教へて呉れた。——筆者のやうな素人の

の小役人にさへも——そして二十三年後に日蘭會商の顧問として一昨年爪哇に再渡航し砂糖が會商の重大問題の一となつた時、筆者は彼等の委員間に營業者間に奔走したが、我方の強き主張は日本としては出来る限り蘭印の産物を買ふ、併し砂糖を從來の如く三十萬噸乃至五十萬噸買入の約束をせよとは無理な注文だといふのであつた。千九百三十五年末には臺灣の砂糖産額は百萬噸に達し日本の消費を充して餘りある有様だ。不要な物を強いて購入せよとは無理だといふ點にあつた。その時の蘭側一専門委員の述懐に、臺灣の砂糖の今日を致したのは、爪哇に於て甘蔗苗を給し栽培排水法を教へ、今日の日本糖界の有力者はみな昔日我工場で見習をした弟子だ。今やこの愛した弟子の爲に爪哇糖は大苦境に陥つた話して呉れた。筆者もこの述懐に對しては深い同情を禁じ得なかつた。終に本年度の如きは爪哇糖は生産制限によつて僅に七十萬噸臺に低下したといふことだ。しかも猶我邦は二十萬噸近く依然として爪哇粗糖を購入して精製し輸出してゐる。爪哇の三百に達する製糖工場は次ぎ／＼に閉鎖しつゝある間に臺灣の製糖工場は年々増加してゐる。臺南高雄臺東諸州遊歴の際新工場の白い大建築が諸方に聳立してゐるのを見た。全く臺灣糖と爪哇糖は、數年來その地位を顛倒した感がある。實に臺灣の田園は今も尙蔗畑の翠綠と稻田の黃波で彩色されてゐる。乏しき耕地は基地や河原に迫つて蔗畑とせらるゝのだ。

甘蔗畑の高壓線や雲の峰

熱風や稻田小波甘蔗の荒浪

青嵐甘蔗の葉裏を渡りけり

甘蔗畑や雲重りし嶺の裾  
 煙突の白く聳えて雲の峰  
 甘蔗畑を貫く大道やつむじ風  
 甘蔗畑に隣る墓原や日は沈む

嘉義臺南の新耕地、例の嘉南大圳地區では甘蔗と米と甘藷の完全な輪作を行つて居るが、他の地方では内地米價高に順應して二毛作の米作に努力し農民の懐具合大いによしと聞く。未だ人造肥料を用ひる迄に集約農法をやつてゐない。従つて二毛作で内地の水田の一毛作の收穫より稍々少いらしい。綠肥を用ひる所では相當の收穫はあるらしい。如何にも農事試験所の一技手の談の如くに米作は全く光熱と水で育つ。併し只天然の恩恵のみに依頼する爪哇の米作は年々品位收穫低下し、稻の收穫は蕃社のそれの如く原始的に穗を抜き摘むに止り、稻刈るが如き近代式收穫法を許さない。葉は發育悪いために刈取つて利用することが出来ない。臺灣の米作は收穫高施肥の狀況から見て、恰度最も進歩せる内地の集約農法と爪哇の放任農法との中間にあるやうに思ふ。既に甘蔗に就ても製糖會社直屬耕地に於ては種苗の改良（臺灣特殊の種苗F一〇八を作り上げた位だ）と施肥による集約栽培により糖分は固より收穫高に於ても爪哇に劣らざる成績を上げつゝある際、米作に就ても今一段改良を考慮すべきかと素人の我等は考へて居る。耕地比較的少く農産は殆んどいま飽和點に達して居る臺灣に於ては、米作の改良によつて水田面積

を節約して他の有用作物工業原料たる棉、黃麻の栽培にその節約面積を振り向けることも考慮せらるべきではないか、識者の一考を煩はしたい。

二毛作の臺灣では矢張り爪哇と同じやうに、この田では田植の最中、隣りの田は實り田といふ風に、田植と稻刈が並行して行はれる。

隣り田に稻刈る母も田植歌  
 相思樹に田植休みの笠二つ  
 青田から刈田に移る鶯の群

## 八、臺灣の果樹

爪哇が非時香果（トキジクノカグノミ）の樂土たりしことを舊著の中に禮讚の一節を草したことがある。併し此度の臺灣旅行により山や谷や原に二十五年前に思ひも及ばなかつた熱帯果樹の繁茂せるを見て一驚を喫し、更に各地の農事試験所に於ける熱心なる果樹の研究には歎賞を禁じ得なかつた。

第一に南洋諸國に於て最も缺乏せる柑橘類の多種多様にして、しかも内地種支那種に改良に改良を加へて臺灣獨得の品種を擴められた點には敬意を表せざるを得ない。この果實改良については一般に日本の専門家と栽培家に敬意を表す。十年前米國在勤中世界の果實樂園と讚歎し、六年前中央歐洲に在勤して果物の乏しきと不廉なるに驚

き、さて歸朝後日本で桃、梨、葡萄、柑橘、林檎、櫻桃、さてはメロン、莓の美味を割安に満喫し得る様になつたのに亦驚いた位だ。一體柑橘類は温帯の産で南支を本場とする位だから、爪哇やその他の熱帯で清涼な酸味の柑橘を欲しても容易に得られない。僅に蒲桃（カリンの一種）により酸を求むる状態だ。此處數年來日本人の手により爪哇の山地で紀州蜜柑の栽培に成功してからバタビヤのホテルの食卓にも青い半熟の蜜柑（マンダリン）を見るやうになつた次第だ。然るに亞熱帯の地方を利用して本場潮州を凌駕する橙柑（ポンカン）を第一とし、雪柑（セツカン）柑更（カン）に文旦（マンダリン）斗柚（トウユ）さては愛橘者の垂涎する白柚（バイユ）紅柚、今や米國産のグレープフルーツ、伊太利産のレモンも盛に試作して好成绩を擧げて居る。たゞ此の度の旅行がこの柑橘類黄熟の時季ならざるため昔時カリフォルニアの柑園、潮州の蜜柑畑で見たりやうな、花にもまさる美觀を眺むるを得ず、僅に青い夏蜜柑の果樹を仰いでその盛時を偲ぶに過ぎないのは残念だつた。

第二に芭蕉實バナ、栽培の急激な増加だ。臺中から日月潭に向ふ集々線の各驛に大小のバナ、市場を見て、その盛なるは恰度爪哇の晩春ドリアン（晩春ドリアン）の盛り時のやうに思はれた。

#### 朝市やバナ、青々と土間に満つ

南洋就中爪哇蘭印諸島では大抵バナ、は山峽、田の畦、農家の周囲、川縁、森林の裾など自然の儘に植ゑられ採收せられ居る様だ。別に耕地や水田迄漬してバナ、畠を大規模に經營してゐるのは極く少い。然るに内地の果物屋八百屋、さては縁日の名物バナ、捨賣店に大繁昌するほど夫れ程バナ、の内地移出は盛んなのだ。終に水田の稻作

よりも耕地の甘蔗よりも、際物として價よき折には、こゝにバナ、を植ゑるやうになつた。臺灣製糖の寛君が臺灣の基本産業甘蔗を山地に追込んでバナ、を耕地に栽培するのを憤慨して居られたのに對しては筆者は同感を表した。南洋旅行再三の體驗を持ちバナ、などは道端や、家の周囲に行人の取るに任せる風な氣分になつた筆者にはバナ、畑が肥野の中心に嚴存するのは奇怪の感を抱いた。更に道端や鐵道沿線の芭蕉にはその實に大きな紙袋を被せ、それが雨や塵に汚れ破れた様には一寸顔をそむけざるを得なかつた。

漸く濁水溪を廻りて日月潭に行く途中峻険なる山腹や深い溪路を開拓して新しい芭蕉畑となしたのを見て大いに我意を得たりと思ふた。かやうに他の貴重作物に適せぬ僻地を開拓利用してバナ、栽培に従事することは地狭き臺灣に於ては賢明な策だと私かに敬服しながら山道を上つた。

#### 山の端の關帝廟や花芭蕉

#### 滿山の芭蕉葉ゆらぐ白雨かな

第三に近來メツカリ産額も品種もよくなつた鳳梨である。パイナップルの加工罐詰業の統制を企て合同鳳梨會社さへ生れ出たのだ。世界で有名な鳳梨産地は何といつても布哇だ、その罐詰は米國は固より歐洲にも東洋にも普及して居る。我臺灣では矢張り布哇種をこゝの風土に適する様に作り上げたものらしい。南洋に見る紅の種類ではなく黄色い種類が最適する。併し實の大きさは到底布哇や南洋で見ると比ではなく、大いに改良を要するものとして専門家は熱心に研究してゐる。然しその甘蔗の新鮮味は汗の旅には忘るゝことの出来ないものだ。それに

この果樹は山地がよろしい、臺灣の如き高砂の國高山の國では山地開拓とパイナップル栽培とが並行し得れば大幸だと思ふ。

すさまじや紙袋破れて花芭蕉

鳳梨の葉の鋭きを花芭蕉

池を圍りてバナ、破葉の夕涼み

山路暮れて鳳梨の葉の煙りけり

その他パイヤも亦布哇の種が今臺灣に普及し、庭の隅にも梧桐の代用に日除けにも物干場にも利用せらる、程なるは上に説いた。併しその味は確かに布哇に次ぐ美味だ。たゞ腐り易きためこの美味を保ちつ、内地に移出困難なるを惜しむ。當業者の一工夫を煩はしたい。

マンゴー、マゴスチン、さては荔枝、サオ、ブダン迄も或はマニラ或は爪哇或は廣東から種や苗を取寄せて試作研究中だ。これも適種改良種を得て南洋に劣らぬものを見らるれば、正に臺灣は果實の樂園となるべし。必々考へさせられた。果物狂の我輩は終にこの一篇を草せずには居られないのだ。

## 九、蕃社小景

佐久間總督時代に生蕃の抗敵一掃のため軍警の涙ぐましい奮闘を續けられた結果、今日の如き蕃社鎮靜を見、歴

代の理蕃施設の効果は臺灣の原始民族の上にも沿く皇徳が及び、その生活の大改善を見たのは筆者の如き二十五年前を知るものには實に隔世の感を抱かざるを得ない。今回の臺灣旅行に於ても花蓮港廳内に往時の討蕃激戦の跡を偲び、最も瘁猛と云はれた「タロコ」蕃社の人々と話し合つて見る迄になり、今昔の感に堪へなかつた。茲に旅行中の蕃社見物を臺灣の人生の一節として漫筆を振つた次第だ。

二十五年前始めて蕃社を見たのは角板山であつた。當時物々しき隘勇線を超えて蕃舎に近きその生活状態も見たが、一番感じたのは彼等の耕作法であつた。山上山腹の一部のジャングルを切拂ひ焼き拂つてその上に陸稻を無雑作に播き貧弱な米作によつて糧を獲る原始的な農業に興味を懐きつ、南洋に赴いた。セレス、ボルネオの奥地に土人蕃人が同様な農業をやつて居るのを見て一層感慨の念に打たれたことを想起する。同時に臺灣蕃人とボルネオ土蕃の衣食についても大いに共通點を發見した。それは男子の禪子である。随分未開人民の生活に關する記述に興味を以て讀み耽つた筆者も臺灣蕃社及びボルネオ蕃人の樹皮を以て織つた六尺に近い禪子が他の熱帯未開人には見られない風習であると同時に我々が永い間六尺禪子の起源について考へさせられて思ひ當ることがある。今一つ面白いのは南洋諸島でも支那朝鮮滿洲さては亞細亞奥地でも古い武器は雙刃の劍であるのに、臺灣蕃人やボルネオ土蕃の山刀は劍でなく片刃の山刀であることについても、日本刀の起源について思ひ當る所があつた。今でも筆者は樹皮の禪子や陣羽織。蕃人の山刀を秘蔵して臺灣南洋旅行の記念にしてゐる。今一つ南洋懷舊談を茲に加へて置きたい。今から三十四五年前我友小川利八郎君が繪筆を擲つて蘭領印度に日本賣藥を賣つた時のことだ。同君の店

員賣子がボルネオの奥地に千金丹や寶丹を賣ふて行商した時、生れて一度も醫藥に親まぬ土人が千金丹で萬病を治し大いに效能を發揮したのは素より、この賣子君が偶々所持した古代武神の石版副を見るに及んで、土人は皆感泣したさうだ。そしてこれぞ彼等の祖先英傑の一員にして傳説上行衛不明即ち海外に去つたその英雄像だといふのださうだ。筆者は人種學者でも古代史家でもないが、南洋と臺灣をして颯風のための難船、黒潮上の漂流などを綜合して我南海には南洋及臺灣の土蕃の風俗が往古の時代に漂流して來たことはなからうかと疑を抱くのである。舊作に

樹の皮の禪子誇る蕃社祭

鼓を打つて蕃人集ふ夏の月

この昔日の食人種の太鼓は南洋の豹と恐れられた一志士同郷人石橋君の好意によつて今猶我家のベランダに飾られて居る。

日月潭の大貯水池を見、水社の涵碧樓に一泊した時、湖畔の「石卯化蕃」の部落にランチを飛ばした。恰度上陸地點に青年團の集會所國語傳習所があつた。その鐘を鳴らすと部落から老幼の女子十數名蕃社特異の上着を裝ふて湖岸の大きな平板岩を圍り長短の杵を以てこれを打ち老女二三人竹筒で地上を叩き伴奏する、その音はボルネオの魚皮の鼓に似てゐる。夕陽正に没せんとして湖上に金波を漂はし夕月はや遠山に顔を出した頃、この杵音のオーケストラは深山幽谷に反響して我ながら往古の氣分に酔はされるのだ。そして南洋でも臺灣でもこの杵音や鼓聲は悲

哀調を脱しない。やがて音頭の蕃女のソプラノに老幼の合唱、どうしてもボルネオの蕃歌の音を再現した氣になつた。

夕涼み蕃社美人の杵の唄

蕃童も手拍子まねび夏祭

石を撃つ杵唄悲し夕月夜

偶々歸路獨木舟を漕ぐ蕃社の男女に會つた。潭上の浮島に田植の歸りなるべしとのことだつた。この獨木舟が化蕃傳來の樟樹の割り舟なるはその形我郷土雲州の中海に今猶農民漁民の操る丸木舟に似たるを見、我郷土傳説に少名彦命が美保關より船にて中海の岸の女に通はれしとき樟舟に乗りと在るを思ひ出し、終に日本書紀の神代史の別記にも鳥楠船、石樟船の記事あり速き事鳥の如く堅牢なること石の如しと稱讚した神代の舟が樟であつたことに思ひ及んで、永くこの丸木舟が夕霧に隱る、まで見送りつゝ、想に沈んだ。

浮田めぐる樟舟の唄神代にや

涵碧樓から日月潭を眺むれば誠に聞として人聲を絶ち、深山の底冷え、山湖の幽邃さ身に沁み、僅かに湖心の玉津島明神の朱き欄干鳥居が常夜燈に照し出されたので人里なりと我に歸つた。

阿里山を紫紺に包む夕邊雲



唯一つ 湖心に赤し御神燈

この赤々宮居も日月潭大土木の折働きたる本島人や化蕃には唯一の信仰安心の基礎であつたと聞きては、蕃社の化育の一記念祠とも思はれて小さき宮ながら有難しと思ふた。

樟舟の化蕃も祈る赤鳥居

宮居で想出すのは「花蓮港のタロコ」蕃社の様である。最も瘴猛を以て鳴らしたこの蕃社も今や深山懸崖の舊社を降りて海濱に小家建の立派な村落をなし、親切な警官を中心にし青年訓練所さては内地に見るやうな立派な村の公會堂さへ建設せられて居る。殊に往時角板山や屏東で見た蕃社の竹の柱、茅屋根式又は石窟式とは異り木造の家、しかも窓硝子さへ設けられて居るには驚いた。尙この蕃社部落の村端れの丘上には小さい神社もある。全く理蕃四十年の功徳を感ぜざるを得ない。

蕃社にも小さき宮居や薯の畑

それから可愛いのは蕃童である。我等の自動車が蕃社の道路に差掛るに大道の樹蔭に巨體を横たへて道を閉鎖してゐる水牛を頼みもせぬに追ひ立てゝ呉れ、そして一齊に道端で叩頭をした。我郷村の野路に見る光景と少しも異なる。

駈出して叩頭する蕃童の汗光り

蕃女の若きは或はワンピース寧ろ内地夏衣の簡單服式なるものもあるが、派手な浴衣着を多く見受けた。本島人の女が支那服を固執するに對して化蕃の方が早く我施政に馴れ我同化に服するやうに思はれた。

刺青の女浴衣の跣足かな

併しタロコ溪谷の懸崖上には彼等の父祖の永く立籠つた舊蕃社の廢屋今も残り居るを見る。

懸崖の蕃社危く二日月

夏寒き激流渡る蕃女ども

夏の月照らす蕃女の刺青顔

國立公園候補地としてまた臺灣の西部東部を連結する唯一の棧道は大タロコ溪にして全く大濁水溪を鑿り開いた溪谷である。阿里山帯の高嶺峻峰も古い水成岩層より成れるを以て、これを穿つ水の力は彫刻に似て、奇岩聳立し懸崖駢列し我長門峽より狭くして兩岸の奇岩相迫る様は物凄じい感じを與へる。この溪谷の數百尺の上に大吊橋仙實橋が架せられてゐる。重い荷を負ふて危い棧道を登り、脚下に揺ぐ吊橋を、街道を歩むやうに樂々渡る蕃社の青年の笑顔は何となく親しみを覺えさせる。

吊橋や下に霧立つ濁水溪

足の下に風冷かに屏風

花蓮港を發して蘇澳に向ふ海岸大懸崖を切り開いて作つた臨海道路なるものは天下の奇觀である。峻嶒翠綠に瀟々たる如く荒海に屹立つさま、既に物凄きに、その中腹を切り開いて幾多の洞門を作り僅かに道を通じ、脚下には荒浪崖に碎けてその餘沫高く道行く車に飛ぶ様は一段の奇景でもある。併しこの鑿岩道を見降す高山、峻嶒、懸崖の上に點々散在するのが往時の蕃社跡である。蕃人の最後の立籠り場所であつた。臺灣東海岸の嶮岨、親不知子不知式の難所も終に花蓮港の築港、臨海道路の開鑿によつて彼等は抵抗の根據を失つた。否な皇化徳風は科學的開發と共にさすがの頑強瘳猛の彼等にも及び、今や平和の化蕃となつて、農耕漁獵に營々として居るのだ。この點から見て筆者は風景の奇絶を賞するよりは、臺灣の開發推進力の偉大なるに敬意を表せざるを得なかつた。

洞門を出で、身に泌ひ荒磯海

新緑の嶮山迫る荒磯海

荒浪を脚下に見つゝ羊齒の道

最後に屏東の蕃寮で蕃社製作品賣場の主人の仲介で蕃社の青年團と日本語で話し得たのは嬉しかつた。彼等は屏東山地の蕃社の青年で物品交換のために重い荷を背負うて屏東の街に來り、山の必需品を交換して再び長驅して山に歸る。その寄宿寮が即ち蕃寮である。二軒の低い岩窟式の家屋だ。屋根も壁も彼等が山から荷負ふて來た石板岩を以て葺かれ積まれて、二つの小さい窓と一つの入口を開いた中は圍爐裡を中心の土間である。それにも石板が敷

かれてある。彼等蕃社青年美術家はこの寮の壁や柱に人形や鳥獸草木を彫刻し色彩まで簡單に施してゐる。それがセレス島で見た部落の青年寮舎の壁畫浮彫に相似た素朴さやグロテスクな紋樣さへ石器時代を思はしむるものがある。一人の若者は熱心に武裝蕃人、老女蕃女の木塑像を作つてゐた。昨年内地より御旅行の久遠宮大妃殿下の御注文品だのこゝであつた。特に別室の小さな處でコック／＼とやつてゐる敬虔な顔にさこそと思はれた。漸く彫り損ひの武裝蕃人像を買求めて記念とし今我書齋に比律賓の酒盃(裸像)、パリー島の守護神像、爪哇の浮彫青銅花瓶と一緒に列べて朝夕臺灣南洋旅行想出の種となつてゐる。

椰子蔭の蕃寮の壁畫月に浮く

薯飯や蕃寮の壁畫白くして

筆者が特に蕃寮に興味を覺えたのは、その屋根や壁の石板(古い粘板岩)である。新高山を盟主とする臺灣脊梁の大山脈がこの粘板岩古い水成岩なることをこの蕃寮の建築材料によりて親しく知り、更に臺東旅行の往路を飛行機で臺北山系の空を低く飛超えてその山形を見降し大體水成岩なることが確實になり、そして臺灣の地質が金屬賦に乏しき所以を知り、臺灣の産業の將來について大いに考へさせられたのである。

その歸途臺灣製糖の社宅に有田元外相の義弟寛君を訪ね、例の瑞竹の講話を拜聴し、さらに熱帯に於ては熱帯適應の生活法ありこの筆者の持論をも吐いた時、寛君の響應振りにギヤフンミ參つたこゝを茲に附言して置く。

涼風に椰子液木瓜の馳走かな

(昭和十二年八月稿)

## 第三章 歐洲大戰と日蘭關係

## 一、和蘭中立維持の困難

歐洲の大戰は第一次一九一四年のそれも第二次一九三九年のそれも結局英獨兩國の歐洲に於ける覇權争ひである。昔も今も英國は海上の女王であり、獨逸は陸上の王者である。北海を隔て、海と陸との覇者の鬭争たるが故に北海沿岸に國を建てたる和蘭と白耳義とは、獨英兩勢力の中間に挟まつて何時も陸境から海上から双方の戰略の爲に利用せらるゝ危険即ち中立侵害の虞が常に横はつて居る。かくて歐洲大戰毎に困難なデリケートな立場に在るのだ。那翁戰爭時代には和蘭と白耳義は一國をなして居たが、那翁は英國を歐洲大陸から遮斷する爲に、和蘭に侵入してこれを佛國の保護國となした。第一次大戰の際には劈頭白耳義は獨逸の戰略の爲に中立を犯され、和蘭は幸ひに中立を維持することが出来たが、今や第二次大戰となり獨逸が英國空襲の根據地として潜水艦隊の基地として利用する爲、即ち戰略上和蘭の中立を犯さんとの報道は盛んに流布せられ、これに依りて緩慢なる戦局に一大變轉を來すべしと思はれた。かくて和蘭は前の大戦の時の白耳義と同じ運命に陥るのではないかとの危惧の念が擴がつて

居る。和蘭自身は今靜穩で開戦の當初から國境防衛中立擁護の爲に各般の軍備施設に盡瘁して居るのは事實で、中立維持の爲の政治上軍事上の苦心の並大抵でないことは初から覺悟して居る。

其の上に和蘭は歐洲の動亂の度毎に、獨り本國のみならず其の豊富な大植民地蘭領東印度の運命について一方ならぬ苦心をせざるを得ない立場に在るので、那翁戰時代には本國が佛軍の占據する處となり、植民地は英海軍の占領する所となつた。尤も一八一八年に間もなく和蘭に還附せられた。此の苦い經驗から第一次歐洲大戰中再び交戦國の爲に占領せられざらんが爲、本國と同様蘭印植民地は嚴正中立を保持する爲に如何に苦勞したかは察するに餘りある。今や第二次大戰に際し、本國と共に交戦國の戰略、政略の爲に再び占領せらるゝことなからしめん爲に焦慮しつゝあるのである。如斯蘭國の地位は英獨の爲に動々もすれば侵略壓迫を蒙る虞あり、其の國土我九州の如く其の兵力僅に數十萬、大國の近代的大軍に對抗すべくもない。故に最後の決意に等しき洪水防戦の準備を整へつゝ、あるに報せられて居る。既に一六七二年と一八七四年の二度西班牙佛蘭西の侵入に抗して洪水防戦を決行し、國土を蒼海と化して孤城を堅守した悲壯な史實に照して和蘭國民の中立維持の苦心に同情せざるを得ない。將又海上封鎖の爲に抑壓せられながらも中立國の通商を擁護する爲に幾多の犠牲を拂ひ危険を冒しつゝ歐洲と東洋との貿易航海を續行する困難も亦想像に餘りあるものがある。和蘭の中立維持も亦難い哉だ。

筆者は昔日の歐洲大戰の當初白耳義に在勤し、中立侵犯の悲劇を目撃し、終に獨軍の兵營に抑留せられて後釋放せらるゝや蘭國公使館の自動車によりて和蘭に通れ、中立を維持し得た蘭國が中立の爲にする苦心の實況をも親し

く見聞した。更にフレツシゲン港から北海の機雷敷設海面を危険を冒して迂迴曲折漸くティムス河口に上陸し、正にクリスマス前夜に獨逸軍の最初の倫敦空襲を體驗し、今當時を追懐しつゝ中立侵犯の慘禍と中立維持の困難と何の途蘭白兩國の今日の苦しい立場には最も深く同情するものである。

今次の大戦の當初一九三九年中に於ける獨逸の戦略から見ると、兩軍の接觸點即ち西部戦線に於ては獨逸兩要塞防壁の對立であり、北海々上に於ては潜水艦と驅逐艦のゲリラ戦に止まつて居る。故に期待せられた北海々戦、獨逸國境戦といふ西方に於ける實戦の激烈はなく、却て東南方に於けるバルカン半島及バルチック沿岸諸國に對する外交戦の方が遙か激烈であり大規模であつた。従つて一かバチかの冒險的突撃戦即ち和蘭白耳義の中立侵害の如き政治的因果の最も悪い冒險を英佛は無論獨逸と雖も、容易に決行せざるべしと思はれた。英佛に至ては當初から四年の持久戦を宣言し長期經濟戦だと聲明し、速戦即決戦略を回避して居り、西部戦線に於ける急戦決勝の意思はなかつた。若し獨逸側に於て戦術上止むを得ず最後の手段として將又英佛聯合軍撃破の勝算確實なりとの見透しがつく迄は、和蘭の中立の侵害といふ問題は戦術家の作戰計畫としての可能性はあつても、英佛獨の肚裡にある決意としての實現性は乏しいのであるまいか考へられた。

或は曰く英國の戦略即ち長期經濟戦、殊に優越せる海軍力による海上封鎖は終に獨逸を飢餓に陥れるであらう。従つて其の飢餓線に立つ前に死物狂となつて活路を開く爲、中立侵害の暴舉に出でざるを得ない。今や獨逸は必死の破目に陥つて居る。第一次大戦最後の潜水艦の無警告撃沈と同様必要の前には止むを得ざるものであると説くも

のが多い。英佛米の觀察は大體之れであつて和蘭中立侵害切迫説の盛んな所以である。併し今の大戦に於ける獨逸は昔日の如く四方の活路悉く包圍せられて居ない。蘇聯は獨逸と提携して東方國境は食糧、鐵、石炭、石油輸入路として大きく開放されて居る。物資豊かなバルカン諸邦は中立である、寧ろ獨逸の威力に服せざるを得ない立場だ。故に南方國境も自由輸入路として開放せられて居る。獨逸の盟邦伊太利は中立を棄てない。英佛側も伊太利が獨逸と共に干戈を執つて起つことを恐れて居る。其の感情を刺戟することを極力避けて居る。従つて英佛の對伊封鎖は嚴重に實行出来ない。然らば中立伊太利は獨逸に執りては又大切な物資の中繼輸入口である筈だ。結局英佛の海上封鎖は其の效力を發揮し得るは北海だけだ。英國の豫期の如くしかく單純に獨逸を飢餓線に陥れることは出来ない。換言すれば獨逸の經濟耐久力は今次の大戦に於ては第一次大戦の時のやうに薄弱なものではない。此の故に悠々として五年持久戦を豪語せるヒトラーが焦念に和蘭中立侵害を決行すべく見えなかつた。(追記、北歐戦争に於ける英佛軍の失敗は其の兵備の不完全と戦術の拙劣を暴露するやヒトラーは好機逸すべからずとして終に蘭白の電撃進軍となり、一九四〇年四月和蘭は終に降服し獨逸の占領に歸した。従つて本論の前提は消滅した、けれども蘭領東印度は今猶中立を維持して居るから、以下の拙論は依然として其の論據を失はないのだ。昭和十六年一月附記)

## 二、第一次大戦中の日蘭關係

上述の如く第一次大戦に於ては、獨逸の戦略的計畫の爲に白耳義が犠牲となり却て和蘭は永く中立を維持し

得た。今の第二次大戦に於ては英國の經濟長期戦計畫と獨逸の政治工作戦術との交錯から、双方ともに中立國侵害の暴舉を避けつゝ、爲に大戦當初に於ては和蘭は又中立を堅持する立場に在つたのである。然し第一次大戦の際には獨逸が和蘭中立を欲する別な理由があつた。既に空軍及潜水艦隊の根據地としては最も手近な白耳義に於てオステンド、ブリュージュの如き港を占め和蘭を侵す必要がなかつた許りでなく、和蘭は平時に於ては獨逸及中歐に通ずる仲繼貿易國として繁榮し、獨逸の大切な輸入口であつた。東西南を包圍せられた當年の獨逸は戦時に於ける物資輸入の唯一の残存せる仲繼地として和蘭の中立持續を欲せざるを得ない。英佛側としても既に獨逸の手に歸した白耳義海岸の上に更に和蘭海岸迄も敵の作戦に利用せらるゝを欲しない。故に和蘭の中立を尊重すべき筋合であつた。加之和蘭の如き有力な海運業國の多大の船舶が中立國として東西洋間の航海を繼續し、必需品輸送に缺乏を來せる英佛の船舶不足を補充し得る點から見ても和蘭の中立尊重の必要があつたのだ。

斯くして中立和蘭は第一次大戦中米國に次ぐ商業上の繁榮を來した。殊に必需品砂糖、ゴム、石油、雜穀に豊富な蘭領東印度の繁榮は本國の海運業、貿易業の隆昌と相俟つて目醒しいものがあつた。實に戦争ブームによる蘭印の住民蘭人は素より土人、支那人の裕福さは驚目に値した。

此の間に於ける日蘭の關係は經濟上に於て先づ共榮の親密な聯契を作つた。それは獨逸の潜水艦の跳梁による世界の海運の大打撃によつて一層緊密な關係が蘭印を中心に日本に結ばれて來た。歐洲本國への輸送に大障害を來して以來、第一に爪哇糖の殆んど大部（即ち年一百万噸以上）を筆頭として、蘭印の物資は盛んに日本の商人の手を

經て日本の船舶に依つて獨り東洋のみならず世界の市場に賣渡せられた。當時同様の理由に依り印度、シンガポール方面に急に發展した日本の商權はかくして蘭印に激増したのである。當時爪哇銀行の如き日本商人を大なる融資先として信用を與へ、特に臺灣銀行との關係は最も親密であつた。此の故に後年日本の金融恐慌の際、臺灣銀行始め日本の銀行及商人に對して相當巨額の信用及融資を與へてゐた爪哇銀行始め、蘭印取引先の恐慌を惹起しかねまじき有様であつた。従つて時の蔵相高橋翁が臺灣銀行救済に於て最先に其の對爪哇債務の救済から着手して、され程蘭印の官民がこれを徳としたかを當時の爪哇銀行總裁たりし人の口から筆者も亦聽き知つた一人である。それ程第一次大戦中の日蘭の金融貿易上の關係は共存共榮の緊密な關係であつたのである。更に政治上の關係に於ても第一次大戦中日蘭兩國は交戦國と中立國といふ刺戟の多い、利害の衝突し易い關係に在りながら意外に友好親善な間柄であつた。（追記、一九四〇年の蘭國政府倫敦移轉後は和蘭本國は獨逸との交戦國であり、日本尙中立非戦状態に在り、従つて今日は日蘭兩國の地位は反對であるが依然友好平和の關係にあることに變りはない。）

抑も第一次大戦開始の初から獨逸の有力な東洋艦隊が船體相銜んで青島から脱出し、本國に歸還せんとした其の航路を何處に採るか、避難遁竄に便利な島嶼と港灣の多い蘭領東印度を通過して亞弗利加を迂回するか、薪水補給に不便な南太平洋を過ぎ南米を迂回するか、大なる謎であつた。若し前者の航路を選ぶに於ては和蘭、殊に東印度領の迷惑は大なるものあるべきは推察に餘りあるものであつた。日露戦役中ロゼストビンスキのバルチック大艦隊が東洋遠征の途次燃料補給の爲東印度諸島を秘密に利用せしやの疑あり、これが爲に蘭印政府は苦い經驗を持つ

て居る。その上に歐洲に於ける獨逸と和蘭との微妙な關係から蘭印に於ける獨逸同情の噂も亦此の獨逸艦隊の脱走路を爪哇海に求むるの臆説を強めた譯だ。當時英佛とも其の東洋印度洋の艦船を悉く歐洲に引揚げ、聯合國全體の爲に太平洋、支那海、印度洋の警備及監視の重責は全く我日本海軍の双肩に懸つて居た。此の故に日本海軍と蘭印の關係は頗るデリケートなものがあつた。現にエムデン號が獨逸艦隊から離れて獨り爪哇海印度洋に跳梁し、聯合軍及中立國の商船の多數を撃沈したる際、獨逸運送船と共に蘭印諸島を私かに逃避補給に利用せし疑濃厚なるものありしを以て、之を追躡せし日本の海軍は勢ひ蘭印の沿海を警戒監視せざるを得なかつた。然るに我海軍の態度は慎重公正にして蘭印の中立港灣を毫も犯したるこゝなく、又かゝる場合に有勝ちな紛争を一度も蘭印の官憲との間に惹起せしことなく、又蘭國船舶を拿捕せしこゝもなく、其の公正嚴肅なる我態度は深く蘭印官民のアプレシエトする所となり、日蘭の政治的友好關係に裨益する所が多かつた。日蘭三百年の親善友好關係に於て此の大戦中程經濟的共榮、政治的友好の關係の親密なものは鮮かつた。(追記、然るに一九四〇年四月獨蘭開戦和蘭本國占領後日本は逸早く蘭印の現状維持を宣言した。以て日本と蘭印の昔日の大戦中の如く和平友好の關係を持續せんとする意志を明白にしてゐる。若し日本の蘭印に對する此の斷乎たる態度の宣明と、日本の大海軍の東亞に於ける嚴然たる存在なかりせば、昔日の那翁戦争の時と同様に或は英海軍の占領に歸せず誰か言ひ得るか。英國が佛國の休戦後佛國海軍の一部を奪取し、自己の傀儡に等しきドゴール政權をして中央阿弗利加の植民地及南洋ニューカレドニヤ諸島を占取せしめて英國勢力下に收めた現實の例に照して、蘭領東印度が其の獨立中立とを維持し得ると誰が

斷言出来るか。近來頻りに豪語し日蘭會商の友好和平の交渉すら停頓せしめんとする蘭印の識者の一考を煩はしたるものである。)

### 三、日本蘭印の提携の必然性

第一次歐洲大戰に於ける戦争ブームによりて享けた中立國和蘭の繁榮の一面は既に述べ又世間でも知つてゐるが、同時に他の半面に於て中立國として蒙つた和蘭の損害に就ては案外注意を惹いてゐない。公正な見地からして此の被害の一面をも考察すべきだと思ふ。

第一に前の大戦中和蘭の船舶の撃沈せられたもの實に二十萬噸の巨額に上つた。(追記、第二次大戰の今日和蘭本國船は全部撃沈と抑留とによつて消滅した)その外船舶戰貨の拿捕抑留せられたものも相當あつた。第二の犠牲は獨逸國境、白耳義國境の防衛及海岸防備の爲に小國家ながら五年間防備に用ひた五十萬の兵數と數十億の經費は巨額に上つてゐる。和蘭に逃竄した兩交戰國兵士の終戰迄の抑留保護の費用のみにも六億弗に達したと報せられた程である。第三に戦後の財界反動不況の爲に戦時中の収益の大半を吐き出した間接の被害も考慮すべきである。第四に本稿冒頭に詳述した和蘭の特殊地位即ち英獨の争覇の間に介在して常に悩まされ、政治上の悲哀即ち憂慮不安から來る苦悶は所謂神經の戦に苦しめらるゝものであつた。此の故に歐洲の大戦を喜ばざるものは恐らく和蘭に若くものなしと斷言して憚らない。さればこそ(一)今次大戰の間際に於て一九三九年八月二十三日オスロ協商國の名

に於て白耳義皇帝の紛争平和解決の爲の列國會議の提唱、(二)更に八月廿八日和蘭女皇及白耳義皇帝の英獨佛及ポ  
 ランドに對する共同調停の提案、(三)十一月七日再び蘭白兩國皇帝の和平調停の發議は皆兩國々民の痛切な希望  
 を披瀝せられたる兩皇帝の眞率な企圖である。然るに英佛の新聞が何等か不純な動機、例へば獨逸の強要に餘儀な  
 くされたとか或は獨逸の和平提案の變形なりと評するが如きは邪推の甚しきものなるか、或は宣傳戰の資料に逆用  
 せんとするものにして、眞に蘭白の困難な苦境を了解せざるものである。若し夫れ獨逸軍精銳の蘭白國境方面集  
 結、英國が機雷及潜水艦に對する保護の名の下に蘭船を自國港灣内に抑留、蘭白兩國の防禦軍事施設の急造、蘭國  
 の悲壯な洪水防戰の準備、兩國元首の深夜會合、さては獨逸新聞の蘭白攻撃筆陣等々アラームングニュースは不氣  
 味な深刻な氛圍氣を傳へてゐる。蘭國中立維持の不安と困苦と官民の苦心と焦慮をこれによりて察知すべく同情禁  
 じ得ざる處である。翻て今次の大戦中日蘭の關係は昔日の大戦中の如く果して共榮親善を保ち得るか否か。吾等の  
 慎重に考察すべき問題として今日吾人の面前に横はつてゐるのである。此の問題の解答の資料として讀者に提供す  
 る爲、上述の如く前後三回の大戦と和蘭の地位、蘭印と日本との關係の史的解説を試みたのである。

日蘭の政治上の親善關係は三百年來不易不變である。有史以來未だ曾て干戈を執つて相争つたことがないのだ。  
 兩國の文化經濟の親密な關係は古く徳川時代の蘭學の隆盛、長崎出島の蘭國商館の日本貿易獨占以來綿々として今  
 日に及んでゐる。然るに第一次歐洲大戦以後日本の南洋印度方面に於ける貿易の刮目すべき發展以來、英佛の一種  
 の經濟鎖國政策の聲望に倣つてか、和蘭植民地は漸く日本の貿易發展に危惧の念を懷き始め、一九三一年の滿洲事

變に伴ふ南洋華僑の排日運動以來、日本の東亞に於ける政治的地位の優越に對して次第に疑惑の眼を向けるやうに  
 なつたことは隠れもない事實である。蘭印政廳の一九三四年に於ける五十六種商品輸入制限及營業制限法案の如き  
 は殆んど日本の商品及商人の進展抑制を目標としたるは推測に難からず。現に其の發案者たる當時の經濟長官ウエ  
 レンスタイン氏のヘイグに於ける新聞會見に於て日蘭の經濟侵略 Economic Penetration を警戒すべきことを力説  
 せるによつて明かである。若し夫れ一般民衆の對日疑惑は寧ろ笑ふべき流言蜚語に動かされ一種病的と思はるゝも  
 のがあつた。例へば一九三三年蘭印に來遊せし英のアレクサンダー・レンビー將軍に對し日本人が暗撃の陰謀を企てたりなどのデ  
 マは誠にやかに傳へられ、當の將軍自身が何を勸違ひしたか米國太平洋岸で此の虚報を肯認するが如き新聞會見談  
 をやつたのは怪訝に堪へない處だ。更に其の翌年我練習艦隊が親善表敬の爲バタビヤを訪問し、大いに蘭印官民の歡  
 迎する處なりしに、爪哇の山村僻邑ではこれを日本の政治的示威行動と曲解して人心恟々たるものありしことを當  
 時筆者は耳にした位だ。此の如く滿洲事變以來蘭印の對日空氣の惡化したことは否定し得ない處だ。昭和九年の日  
 蘭バタビヤ會商の挫折は貿易上の利害よりは上述の政治的疑惑に基く對日惡感が大なる原因の一つであつたと筆者  
 は信じて疑はない。一九三七年第二次日蘭會商に於て日本側の大讓歩によつて通商協定は成立したが爾後支那事變  
 の進展、日獨防共協定の成立、廣東、海南島の占領以來蘭印の空氣は英佛の對日惡感に誘はれて亦惡化し、日本の  
 商品輸入及日本人の入國に對しての行政的抑制は益々強化せられ、政治上に於ても日本のポルネオ侵略に對する防  
 禦策として油井の燒燬の準備成れりも宣傳せられ、日本海軍の南洋進出に備ふる爲、英佛蘭の植民地官憲の秘密協

議、シンガポールを中心とする三國海軍の共同防戦等の流説とニュースは頻々として傳へられて居る。

終に今次の歐洲大戰勃發間際の英佛蘭の植民地の人心の動搖及日本人に對する警戒取締りは殆んどヒステリックと稱すべき程に緊張した。一九三九年八月獨蘇不可侵條約の成立、日本の歐洲動亂不介入の聲明以來、蘭印に於ける對日疑念は次第に緩和したりと聞くが、これが第一次歐洲大戰中の日蘭友好共榮の空氣とは比較すべくもなく悪化してゐるのだ。然るに日本と蘭國の今日の地位は共に同じ中立國であり、大戰の爲に利害の衝突はあり得ない。第一次大戰の際の交戦國と中立國との關係、即ち相互警戒監視の間柄とは全然異つてゐる。何等の遠慮も要せず支障もなく共榮協力を計り易き關係に在るのだ。その上に今次の大戰は最初から英佛側の北海に於ける海上封鎖の深刻な勵行と、獨逸の潜水艦ゲリラ戦の努力の爲に和蘭本國と東印度植民地との交通貿易は直に大打撃を蒙らざるを得ない。日本も亦大戰の爲歐米より物資を獲るに困難となり、日本の輸出市場に相當の打撃を受けた。日蘭共に今次の大戰による經濟貿易上の打撃は、昔の大戰の場合より一層早く一層痛切に感じてゐる。故に他に原因なく日蘭兩國の經濟的共榮協力は昨日よりは一層緊要な譯である。夫れにも拘らず今日未だ蘭印に於ける日蘭兩國の政治的親善及經濟的協力の實現も意見も聞く所なきは筆者の遺憾とする所である。

蓋し其の遠因は蘭本國殊に蘭印の新聞が徒らに英佛に追隨して、日本の南進政策に侵略的野心を包蔵すと喧傳し、この疑念が常に蘭國側に深く根ざしてゐるに因ると思ふ。此の好機に此の疑念を解消する爲に日蘭兩國間に率直坦懐に政治的瞭解を遂げ、相互信頼の信念から出發して地理上經濟上接近すべき必然性を有する兩國が共存共榮の基礎に立ちて歐洲の大戰により同様に蒙る苦境を脱却するに協力すべきことは、日蘭兩國識者の當然考ふべき結論である。私は確信する。筆者は此の政治的瞭解の内容形式に付私見を有するも懸とこれを差控へ、單に筆者が關係せる華府會議に於ける蘭國代表カトネベック外相の四國太平洋宣言加入に關する意見、第一次パタビヤ會商に先立ち我長岡全權のヨング蘭印總督に對する日蘭政治協定のサゼスチョンを參考迄に讀者の記憶を喚起するに止め賢明なる日蘭兩國識者の御努力を庶幾して本論を終るものである。(昭和十四年十二月稿)

(追記、果然一九四〇年七月近衛第二次内閣成立直ぐ小林商相を特派大使として蘭印に派遣し、更に同年十二月芳澤元外相を小林特使の後任として派遣し日蘭印會商を重ねることとなつた。然るに英米の合作に因る太平洋の風雲急なるや、何を頼みとしてか、蘭印當局の態度は強硬となり、日蘭印會商の停頓は屢々傳へられ、剩さへ日本の南進阻止の爲英國と密議しつゝありとの風説はシンガポール中心に宣傳せられつ、あるは筆者の頗る遺憾とする處である。我が蘭印の友人諸君に本論文(日蘭協會々報所掲)の再讀と冷靜なる反省とを勧めたい。また日本の讀者には第一編第九章を併せて本稿の精讀を望むものである。(昭和十六年一月附記)



## 第四章 時局と南洋の重要性

## 一、東亞新秩序の意義

皇紀二千六百年を迎へた我等は東亞に於て有史以來の至大の事變に直面して居る。既に四年の永きに亙りて數百億の軍費を消し數百萬の大兵を動かして居る。その上に此の支那事變收拾は政治的に經濟的に抜本的な計畫を眞剣に實行して、少くとも東亞に再びかゝる紛亂の起らざるよう永遠の平和、安住の樂土となすに非ざれば事變の尊き犠牲となりし數萬の英靈に對し將た銃後に刻苦堅忍せる一億の國民に對し慚死すべきである。この意味に於て我等は今有史以來の至重の責任を負ふて居る。從て時局の最後收拾は當面の事態の彌縫策であつてはならぬ。東亞に利害を有する歐洲列強がわが此の收拾策に對して有ゆる方面から障礙を直接間接に加へつゝ、あることも亦國際關係上稀有の例であつて、往年の三國干渉の如き形式上露骨な恫喝威迫ではないが、實質上は深刻な壓迫である。政治上、經濟上、財政上の間接ながら長期に亙る重壓は我國に加はつて居る。この意味に於ては外交上有史以來の至難な局面に立つて居るのである。我が國民が眞に堅忍持久、一心協力をせねばならぬ所以は此の至大の事變を克服し

この至重の責任を敢行し、この至難の局面を打開せんが爲めに絶大の努力を要するからである。近衛聲明なるものは、(一)蒋介石及其の政權の打倒であり支那國民を敵とするものでない、(二)日本は支那から領土獲得償金徵課を欲するものではない、(三)東亞の新秩序建設が聖戰の目的である、と中外に宣明して居る。歴代の政府は之を事變處理の不動の原則だと再確認をして居るにも拘らず、この東亞新秩序なるものが何なりやに就て之が具體的な成案、詳細な企劃が發表せられないために、我國内に於ても種々の論議や批評や悲觀が唱へられ、國外に於てはまた様々の疑惑や臆測や論難が行はれて居る。

ところが不思議にも殆ど同時に歐洲で起つた今次の大戦に就て英國の首相、外相は近頃英國の戰爭目的を繰返して聲明して居る。曰くヒトラー及ナチズムの倒潰が目的だ、獨逸國民を敵とするものでない。曰く獨逸の領土割讓を欲する物質的利益が目的でない、不正に武力で奪つたオーストリー、チェッコ、ポーランドを還附せよ、曰く此の戰爭の終結は再び戰爭の起らぬ様な歐洲の新秩序の建設にある。正に近衛聲明と符節を合するものがある。これに對して米國でも佛國でも多くの中立諸國もこれを拍手喝采して居る。何等歐洲の新秩序の具體的な成案も詳細な企劃も聞かずに鵜呑にして賛同し聲援しつゝ、あるのだ。にも拘らず我が近衛聲明、我政府の支那事變處理方針には賛同はしない否な疑惑を以て暗に之に反對して居る。斯る歐米の輿論や政治家の心理状態は全く了解に苦しむ處である。併し冷靜に東亞の事變と歐洲の動亂を其の原因に遡つて比較對照すれば、近衛聲明は東洋流の道義に基く實現性の確なものであつて、英國宣言は西洋流の利害に基く可能性の乏しいものである。と私は斷言する。この東西戰

争の基因についての差別を筆者は屢々雜誌に放送に講演に繰返し説述して居る。茲には詳説しないが簡単に約して言へば、歐洲に於ける國家の離合集散は凡て各強國の利害に基く、この利害を同うする二つの國家群の對立なり、その兩群の勢力均衡を保つ間平和で、均衡が破れ利害が衝突する時戦争となる。英國の所謂歐洲の新秩序なるものは必竟領土的にも經濟的にも戦前の原狀復歸に過ぎない。之に反して獨逸、伊太利の如き新興民族にして持たざる國は所謂「生活の餘地」Leben's Raum を求むる爲めに現狀打破を生死の問題として争ふて居るのである。これに對して歐洲に世界に廣大なる領土植民地を有し、物資殊に食糧、工業原料の豊富な持てる國英、佛、米は現狀維持否その確保擴大を以て自存の鐵壁として守らんとして居る。此は既成の自足自給の經濟ブロックを成す大帝國であり、彼は自足自給の出來ぬ爲め未成の經濟ブロックに邁進せんとするものである。兩者の闘争は結局經濟上の利害、國民生活の發展の爲めの衝突である。此を調和し共存共榮の新秩序を歐洲に樹立し得るかが問題だ。これが可能ならば一九三二年の倫敦に於ける世界經濟會議即ち各國の工業原料及資源の公平分配を目的とした此の會議は物分れとなるべき理由がない。領土の變更か、食料原料に對する勢力範圍の變更か、資源の公平な割當クォーターを思切つて設定するかでなくては共存共榮の基礎が出来ない。この調整が不可能なりし爲に歐洲の戦争は第一次大戦以來食ふか喰はるゝかの生存競争の一發現として勃發したのだ。之を政治的に云へば英獨兩民族の争覇の問題だ。經濟的に云へば深刻な民族生存の闘争だ。道義の問題ではない。

これに反して東亞の事變は調和し得ざる利害の衝突ではない。日支共に歐米の軍事的威壓と政治的干渉と經濟的

搾取に悩まされた同憂同苦の間柄だ。支那は百年以來猶今日も同じ苦境に在る、四億の大民族と歐洲に等しき版圖と未開の大富源を擁しながら此の有様だ。幸にして日本は此の軍事的威壓と政治的干渉とは漸くこれを突破しこれを脱却し東亞の一大強國として自主獨立の外交をなし得る地位にまで過ぎ着けたのだ。唯尨大なる植民地と豊富な資源を四方に獨占せる二三の西洋強國の經濟的抑制に今猶悩まされつゝある。殊に此の事變に際して深刻に苦難を嘗めさせられて居る。東亞の諸國の共存共榮の生活と各民族の安住樂土の建設とは既に滿洲國の十年の實踐が立派に其の實現性の確實なることを證明して居る。歐米依存に基く抗日侮日の政策が自殺に等しいことを蔣介石及その政權が現實に證明して居る。政治的平等、經濟的提携、共同的防衛による日支の共存共榮は既に北支臨時政府、中支維新政府の樹立によりて可能性を證明し、最近進捗せる新中央政府の建設によりて愈々實現の緒につきつゝある。日支の事變は調和し得ざる利害の闘争ではない。道義的基礎に於て今日まで當然成立すべかりし共存共榮の新秩序の建設が遅延今日に至つた迄である。歐洲に於けるが如く現狀打破と現狀維持との避くべからざる衝突でもない。協力一心によつて必然到達すべき共同目標即ち恒久平和、共存共榮の新天地への駢進である。かう考へて見れば東亞の新秩序は建設の實現性あり、歐洲の新秩序は實現が困難であり、その可能性が鮮い論斷することは敢て過言ではあるまい。我等は此の理念に基き一切の障礙を排して確信を以て邁進すべきである（追記、最近獨伊兩國は歐洲に於ける新秩序即ち東亞新秩序と同意義の共存共榮を以て今次大戦の目的となすことを明にし、茲に日獨伊三國が各此の目的の爲に軍事的、政治的、經濟的に協力すべきを約して天下に公表せるは近來の快心事である。）

## 二、東亞共榮圏の重要性

新秩序の建設に就て屢々日滿支の經濟ブロック構成論を聞く、如何にもこれは共存共榮なる大目的の一部の表現として大切だ。しかしこれを以て終局の目的であるかの如く解するものあらば大なる誤りである。既に述べたる如く歐米の列強は其の廣大なる植民地と資源を獨占し、自己民族のみは繁榮を保留する爲めに經濟ブロックを構成し近年愈々經濟的封鎖主義を執れる現代の世界經濟の傾向に對しては、大民族を擁するも領土狹小、資源乏しき新興國家が其の發展自存のために同様經濟上自給自足の域に達すべく遅れ馳せながら新しき經濟ブロック構成に必死の努力をなしつゝ、あることは必然の歸趨である。彼等にミつては生死の問題であり、この意味に於て伊太和のエチオピア、アルバニア合併の如き、獨逸のオーストリー合邦、チェッコ・スロヴァキア併合、ポーランド占領の如きも他の軍事的、政治的理由の外に此の經濟ブロック構成を急ぐ必要上、非常手段を執つたものと解釋出来るのである。日本も同様高度の工業國として特に工業原料資源の缺乏に悩む關係上、確實なる經濟ブロックを手近な東亞に構成して歐米の既成大ブロックに對抗せざるを得ない。而かも日本と滿洲國と支那とは有無相通じ得る相依の關係に在り、互助し得る自然的經濟的相關關係に在るを以て、既存の歐米大帝國ブロックの過去の如く植民地奪略闘争といふ慘劇を模倣する必要もなければ、未成の新ブロックの現在の如く隣國興亡の悲劇を敢行するまでもなく共存共榮の道義に立脚し協力互助の平和的手段に依て構成し得るのである。日滿支經濟ブロック構成は此の意味に

於て東亞新秩序建設の一つの支柱たることは明白だ。

然しながら近代工業の異常の發達のためその必要資材は種類に於て甚大な變化を起した。十七、八世紀頃は工業原料も食糧も温帯の産物を以て充足し得た。熱帯特有の産物は僅かに香料、珈琲、茶の如き高價な趣好品として歐洲に珍重せられたに止まり、主として拜金冒險家の金銀鑽石の探求のために重視せられたのであつた。十九世紀以後、主たる工業原料としては棉、甘蔗に着眼せらるゝ様になつたが、英佛米獨の如き大工業國は鐵、石炭、銅、鉛、ニッケルの如き礦産品温帯産の羊毛、麻の如きが主要原料で熱帯資源は未だ重要視せられず、熱帯地方は寧ろ工業製品の市場として財源搾取の屬領として母國に重きをなしたのであつた。然るに第一次歐洲大戰前後から殊に自動車、飛行機等内燃機關の異常な發達に伴ふ一種の工業革命によつて工業原料に大異變を來し、同時に熱帯産物に對する需要の大變化を齎した。棉花の外に亞麻、黃麻、大麻の如き纖維作物、栽培護謨の急激な需要、機械油として蓖麻その他の植物油、人造纖維の爲めのバルブ材料、さてはアルミニウム、マグネシアの如き輕金屬等新工業原料特に石油の如き近代工業の花形原料の需要を激増した。斯くて俄かに熱帯に求むる原料資源に對しても多種多様な需要が起つた。そこで同じ熱帯と雖も氣候及地形地質に於て變化に富む島國又は半島が大陸より遙に重要となつたのである。(本書第二編第一章参照)かくの如く氣候、地勢、地質の變化多き島國熱帯は、農産栽培物に於ても礦産に於ても大陸熱帯よりは遙かに多種多様且多量な譯である。従て最新の工業原料資源地としての島國熱帯の重要性が近年著しく増進した。今後大工業國の盛衰は島國熱帯の資源と産物の獲得の難易に係るといふも過言にあらざるべし

と思はれる。

果して然らば東亞の新興工業國日本としては必然熱帶産物殊に島國熱帯の物資の取得と資源の開発を絶対必要條件とする。然るに日滿支經濟ブロック構成完了するとも石炭、鐵、タンクステン、羊毛及食糧に於ては自足自給し得べきも、第一に石油は全然缺如に近く第二に棉花、黄麻はその品質に於て、その産額に於て大いに缺くる所あり第三ゴム、第四アルミニウム、ニッケル等の輕金屬の原産なく、第五に砂糖の不足等々、これを英米佛蘇聯の如き大帝國が僅かに一二品の原料不足とは比較すべくもない。この日本の將來の産業の大發展にも日滿支經濟ブロックの完整にも熱帶島國との經濟的密接關係が不可欠の條件である。然るに不思議にも此の近代工業に必要不可欠なる熱帶島國中、世界の最大最富なる南洋諸島諸半島は西南太平洋上に羅列し日本と支那との手近の南方海上に集中し、天然の寶庫として貯存し、しかも悉く歐米の二三國の植民地として或は勢力範圍として隸屬して居るのだ。この南洋の重要性に就て我國民も識者も支那事變に没頭して之を閉却するの感なき能はざるは、私の最も遺憾とする所である。

(追記、幸にして昭和十五年秋頃より南進問題は俄かに國民の注意を喚起し、日獨伊三國同盟締結、大東亞共榮圈の確認となつて、南洋の重大性が漸く痛切に諒得せらる、様になつた、こゝは筆者の欣懐である。)

### 三、南洋諸植民地の對日恐怖

我國識者の南洋熱の冷却と反比例に、滿洲事變以來更に支那事變の結果、南支海南島の軍事占領に至つて、俄然此等南洋植民地の本國官民は日本の南洋侵略の警鐘を亂打し出した。第一に英領植民地シンガポール馬來半島に於ける在留邦人の出入居住に對して、或は警察上の理由軍機保護の名目に於て多大且煩雜なる制限を加へ出した。これが爲めに邦人の既得の營業貿易にも影響し、新企業の如きは容易にこれを許さざるの形勢を馴致した様だ。第二に佛領印度支那に於ても新南群島、海南島占領後、對日空氣の惡化となり、さなきだに外國人殊に日本人の入國及日本品の輸入に嚴酷な制限を加へ居りし佛國の政策は、支那事變と共に一層の嚴密を加へた。この兩國のシンガポール軍港の大擴張ミカムラン灣要港の新設備の如き軍事的施設はこれを對日本の作戦以外に其の促進の理由を見出すことが出来ない。英佛の最近の警戒は歐洲戰爭による東亞への影響に痛心した結果で恕すべき點もある。甚しきに至つては第三に比律賓獨立法即ちタイディングス・マクダフト法に因る一九四六年の獨立すらも、米國は之を再検討して獨立の無期延期説が先づ本國で擡頭し、比島内にも現在の最高機務官セイヤー氏の暗示や議員の有力者の演説にも獨立取消の議が起り、獨立の急先鋒現大統領ケンズンすら、終に再検討に同意の意見を發表した位である。この獨立再検討取消論の如きは明に日本の侵略の危惧に基くことは論を俟たない。若し夫れ和蘭の東印度諸島に於ける警戒及軍備擴張に至つては日本に對する恐怖警戒以外に最近の政策と施設につきて何等その理由を發見するに苦しむものである。中立國たる和蘭が英獨兩交戰國の間に介在し、中立侵害の危機屢々喧傳せらるゝ本國の危局に際して本國軍備の充實は當然だが、獨逸からの攻撃や干渉から遠く隔絶せられた安全海上の蘭領東印度に於て、俄

かに要塞その他軍備殊に海軍の擴大に急なる外、ボルネオ、スマトラの油田に夙に危急の際に備へが爆發の設備をなせることは殆んど公然の秘密であり、更に一九三九年八月、九月に互り英、佛の海軍司令官の會議はシンガポールに開かれ、米國東洋艦隊長官さては蘭印の代表者の参加さへ傳へられ、全く英、米、佛、蘭四國東洋艦隊聯合作戰の協議のデモンストレーションの感を抱かしめた。而して比律賓殊に蘭印に於て米蘭兩官憲は特に邦人在留者及入國者に對して殆んど米國移民法に近き制限を加へ、その營業の發展は固より居住の自由にまでも嚴酷な抑制をして居る。これが爲に其の反動として我國一部の識者の間に稍々憤慨的な南洋進出論が沸々出現して更に其の反響として對日警戒恐怖の空氣が此等南洋諸島國全面に日に濃厚なるの形勢となつた。既に述べたる如く、現在は勿論、支那事變拾收後は特に密接な平和的經濟關係を結ばざるべからざる、また日滿支プロツクの完整にも重要不可欠なる此の南洋島國に於て、斯くの如く日本との關係惡化する風潮に對しては、我等は其の原因を尋ねてこれを芟除し、彼等の反省を促し、同時に我が態度を顧みてこれを改善せざるべからざる。是れ實に時局解決、東亞新秩序の國策上から極めて緊急且重要な問題であると思ふ。

#### 四、南洋對日恐怖の原因

先づ東南アジアに於ける英、佛、蘭、米の植民地統治の實情及歐米列強の此等植民地爭奪の歴史を冷靜に攻究して見ると、此等植民地母國の憂慮、就中植民地官民の不安には相當の理由があり、寧ろ同情すべき原因なきに非ず

である。

第一に大抵の植民地殊に南洋島國に於ては其の領土の廣大と土民の多數なるに比して、これを統治する本國人は極めて少數である。これをこゝに概算的數字を以て説明に代へよう。

植民地名	面積 方軒	人口 千人	母國人數 千人
蘭領東印度	一、九〇五、〇〇〇	六五、〇〇〇	五〇
英領印度及植民地	五、一〇〇、〇〇〇	三八〇、〇〇〇	二〇〇
佛領印度支那	七二七、〇〇〇	二三、〇〇〇	二〇
比律賓	二九六、〇〇〇	一三、〇〇〇	一〇

例へば僅かに五萬人の和蘭人を以て本國の六十倍の領土、本國人口の八倍餘の土民を統治して居る。英國人僅に二十萬人（軍隊を含めて）足らずで五百萬方軒四億土民を統治し、佛國人は二萬人許りで本國より廣大な領域に二千三百萬人の土民を支配して居るのだ。此の如き小人數を以て老大な植民地を永きは三百年、短きは百年も統御し治蹟を擧げて居ることは確に賞讃に値する。併し夫れだけデリケートな地位に在り、一旦國際政局の危機を告ぐる毎に不安動搖を免れない。或る意味に於て國防上政治上本國の弱點である譯だ。

第二に此等植民地の今日の歸屬の原因は十七世紀、十八世紀、十九世紀の三世紀に互り葡萄牙、西班牙、和蘭、佛蘭西、英吉利、米國の爭奪戦に基くものであり、歐洲に於ける此等諸國間の戰爭の結果であつた。從て此等の植民地は幾度か其の領主を轉々して漸く今日の植民地領土權が確定したに過ぎない。故に此の過去の爭奪戦の歴史を

顧みて、歐洲に又東洋に動亂あるごとに第三國の想像にも及ばざるほど植民地の安否について神經過敏であり、或る場合には外國の侵略恐怖からヒステリックにまでもなるのである。

第三に此等植民地の土民は一般に文化低く、その生活程度も低い。植民地政策は最近は餘程よくなつたが、昔時は殆ど本國のための搾取主義であつて幾度か叛亂が起り、漸く之を鎮定して今日の安定を得て居るのだ。然し近來の如く國際宣傳戰の激烈な時代には無智の土民の人心動搖は想像以上である。従て國際の變局毎に此等植民地母國の官民が、その土民に及ぼす影響の甚大なるを恐れて常に警戒猜疑の眼を以て、特に日本の如き近隣の新興發展の強國の言動に注意し神經過敏とならざるを得ざる立場に在るのである。わが國民はこれだけの植民地心理をよく飲み込んで始めて南方發展論をなすだけの慎重を要する所以をよく諒解する必要がある。

この植民地心理が恐らく讀者の想像以外なるはミデリケート、時には馬鹿々々しい二三の例を筆者の體驗から國民の爲めに附記して置かう。既に前章に於て例示したが、今は他の例を添加して置く。一九三五年日蘭會商の時である。交渉の最中、我新聞通信員が談判行詰りの際、通信電報中に我國の輸出組合の成立を非難攻撃する蘭字新聞に對し、日本全權團には「和戰兩様の準備あり」といふ一句があつたので蘭國側は大いに激昂した。おかしなことと思ひ調査すると和戰の二字を Peace or War と直譯して上局に報告したので日本全權團の態度は恫喝的だと憤慨したので起因したことが分つた。和戰兩様とは商事にも世俗にも、和解が成立するか破談となるか、どちらでもといふ慣用語に過ぎないことを説明して始めて納得したほど神經過敏であつた。また同じ頃に無責任な日本の浪人が

一杯機嫌で氣焔を擧げたことを英國の官憲が重大視し、これを軍事スパイ扱ひをして追放し、この浪人の世話をしたシンガポールの一大會社の支店長は屢々警察に引き出され家宅搜索まで受け、小心な此支店長は憤死したことがある。この二つの小さな出來事だけでも如何に英、蘭の植民地の官憲が神經過敏であり、また邦人の行動が不用意のため不謹慎なために、粒々辛苦の上漸く根據を据えて商工業に従事する一般邦人が如何に迷惑し、如何に思はざる悪影響を蒙るかを物語るものである。私は特に眞面目な海外發展の熱意ある我國民に對し、他國の領土内に働く以上、その言動に特別細心の注意を加へんことを切望するものである。

(追記、三國同盟成立後の英領諸地方に於て軍事上の理由に基き、邦人の居住旅行及營業に對し極端な制限及壓迫を加へつゝあるは如上の恐怖の外に嫌やがらせの政治的理由が大いにある。唯比律賓や蘭印に於ても同様な制限や抑壓を加ふるの傾向あるは諒解に苦しむ處だ。)

#### 四、日本と南洋の共榮必然性

顧て日本の地理的地位を見ると、西太平洋より南支那海に跨る二千哩に亙る列島であり、恰度臺灣島を南端として上記の南洋熱帯諸國、滿洲國、中華民國との間に點々として飛石の如く橋梁の如く連續して居る。殊に臺灣島から見れば最南方に位する馬來半島、タイ國、スマトラ、爪哇、フロレス島、チモール島が一行に東西に連續して居り印度洋と南支那海を区分して居る。その次にボルネオ、セレベス、モルツカ諸島、ニューギニアの一連の大島群が

東西に駢列して居る。更に其の北に印度支那半島と呼應して海南島、比律賓群島が同様狭い幅なれども東西に連つて居る。従て此等三列の南洋熱帯島國群は大扇面のやうに北から南に擴がり展開し、その北端の小島臺灣は恰度この大扇面の要に該當して居る。福州から厦門、汕頭、廣東、香港、欽州灣の如き南支一帯の海岸は、この大扇面の一親骨の感があり、日本の列島は此の大扇面を繋ぐ大紐に似たりである。臺灣の高雄港を基點として、近代の汽船の速力を以て計算すれば、最南方の第一列へは六日航程、第二列へは五日、第三列へは二日航程に過ぎない。神戸港から最も速くて十日航程に過ぎないのだ。これを各その本國母國への航程少くとも二十日又は三十日以上、その距離六千哩以上なるに比すれば一羣帯水の南支、日本殊に臺灣島は隣接緊密な自然の地理的關係に於て正に雲泥の差がある譯だ。即ち日本及南支と南洋島國の關係は地理的自然連結であり、歐米諸國と其の南洋植民地との關係は政治的人爲的連結である。約言すれば南洋といふ大資源地と東亞即ち日滿支といふ大市場との間に介在する日本は、政治的人爲的抑制障礙だになくは當然交通往來自由頻繁な共存共榮の隣接緊密な關係の仲介者となるべきは天然必然の理法と云ふべきである。殊に此等の南洋富源の寶庫が尙ほ未開發の處多く、その土民の文化程度低き結果、優秀な隣國民族の多數移住は必然の趨勢である。南支の所謂華僑即ち漢民族が數百年來渡航し外來民族として南洋各地に十萬百萬を以て算する程の大多數永住し、土民に次ぐ多數住民たることは歐米の母國が如何ともし難き客觀的事實である。彼等が土民の不得意とする小賣商、仲買商として陰然經濟界の一大勢力を構成して居るのである。従て同様隣接緊密の關係にある上に、資源開發に必要な資本と技能を有し、近代工業製品の販路開拓に多

年の體驗を有する日本人が次第に此等南洋諸島に來往し、各種の産業に従事し、東亞と南洋との經濟的相依共存關係を増進せんとするは亦歐米本國人の終に如何ともし難き自然の趨勢である。

加之、從來の歐米本國の植民地産業政策は本國の利益の爲め特殊の農業一元制の開發に止めた。また英佛の如き世界に互りて大植民地を有する國は、その植民地間に一種の國際分業方針を立て甲乙植民地間の競争を避けるため自然特殊農業一點張りとなり、土民の經濟文化の發展のために多元制の産業を發展せしめなかつた。例へば印度、埃及は棉花、阿片、馬來半島は護謨、錫、比律賓と爪哇は砂糖、ビルマ、印度支那、タイ國の如きは米作一點張りとなつたのは此の實例である。斯る政策のために折角多種多様の資源に富み、多元制産業に適する熱帯島國を感々特殊農業偏作地となすの結果となつて今日に至つて居る。この結果米國、和蘭の如きは比律賓、爪哇砂糖過剩に苦しみ、土民は三毛作も可能な熱帯沃原に住みながら食料就中米を外國より輸入せざるを得ざるが如き奇妙な現象を起し、將又特殊農産物の特色たる世界市價の變動のため無知無關心な土民は却て生活の不安定に脅威を感じざるを得なくなつたのだ。近頃歐米の本國も覺醒し、殊に和蘭は植民の先進國たるだけに早く此の點に留意し、砂糖の外に煙草、植物油、護謨、木材、規那、香料植物、茶等の多元農作を獎勵し、鑛産に於てもボルネオのみならず、スマトラ、ニューギニア等に於ても石油の開發につとめ、錫、ニッケル、銅、アルミニウム、原鑛ボーキサイトの開掘等、世界一般市場を相手に多種産業及資源開發に努力し始めたは注目し得る。が、然し近代に至りて日本人の手によつて植民本國の顧みもせぬ新作物や鑛物資源を開發せしもの少しとせぬ。殊に前述の如き地理的關係

上、海上運輸の便宜且低廉なる利益に基き、植民地の本國に市場を求め難き物資を邦人の手によりて東亞に販路を開拓して南洋島國の福利増進に貢献せるところ、意外に大なるものがある。比律賓のダバオ地方に於ける黃麻の栽培の如きは、邦人の手による新作物の開拓の著例である。馬來半島、印度支那の鐵礦の如きは本國人の顧みざる礦物資源を邦人の手によつて開發せる適例である。ニューギニア及タイ國に於ける邦人の手による棉花栽培の如き、英領諸植民地、蘭印に所ける護謨、椰子の邦人農園の如きは多元制農作のための邦人努力の一例である。蘭領ビンタム島のボーキサイト、佛印のホンケイ無煙炭、比律賓、蘭印、タイ國方面の滿鐵、ビルマ、タイ國、セレベス方面の飼料の邦商買入の如きは、海運の便利に運賃の低廉を利用せる邦人の南洋物資新販路開拓の著例である。これ實に東亞と南洋との共存共榮に貢献する平和的、經濟的、相互依存の顯著なる證據ではないか。歐米人の日本に對する妬疑警戒に基く各種の政治的拘束抑制に拘らず、天然の理法は自然に邦人の平和的、經濟的南方進展を助けつゝ、ある立派な證據ではないか。故に若し此等植民地母國即ち歐米諸國が虚心坦懷此の天然の理法を確認し、母國と共に植民地の繁榮のため、土民の生活上のために、多元多様の産業方針を執り、東亞新市場の擴大に思を寄せ、徒らに目前の事態の恐怖に基く政治的、人爲的な不自然な抑制障礙を棄て、大いに東亞と南洋の共存共榮更に一步を進めて白人、東亞民族、植民地土民の三者の共榮による東南アジアの永遠の平和に着目するの度量あらば、邦人は華僑の來住と共に新資源新産業、南洋に於ける開發に協力し世界の繁榮平和に貢献するところ實に大なるものあるべしと確信する。歐洲百年の不斷の戰爭動亂の如きは、此の東南アジアには絕對に起り得ざるべきは日月の如く明

白なこころである。何故に平和人道を口にする白人にして茲に思ひ及ばざるか筆者の常に痛歎する所である。

要するに南洋諸島國に於ける近來の邦人の發展に對する直接間接の抑制障礙は、純然たる政治上の危懼の念に基くものであつて、新興日本民族は過去五十餘年の間に其の國防兵力に於て、その政治經濟の實力に於て一躍世界の六大強國の一となり、東亞に於ては第一の強國たる新進氣鋭の日本國家を背景とする點に於て前述の如き植民地心理から侵略的意圖を抱くものなりこの疑惑の眼を向けられるのである。殊に最近七年間に亘る滿洲事變、支那事變、終に南支海南島の占領によりて此の疑惑は恐怖に一變したのである。茲に於て自然の理法に基く邦人の來住發展を無理に堰止めんと苦慮する結果、今日の政策方針に出づるやうになつたのである。

さりながら本章冒頭に説述した通り滿洲及支那と日本の關係は國防上、政治上、經濟上頗る緊密な利害關係であり歴史上、文化上不可離の深遠な道義關係であつて、これは單なる經濟上に於ける密接利害關係に止まる南洋島國とは同日の論ではない。その上に南洋島國植民地の母國の如き軍事的、政治的、經濟的に世界の強國たる威を以て東亞の諸民族に臨んで來たものゝ日本の東亞民族に對する態度とは比較にならぬ。大國支那に對してすら日本は未だ嘗て領土的侵略を企てたことはない。臺灣は其の領土權不確實な孤島であり、關東州も青島もこれを支那から既に略奪せる第三國から日本が回收したに過ぎない。今の支那事變の如き莫大な資財を費し大兵を動かすこと數年、かかる大戰爭、大犠牲を忍びながら無賠償無割讓の和平意圖を夙に聲明し、唯共存共榮を目標とする東亞永遠の平和の新秩序を切望する外他意なきを表明して居るではないか。或は戰爭の度毎に植民地の分割略奪を常とした歐米



の諸國から見れば餘りに無慾に過ぎ利害打算を超越して不可解怪奇な日本民族の心理状態とし、或は別に肚裏に他の異圖野心あるものにして一層疑惑を増して居るかも知れぬ。私は彼等の心理状態に訴へ得る利害觀念から唯一言して置かう。我々日本民族は未だ嘗て外國に征服せられた経験はないが、外國の侵略に對しては最後の一人となるまでも之を撃退する歴史と誇りを持つて居る。そして領土侵略のための戦争の最終の結果が、眞に永久の安定を齎すものでないことを過去百年の歐洲の變亂に依て深刻に認識してゐるのである。民族間の侵略戦争が假令一時優劣劣敗に終るとも、結局永遠の民族的怨恨を築き、永く禍根を胎すものであることを第一次歐洲大戰並東洋に於ける白人の植民地征服の現實から痛切に學び知つた。今更白人の失敗苦悶の歴史に追隨して一民族が他民族を征服する愚を再びすべきでないを深く認識して居るものである。各民族の共存共榮、相互扶助、獨立平和が自己民族發展の賢明なる方策であると信じて居るものである。私は南洋諸島國との關係は飽くまで平和的經濟共榮に在り、統治者たる歐洲人、植民地土民、先住後住の各民族の相互信頼、融和安住の樂土たらしむることに邦人も亦参加し、特に歐洲人の堪へ得ざる氣候風土に對する抵抗力を有し、土民の遂げ得ざる新産業新資源の開發に特殊の技能を有する大和民族の協力参加が南洋諸島に於りて必要であり緊急であることを事實に於て證明せんことを我國民に切望するものである。議會に於ける一九三九年二月九日の有田外相の説明に俟たずとも、南方發展の熱意に燃ゆる我青年諸君が其の言動に於て我意圖の公明正大なることを證明し植民地官民の上述の惡夢を醒まさむことを祈るものである。徒らに大言壯語し、奇矯の行動に出づるは單に無用の摩擦、無益の刺戟を與ふるに過ぎず、よく前述の植民地官民

の心理状態を同情を以て諒解し、共存共榮の雄大な氣魄を以て堅忍力行し、百難を排して自然の理法の示す進路に進ませむことを切望するものである。(昭和十五年一月稿)

## 第五章 南進基地としての臺灣

### 一、臺灣の地理的特殊地位

我が大和民族の南方發展を題すれば、南洋に大植民地を擁する英佛蘭米の諸國は直ちに日本の帝國主義、領土侵略を表現するものと曲解し、殊に之等南洋植民地の官民のヒステリックな警戒の實情は曩に支那事變の發展に伴ひ殊に甚しいものがある。作戦の必要上我海軍が南支沿岸の諸島を占據し、海南島を初めし廣く南支那海の諸島嶼を占領するや、一時的軍事占領たることの帝國政府の明白なる聲明にも拘らず、戦々競々何時我が海軍によつて之等の南洋諸植民地が侵略せらるゝやも計り難しと宣傳し、我が國民の南方發展論を恰かも南洋侵略説の如く誤解するものが甚だ多い。殊に最近歐洲動亂の爲に英佛は素より蘭國も亦其兵力海軍力を東洋、南洋より本國歐洲に集中せざるを得ざるに至つて、此の誤解は寧ろ恐怖に近き不安の念に轉化しつゝ、あるを見るは、我等日本人より見れば

全く怪奇不可解と云はざるを得ないのである。

然し冷静に植民地統治の實情及び歐洲列國の植民地争奪の歴史を考察すれば、本國の憂慮、植民地官民の不安の念には寧ろ同情すべき點なきに非ずである。これは既に其の三つの理由と共に前章に詳論したからこゝに再説しな

50  
然し前章に述べたるが如き南方諸植民地と日本の經濟的共存共榮の見地からすると、實に我南方發展の基地としての臺灣の存在は天然の特殊地位にあるのだ。第一に先づ亞細亞地圖を擴げて見れば、近代工業原料産地として世界經濟上重要地位を占むる熱帶島國又は半島は臺灣の南方に整然として群をなして居る。そして其の北方に少しく離れて我が臺灣島は嚴存してゐる。これを臺灣から見れば第三列比律賓から南に次第に擴がりつゝ第二列第一列の大島群が整列してゐる。恰度北から南に赤道を超えて扇を開いたやうに展開し、我が臺灣島は其の大なる扇の要に當つて居る。南洋通ブライズ氏は比律賓を以て南洋の大寶庫を開く鍵だと評したことがあるが、此の意味に於ては寧ろ臺灣島こそ南洋島國群の鍵であるのだ。今臺灣高雄港を基點として之等島國の要港との距離を見ても第三列にある香港へは三四〇哩、マニラへは五五〇哩、第二列に當るタイ國盤谷へは一、七〇〇哩、第三列のシンガポールへは一、六二〇哩、スラバヤへ二、二〇〇哩といふ順位になつてゐる。これを現代の汽船の航程にして見れば、第三列へは二日航程、第二列へは五日航程、最も速い第一列へもただか六日の航程である。これを之等植民地の本國歐洲の母國に至る距離六千哩以上にして少くとも二十日の航程を要するものとは隣接緊密の自然の地理關係に於て雲

泥の差がある。換言すれば南洋といふ世界の大資源地と東亞即ち日滿支といふ大市場との間に立ちて、海運上最も便宜な仲繼聯絡地點に臺灣が存在するといふことは、臺灣島の東洋の經濟地理上重要な地點、即ち南方發展上動かすべからざる基地たることを啓示してゐるのである。

## 二、最新の拓殖試驗場

第二に植民地的に見て臺灣は熱帶資源開發に就ての最新の試驗場である。大體熱帶島國の開發は近代の事であつて、印度、ビルマ、埃及、南米の如き大陸熱帶の開拓が先きであつた。熱帶特有の産物が温帶の商工業國の間に重要價值を持つてゐたことは否定出來ないが、大體香料、珈琲、茶の如き熱帶特有の嗜好品、金銀寶玉の如き貴金屬品の特産地として、重商主義の歐洲諸國の貿易利益の寶庫として珍重せられただけであつた。然るに近代工業の發達に伴ふ産業革命以來近代工業に不可欠の原料の特産地として俄然熱帶植民地の經濟價值に大變動を起したことは第一章及第四章に詳述した通りである。然るに今日迄の熱帶島國の開發の歴史と現状を大觀するに、本國母國の利益の點のみから打算して各島各地に一定の特殊産業を奨励した。其の結果として熱帶島國は各單一産業地となり農産一元制の開發となつた。馬來半島は護謨、蘭印、比律賓は砂糖、印度、埃及は棉花一點張りといふ特殊農業偏在地となつた。爲に三毛作も可能なる熱帶豊饒の地にあり乍ら住民は食料就中米を外國より輸入しなくてはならぬ様な奇妙な現象を起し、又上述の如く偏在する特殊農産物の世界市價の變動の爲に、無知無關心な土地は却て世界景

氣の變動の爲に生活の不安定の脅威を感じざるを得なくなつて來たのである。近頃漸く植民地本國も覺醒して各種の工業原料の栽培及開發に着手し、土民の生活の安定の爲に多元制の農産獎勵及び各種産業の發達に着眼するやうになつた。

これに對照して熱帶島國開發を最も遅れて着手した我が日本は、臺灣の開拓に於て先覺者達の先見の明ありてか幸にして最初から多種の熱帶産物の開發を企圖し、始めから多元制の農産獎勵をやつた。最近十年此點に對する臺灣官民の努力には敬意を表せざるを得ない。甘蔗、甘藷、紅茶、包種茶、亞麻、蓖麻、棉花等各種の熱帶農産の試作、バナナ其の他果樹規那藥木の栽培改善、更にこれ等の原料を利用する工業としての製紙、パルプ、纖維、無水アルコール等の製造工業、更に電力利用の輕金屬工業、製油事業の如き、實に枚舉に遑ない程の多種多元の産業獎勵に没頭して相當の成績を擧げて居る。斯くの如き熱帶産業の多元制工業化に貴重なる實驗を積み顯著なる成績を擧げた島國は何處にもないのだ。三百年の永い歴史を有する爪哇や比律賓に極く最近工業發達の計畫が始められたのみだ。

臺灣に於ける熱帶産業多元制の經驗こそは、正に我が大和民族の南方發展の貴重なる試驗場としての臺灣の價値を築き上げたのである。南方發展の基地として、殊に南方諸島國との共存共榮の確實なる手段方法の研究所として、臺灣の此の價値を忘却することは出来ないのだ。

### 三、共存共榮の修鍊道場

第三に熱帶産業開發の修鍊道場として、土民との共存共榮生活の修鍊道場としての臺灣の價値を没却してはならない。此の道場として價値を發揮する迄に臺灣開發者たる我が大和民族が血と涙の努力犠牲を拂つたことも亦著大なるものあることを忘れてはならない。

試みに南洋諸島國と我が臺灣との天恵を比較して見よ。地形に於て地質に於て風土に於て我が臺灣の貧弱さを痛感せざるを得ない。廣袤面積殊に沃野の廣さに於て蘭領東印、比律賓、英領馬來、佛領印度支那とは比較にならない。其の上に我が臺灣は颱風圈内にある爲に年々風水害に苦められてゐる。これに反して南洋諸島國は比律賓の北部を除いては氣候四時規則正しく無風に近き天恵の島國である。我が臺灣が高山國の一名ある如く折角の熱帶島でありながら峻山大嶽過半を占め沃原乏しく溪流はあれども洪旱常ならず、これを南洋諸島の山はあれども沃野は廣く、河あれば航運灌溉に便なる巨川なるに比して大なるハンデキャップがある。その上に我が臺灣は良港に乏しい。儻かに基隆高雄の二港が多額の費を投じて人爲の築港として僅に其の缺點を補ふに止まる。然るに爪哇比律賓の如き四方に天然の良港あり、到る處少しく改築せば良港となし得べき港灣が多い。斯くの如く南洋諸國は地積地勢氣候に於て天恵に富むを以つて其の開發は單に天恵を利用し自然に順應するだけで結構だ。これに反して我臺灣は自然の狀勢大恵甚だ薄きが故に天災と戦ひ自然を征服するに非ざれば開拓は出来ないのである。これが臺灣の短

所であるが實は其の長所である。天恵を頼むを得ず人力に俟たざるを得ざるが故に臺灣は開拓の初めより不斷の努力による自然の征服が必要であり、これが爲に幾多の失敗と犠牲とを物ともせず堅忍持久の開発策、各種多様な行計畫を試練せざるを得なかつた。茲に臺灣開發が常に青年期の潑刺たる氣分を持続したのだ。これが爲に、あらゆる困難障礙を突破する積極進取の元氣を横溢させたのだ。誠に貴重な熱帯開發の修練道場として存続したのである。當初から多元制農業の發達と近年の臺灣工業化の進展は實に此の修練の賜である。これに反して三百年の治績と植民政策の優秀なる先進國として誇れる蘭國の南洋大島帝國は爪哇を除いてボルネオ、セレベス、ニューギニアの如き未だ天與の資源は石油以外何等開發せられない。あの最も潑刺たる新植民地帝國米國すら三百年の歴史ある比律賓の開發にも成功しなかつたではないか。印度支那の佛國、印度、ビルマの英國の如き果して植民地の開發繁榮に貢献したといひ得るか。

翻て歐米各國の植民政策及び治績を見るに専ら土民搾取による、本國集富が政策の核心をなし、原住民の文化開發生活安定の如きは殆んさ顧みられなかつた。植民地の治安の如き徹底せず、土民と母國民との融和同化は行はず、永く領主と農奴の如き階級的分離の状態にして同床異夢の關係にあるのだ。三百年後の今日島内には原住民は蠻族として尙山地に蟠踞し、住民の中心たる土民、海外移住者の先驅たる華僑とは寧ろ利害相反する對立者となり、統治の白人とは別個異種の生活を持続しつゝある。此の如きは植民地開發の根本原則たる共存共榮の天則一致するか、今後の植民地的の近代的發展を期待出来るか。歐米人に反省を促さざるを得ない。

これに反して我が臺灣領有四十年の歴史は幾多の犠牲殉職者の血と屍の上を超えて討蕃、撫蕃、治蕃十年の苦闘苦心の結果本島原住民は今や當年の蕃風を去つて我大和民族の化育の下に次第に山を下つて近代の文化生活に馴されつゝあるのだ。移民の先驅たる漢人即ち本島人は我大和民族の血と汗の討蕃、撫蕃、同化の三十年の治績によつて内地人と同化し臺灣産業の協力者として大なる原動力となつてゐる。原住民、移住者、領治者たる三民族は今や完全なる共存共榮の協力者として、融和混住して共榮の境遇にあるのだ。此の治臺四十年の經驗は到底他の南洋諸國に見られざる貴重な修練であり重要な植民政治の模範である。土民との共存共榮生活の修練道場としての臺灣の價値を、特に高調する所以は茲にあるのである。(昭和十五年一月稿)

第三編 支那と宣傳

## 第一章 歐米の支那認識不足

### 一、春秋戰國時代と現代歐洲

支那事變勃發以來國際政局の動きに就て、一般世人は非常に關心を持つて眞剣に列國の關係を研究しようとする傾向となつた。併し過去五十年來歐米列國の離合集散は目まぐるしい變化を續けて居るので一體歐洲の列國の關係は現在どうなつて居るか將來はさうなるか、一向見透しがつかないといふ歎聲を屢々聞くのである。その上に手近の隣邦支那の政情はどうなつてゐるのか、革命以來中央政府と地方政權の離合集散も亦紛糾を極めてゐる。一九三一年滿洲事變後の政情を見ても、北支五省の張學良政權と蔣介石の南京政府との關係、李濟、李宗仁の廣東廣西の南支政權と南京政府との對抗、偕ては西北に蟠踞してゐる共産軍と蔣介石の關係もその分裂合同は朝に夕を計られぬ程變轉してゐる。此の支那内部の各政權の離合集散は今後どうなるか、日本の支那通の間にすら意見は一致しないのだ。

歐洲列國間の離合集散も亦支那政權間の集散關係と同様に紛糾してその眞相を把むことは却々困難である。けれ

さても、支那事變の今は歐洲列國の動きが直に極東の形勢に影響し、支那内部の政權の動きは直接日支關係に重大な結果を齎すのであるから、歐洲列強の動き即ち國際政局も、支那内部の動き即ち支那政情も、共に我國民が是非とも正確な認識を持たねばならぬ刻下の緊急事だといはざるを得ない。

近頃の國際政局を攻究する時、私は時々支那の春秋戰國時代即ち俗にいふ列國史を聯想する。歐洲五大強國の離合集散は春秋七列國の合縱連衡によく似てゐると思ふ。又現代支那殊に革命以來の政情を考へる度毎に矢張り支那は春秋戰國時代も民國革命時代も同様で依然たる群雄割據、近代語で申さば對峙鬭争の狀態を繰返して居ると思ふ。更に歐羅巴全體と支那全體とを同一標準に置いて比較して見ると國際政局と支那政情の認識を得るに非常に明瞭簡單である様に思ふ。此の三つの比較研究の方法は我國の中年の識者には大いに益する所があると考へる。春秋左傳や史記即ち支那古代の列國史を漢學として不識不知して居り、自然支那の古史が一つの常識となつてゐる中年以上の人々には興味もあり又現時の國際政局を案外早く諒得する手解ではないかと思ふ。これに反して近代思想やイデオロギーを常識にしてゐる青年諸君は此の研究方法を古い夢物語だと一笑に附するかも知れぬ。寧ろ現代の歐洲列強現代の支那政情の解説は近代のイデオロギーで解釋すべきだと反駁するかも知れぬ。併し支那の實體を究めるには支那人の民族性や傳統思想を充分に諒解して置かねと、歐米人の極東問題の觀察と同一の弊害に陥り認識不足を來す危険がある。歐洲列國の離合關係もその真相に深く立入つて見れば決してイデオロギーで動いてゐるものではない。却て春秋列國史に率直に顯れてゐる通り各列強の利害關係が重大なる動機となつてゐるのである。

此の故に青年諸君に對しても亦支那の古代史と現代史との比較、春秋列國史と現代歐洲外交史との比較に依つて現在の支那事變と世界政局とにつき日本人としての正しい認識を得るよう切に勸告する次第である。

## 二、支那の現代と春秋戰國時代

一體支那は政治學や法律學で考へる様な統一せる近代國家の一つであるか否か。歐米諸國即ち近代國家では政變があつても唯中央政府の組織の變更であつて國家そのものは何等の變更を來たさない。然るに支那では政變は國家其のものゝ變更であり、大抵數個の獨立政府の分裂又は合同であつた。

最近二十年の支那の政情を見ても、東三省滿洲に獨立政府を持つた張作霖と河北省の保定に勢力を張つた吳佩孚との對立、漢口から北支に出た馮玉祥と吳佩孚との對戰、南の方では上海に獨立政權を建てた盧永祥と南京根據地の孫傳芳の對抗、さては廣東を根據とする蔣介石の北伐軍と孫傳芳の四省聯合軍との對戰、終に蔣介石の南京政府と北支における閻錫山を盟主にする北支聯盟と張學良の東北軍の三巴の對戰の如きは、決して支那の中央政府内の内閣更迭即ち政變ではない。眞の中央政府は始めから存在せず、唯南中北の各地に獨立せる數多の政府の對峙鬭争であつたのだ。

形式上にもせよ支那全體が統一國家として存在した時代は、漢の初期、唐の始めの二三代、明の初期、清の始めの四代位のもので支那四千年の史上前後通じて四百年にも達せなかつたと思ふ。秦始皇帝の統一、蔣介石國民政府

の南北合流の如きは實に十年にも足らぬ短い存在であつた。又所謂支那統一の時代と雖も支那本部の十三省或は黄河揚子江流域の八省位のもので、支那本部外の滿洲、蒙古、新疆、青海、西藏等は所謂外藩で實は獨立政府を有する別個の國家をなしてゐた。支那統一政府の隆盛時代には名義上中央に朝貢して屬領の形をなしてゐたが、彼等外藩の側から見れば、自分は獨立國家であつて、當時の強國たる中原國家に、修交和親の使節を派遣したに過ぎないと考へてゐたとも見られる。

支那事變前の南京政府や國民黨は、蒋介石政権によつて支那は完全に統一せられ、中華民國なる一國家を形成してゐると稱してゐるが、其實相を見るに最近まで河北察哈爾に於る宋哲元政権は南京政府の命に悉く服してゐなかつた。恰度春秋時代の燕趙が秦に屈しなかつたと同地位にあつた。山東の韓復榘は正に古の齊魯に當る。山西の閻錫山は晋の故國に該當する。陝西甘肅に蟠踞する共產軍は大兵を擁して秦の地位を占めてゐる。遠く南方の廣東廣西は昔時の吳越の狀勢にある。従つて南京政府は實際古の楚と同地位である。江蘇浙江を根據とし、唯古の韓魏の故國今の安徽河南を併せ古の吳越即ち浙江、江西から廣東廣西派を追つて古の閩粵即ち今の福建廣東廣西方面に残骸を止めしめて居ると見れば大抵見當はつく。

昭和十二年の西安に於ける蒋介石と共產軍の妥協は、楚が盟主となつて晋齊趙燕を率ゐて潼關に秦と會盟したあの春秋時代の有名な會合と類似して居る。廣東廣西の蒋介石の合流策も古の楚が宿敵吳越と握手したに同じだ。若し夫れ閻錫山が中心となり宋哲元、韓復榘、傅作義、商震等を糾合して北支聯盟を作り一時西共產軍に對抗し南

蒋介石に拮抗したのは、恰度燕趙魏韓が周旋して晋齊を握手せしめた連衡策の近代化と解して差支ない。故に蒋介石の南京政府の統一なるものは完全なる中央政府の確立ではなく各獨立政権の聯盟に過ぎなかつた。一朝事あれば直ちに各政権分裂對峙の形勢となるのは明白だ。恰度春秋時代に或は齊の桓公、或は晋の文公、或は秦の穆王、或は楚の莊王を中心として合従又は連衡が行はれ、時々變動する各種の聯盟が出来たのと同である。換言すれば現代の支那は矢張り春秋列國と同様に群雄割據の時代であり、政權對峙の時代であり。古の列國今の各政権の離合集散は共に型を同じくし依然として支那なる統一國家は事實上存在しないのである。

斯の如き支那の内部の實情、即ち蒋介石の命令は揚子江兩岸八省に及ぶに過ぎざる真相は別として、歐米列國は國際交渉の必要上、春秋時代の覇者に等しく唯優勢なる盟主の地位を有する蒋介石政権を認めて、中央政府として承認した。そして中華民國なる擬制上の國家を承認したのだ。それは混沌なる支那にも國家としての國際法上の義務を負はしむる爲に又權利をも附與したのである。日本も亦同様の立場から蒋介石の南京政府を承認してゐたのだ。だから南京政府が中央政府としての存立、中華民國が國家としての存在も、實際上日本や米英佛獨伊の如き近代國家として嚴存する事實に基づくのでなくて、外部からの承認即ち國際上の便宜から出來た擬制的存在であるといふも過言ではあるまい。

これだけの真相認識があれば南京没落後の蒋介石政府は日本の關する限り最早中央政府と認めないを聲明し従つて交渉の相手方としないを決定しても何等不思議はないのだ。六ヶ敷條約論や國際法の原則を引出さずとも常識的



に簡明に諒解出来ると思ふ。

此の支那の真相を東洋通たる英國は認識しながら、英國の在支權益擁護の爲、蔣介石政府積極的援助の政策を行ふ爲、態と知らぬ顔をして或は國際聯盟で或は九國會議で日本を支那政府の主權侵害者とか、中華民國なる國家の破壊者も非難してゐる。殊更に法理論條約論を振りかざして、支那の實體、政情の真相に眼を蔽はんとしてゐるものである。

これと同じ立場に在る蘇聯はこの支那の實體と政情をよく認識して巧に支那に干渉し其認識を勝手な行動に移してゐる。例へば南京政府成立後にも滿洲では張作霖や張學良を獨立政權と認めて條約を結ばば妥協もし戦争もしてゐる。更に外蒙では外蒙共和國を作り支那より完全に獨立せしめてゐる。新疆に於ては外國人は素より支那人すら排斥して半獨立の國家少くとも獨立の領域を建造しつゝある。即ち頭から支那全體を統一せる國家、劃然たる領土として取扱つてゐない。南京政府も中央政府として認めて居らないのだ。併し此の支那認識も深い、そしてその認識を率直に行動に移して勝手氣儘を遣つてゐる蘇聯が、英國と共に國際聯盟や九國會議で日本を支那國家に對する侵略者なりと屬るに至つては苦笑せざるを得ない。若し夫れ滿洲事變に就て聯盟脱退迄進んだ際我松岡全權が「支那は完全な國家でない。變態の國家だ」と喝破したのも實に此の支那の實體を表明したに過ぎないのだ。

### 三、英佛の態度の矛盾

支那事變に關する英佛二國の態度は最近十年間の彼等の支那の實體認識から見ると前後大いに矛盾してゐるものがある。

一九二二年華盛頓會議中極東問題委員會で佛國の一委員は「支那とは何ぞや」といふ奇問を發して支那側全權を啞然たらしめたことがある。其時支那委員顧維鈞は支那の國權回復の爲に關稅自主權回復、治外法權撤廢、外國の駐兵權廢止を主張し、特に日本に對して支那國家の主權侵害の張本人たるが如く熱罵した最中であつたので、會議は異常の光景を示した。そこで顧は起つて「支那とは憲法によつて明白に定つた中華民國の全領土を指す」と頗るアカデミツクな苦しい答辯をしたので、一同思はず吹出して此の問題を笑殺してしまつたことがある。蓋し顧の答辯程支那の實情と懸離れた説明はないからだ。外國全權の腹の中では支那が統一せる領土を有する完全國家であるならば今露西亞に操縦されて居る外蒙の上に支那は完全な領土權を行つて居るか。英國の操縦して居る西藏も完全な支那領土か。新疆には支那の統治權が完全に行はれて居るか。滿洲に獨立國家の姿をなしてゐる張作霖の政權はどうかと突込んでやりたかつたであらう。が此詰問の代りに哄笑を以てしたのだ。處が此の有名な「支那とは何ぞや」の奇問を發した同じ國の委員が、華盛頓會議の延長といふべき一九三六年のブラツセル九國會議で支那は完全なる統一國家であるといふ立前を支持し、日本は滿洲國において更に今度は北において支那の主權を侵害せるもので華盛頓條約の違反者であると非難してゐるのを見て、當時華盛頓會議に參列し、彼の支那に關する奇問と哄笑を目撃した筆者は故に善意か佛國及英米諸國の前後の態度及認識の矛盾の甚だしいのに苦笑せざるを得ない。

英國に至つては其態度聲明において最近十五年間に顯著な矛盾をなしてゐる。一九二七年蔣介石が北伐に成功して漢口に容共政府を建てた時である。英國は蔣の軍隊の包圍威壓に堪へずして漢口、九江、鎮江等の專管居留地即ち英國が永年築き上げた根據地を涙を飲んで放棄した。増長した蔣介石軍は更に上海をも回収せんじし、愈々最後の重要根據地上海迄も危しと見るや、英國は憤然として二萬の大軍を上海共同居留地に上陸せしめ、列國の共同の敵を撃退する爲に戦ふのだからとて列國の協力を求めた。特に我國に對しては日英同盟破棄後にも拘らず共同出兵を要請した。然るに一九三三年日本が上海危しと見て出兵し、一九三七年亦同様自國の權益擁護並に支那の挑戰擊破の爲に出兵するに至つて、如何なる態度を英國官民は執つたか。前回の出兵當時松岡全權は英人に向つて「日本は列國共同の利益の爲に戦つて居るのに日本のみ獨り非難せられる」と言明したのは正に英國出兵の時と同意味を述べたに過ぎなかつたが、英國官民は苦笑を以て迎へたのみだ。第二回の出兵に關して松井軍司令官は我出征軍の目的を言明して獨り日本の權益のみならず上海共同居留民の安全をも防禦するものなることを説述したが、英國の官民は同様に苦笑を以て聞くだけであつた。否我軍の行動に種々の故障を與へた。上海出兵に對する英國の態度聲明の前後の矛盾は斯の如くである。

今一つ英國は上海出兵に付き列國の協力に訴へた際の公文書中に「蔣介石政府は果して正當なる國民運動の上に成立せる正當な政府なりや疑ひなき能はず」といふ意味の聲明をして居る。これは正しき支那の認識であり南京政府の實體の暴露であつた。今や當時の英國同様に蔣介石政府及軍隊の威壓挑戰に對して憤然として立つた日本に對

しての英國の態度はどうであるか。近衛首相は「日本は支那の國民を敵とするものではない、抗日挑戰の南京政府及其の軍隊を敵とするものである」と喝破したのは半面に於て日本は南京政府が果して正しき支那國民の總意を代表して日本に挑戰せるものとは思はない。南京政府は支那の正當な民意を基礎として行動して居るものでないと言明して居るのだ。之れは正に英國の出兵の際と同一の認識の下に同一の意味を表明してゐるのだが、今の英國官民は此の表明をも否認し日本は正當なる民意代表の蔣介石政府を攻撃し支那國民の總意を蹂躪せるものなりといふ意味で日本及日本軍の行動を非難して居る。之れ實に英國の健忘性といひ得ずんば英國の支那に對する態度と認識が餘りに前後矛盾せりといはざるを得ない。

春秋戰國時代に於て時の覇者の政治及戰爭を非難して民意を無視せる政府で天命に反くと非難した、孔子孟子の正しい批判は、恰度今の蔣介石政権にも諸軍閥にも適用せらるべきものである。筆者は益々春秋列國時代と現代支那の政府政権の實體に就て大いに類似點あるを見、支那古代史との比較研究の要切なりとの感を禁じ得ないのだ。

(昭和十三年一月稿)

## 第二章 支那の天下と歐羅巴の世界

### はしがき

皇軍の聖戰二年に亘り所謂破竹の勢ひを以て西南の要地廣東續いて蔣政權の要樞武漢三鎮も陥落し、支那の邊疆を除いては本部の大半、然も最も重要な十一省は我國の勢威の下に歸し、今やこれ等諸省の治安維持の爲め殘敵及匪賊討伐即ち清掃時代に入り、同時に南北中支にそれ／＼新政權の確立と共に、支那の復興、進んで東亞の新構成の爲の建設時代となつたことは讀者の夙に承知せられる通りである。且又舉國一致此の建設の爲に堅忍持久の決意の臍を固めて、新春を迎へられた事と確信するものである。

此の建設工作の重要な一問題は、今後支那の政權の構成を如何にするかの問題である。既に一九三八年十一月初めに南京における全國代表會議の決議の一題として聯邦を以て新支那の國家構成の基礎にすることを聲明してゐる程である。此の問題に關して新春の所感として私見を述べて見たいと思ふ。

### 一、支那は天下である國家ではない

支那國の性質については、前章に述べて置いたやうに、古の春秋戰國時代も今時の革命時代も同様に支那全土を擧げて近代國家とし完全に統一せられたことは無い。各地方に割據せる政權の集合體に過ぎないのである。古昔戰國時代には七雄國が支那の黄河の南北に於て諸侯にして各國家を稱し、漢の末には三國鼎立し、唐朝の末には地方の藩鎮が獨立して各小國家をなし、宋の後半は南北朝時代五胡十六國の存立を現出し、明の時代は中央諸州を除いては形式上朝貢の名に於て四疆の諸藩實は獨立國家と修好關係を結び、僅に天下統一の形式を備へたに過ぎない。清朝の末期から革命時代を経て蔣介石の國民政府となる迄は軍閥割據の時代であつた。統一國家を誇稱してゐた國民政府と雖も支那事變前迄の實情を仔細に検討して見れば、察哈爾河北に宋哲元、山東に韓復榘、綏遠、山西に閻錫山、陝西に共產軍、寧夏甘肅は昔からの回教徒軍、若し夫れ滿洲は獨立、外蒙古も新疆も蘇聯の勢力下に獨立又は半獨立、西藏、青海、西康は申す迄も無く、四川は四川の諸軍の群立割據、廣西は李宗仁、白崇禧、廣東は陳濟棠から余漢謀と變じて蔣政權の眼の上の瘤、雲南貴州には各地方軍閥が儼然として存在した。國民政府即ち蔣介石の最も勢威隆々たる時すら、其主權行政權の統一に行はれたのは江蘇、浙江、安徽、河南、湖北、湖南の六省に過ぎず、江西は瑞金に立籠れる共產軍を陝西に追出した後始末の最中、福建は僅に陳儀を省主席に任じて中央の制禦に歸したことは云ひながら、福建人の福建で自治政權の立場を執つて居り、支那事變の際にも此の地方軍は中央

政權の急に赴かない程である。雲南や貴州も同一の立場だ。これ等の諸軍閥諸政權は中央政府に忠誠は誓つてゐる。その實權者は政府の任命の形式は踏む、併し近代の統一國家の地方自治體とは全然異つてゐる。各政權は各自の軍隊を持つてゐる、土地税初め財政上の課税權を持つてゐる、行政は全然中央政府と獨立に行つてゐる。唯統一して全國的に中央政府に屬するものは郵税、關稅、外交と名のみの海軍である。これ等の中央の郵政は外國人の手に在るからこそ統一して行はれてゐる。關稅に至つては鹽稅も同様大部分外債の擔保となり、外國人の手によつて運用せられ、外國銀行に保管せらるればこそ、統一的に管理せられてゐる、廣東稅關の如きは一時は廣東政權に接收されてゐた。その後これを中央に返しても其收入の何割かを地方政權の手に收めたのだ。

官吏任命權の如きも形式だけのことで、地方軍閥政權に對して其政權者は勿論其の所屬官吏に對しても實際上の任免黜陟に就ては中央政府は如何にもすることが出來ないのだ。故に蔣介石の國民政府も實は揚子江兩岸の六七省にのみ其直接命令權が行はれたのに過ぎないのだ。

地方政權の軍隊並共產軍が其名稱を第八路軍と變更して中央軍と合體し、支那事變に於て抗日戰線に立つてゐるのは、單に各政權が自己保存の爲に中央軍即ち最強の蔣介石の私軍と協力しただけのことである。戰國時代に秦に對して趙、燕、齊、韓、魏、楚の六國が聯合軍を組織して戰線を張つたのと同じである。決して中央政府の統帥權に服して居るのではない。少しく戰況不利となれば中央軍と地方軍と共產軍と責任の塗り合ひをやり、内部の軋轢をやるのは、獨立國家の特色即ち國防權が一つの主權者の手に統帥せられて居ない證據だ。

斯の如く統一國家としての支那の構成は實質上存在してゐない。これは四千年此の方向様である。眞に支那が統一したと稱せらるゝのは、漢の武帝迄百年、唐の初期八十年、宋の初期四五十年、元の時代、清朝三代の百年、併せて四百年に足らぬ間である。四千年の歴史中其十分の一の間である。それも其版圖と稱せらるゝ邊疆は朝貢し歸服したと稱するが、實は此邊疆諸國は或は貿易の利益の爲に、或は侵略を恐るゝ爲に、今日行はれる不可侵條約を結んだといふに似てゐる。單に修好の使節を支那本部に送つただけだ。それを支那側では屬領國が朝貢したと稱したに過ぎない。其最も著るしい例は、我國の足利時代に義滿將軍が當時財政難殊に貨幣の缺乏の爲、日本で一般に通用してゐた永樂錢を明國から獲得する爲に又貿易の爲に日本國王に任ずる封冊を明から受けたが、此の行動は如何にも國辱であつたにせよ、彼はまさか眞面目に日本を支那の屬領にするとは考へも及ばなかつたであらう。明國と修好の約をなしたと考へたかも知れぬ。兎に角支那歴代の正史に見ゆる封冊や朝貢は程度の差こそあれ此の類であつたのだ。支那の帝王が國民に威容を示す爲に、内々使者を以て修好使の派遣を懇願しながら表面は四國の諸蕃皆來り朝貢すと誇稱したのに過ぎない。

蔣介石中央政權に對する新疆、西藏さては共產軍次いで四川、雲南、貴州、廣東、廣西は更なり、北支那の諸政權も内實は殆ど中央軍と對等に、謂はゞ不可侵條約を結び相互間の争鬭を避け、一時對日抗戰の爲に聯合軍を組織したものだと思へば間違はない。

そこで「四千年來支那に形式上は知らず實質上完全に統一國家をなしたことはないのだ」と斷言しても過ではあ